

教材案と授業実践の報告

- 1 尺八をふいてみよう _____1
【教材案①】 [小・中学校/表現] 尺八をふいてみよう [2](#)
<授業事例①> 阿波市立久勝小学校6年生 [3](#)
- 2 尺八ってどんな音? _____10
【教材案②】 [小・中学校/鑑賞] 「胡茄(こか)の歌」をきいて [11](#)
<授業事例②> 徳島市加茂名南小学校6年生 [12](#)
- 3 ことをひいてみよう _____24
【教材案③】 [小学校低学年/表現 (基本)] よびかけあそびをしよう [25](#)
【教材案④】 [小学校低学年/表現 (基本)] 音の高さをかんじとろう [26](#)
【教材案⑤】 [小学校低学年/表現 (発展)] みのまわりの音をことにつくろう [28](#)
【教材案⑥】 [小学校中学年/表現 (基本)] 3つの音の高さを感じ取ろう [30](#)
【教材案⑦】 [小学校中学年/表現 (基本)] 正しいリズムでことを演奏しよう [31](#)
<授業事例③> 阿波市立八幡小学校4年生 [33](#)
【教材案⑧】 [小学校中学年/表現 (発展)] 自分の気持ちを言葉にしてふしをつけよう [40](#)
【教材案⑨】 [小学校高学年/表現 (基本)] 音の上がり下がりを感じて演奏しよう [42](#)
【教材案⑩】 [小学校高学年/表現 (基本)] 日本の音階を感じ取って演奏しよう [43](#)
【教材案⑪】 [小学校高学年/表現 (発展)] 身のまわりの様子を箏で表現しよう [45](#)
<授業事例④> 石井町高原小学校6年生 [46](#)
- 4 ことってどんな音? _____53
【教材案⑫】 [小学校低学年/鑑賞] いい音みつけて ―日本のうた「お正月」― [54](#)
【教材案⑬】 [小学校低学年/鑑賞] いい音みつけて ―日本のうた「虫のこえ」― [55](#)
<授業事例⑤> 阿波市立伊沢小学校3年生 [56](#)
【教材案⑭】 [小学校中学年/鑑賞] わらべうたの音階に親しもう「うさぎ」 [63](#)
<授業事例⑥> 阿波市立市場小学校3年生 [64](#)
【教材案⑮】 [小学校中学年/鑑賞] 日本音階の美しさを感じ取ろう「さくらさくら」 [69](#)
【教材案⑯】 [小学校高学年/鑑賞] 日本音階の美しさを感じ取ろう「子もり歌」 [70](#)
【教材案⑰】 [小学校高学年/鑑賞] 日本音階の美しさを感じ取ろう「越天楽今様」 [71](#)
- 5 箏を楽しもう _____72
【教材案⑱】 [中学校/表現] 箏を楽しもう ―箏で奏でる「浜辺の歌」― [73](#)
<授業事例⑦> 徳島市徳島中学校2年生 [74](#)
【教材案⑲】 [中学校/表現] 箏を楽しもう ―お箏でマンボ NO.5― [81](#)
<授業事例⑧> 美馬市立穴吹中学校2年生 [85](#)

6 箏曲を味わおう	89
【教材案⑳】[中学校/鑑賞] 箏曲を味わおう ―箏で描かれた情景を想像しよう―	90
<授業事例⑨> 徳島市北井上中学校1年生	91

参考資料

7 尺八ってどんな楽器？	105
---------------------	------------

- 尺八の伝来 [105](#)
- 尺八というネーミング [105](#)
- 尺八と虚無僧 [106](#)
- 尺八の新しい世界 [106](#)
- 本曲と外曲 [106](#)
- 尺八の各部の名称 [107](#)
- 尺八の構えかたと基本奏法 [108](#)
- 尺八の譜本 [109](#)
- 音名対照表 [110](#)
- 尺八についてのQ&A [111](#)
- 「尺八入門 ～1音からひろげよう～」 [113](#)

8 箏ってどんな楽器？	119
--------------------	------------

- 箏の伝来 [119](#)
- 「こと」と「箏」と「琴」 [119](#)
- 箏の各部の名称 [120](#)
- 箏の弦について [120](#)
- 箏を弾くための準備 [121](#)
- 箏爪のつけ方 [122](#)
- 調弦の合わせ方 [123](#)
- 箏の基本奏法 [124](#)
- 口唱歌（しょうが） [124](#)
- 箏の持ち方・立てかけ方・しまい方 [125](#)
- 箏についてのQ&A [126](#)
- 「おこと入門 ～1音からひろげよう～」 [128](#)

引用・参考文献	133
----------------	------------

編集後記	135
-------------	------------

- 伝統音楽普及促進支援事業を終えて [135](#)
- 伝統音楽普及促進支援事業教材作成研究委員会 [137](#)
- 徳島県邦楽邦楽協会 実演家マップ [138](#)

1 尺八をふいてみよう

- 小・中学生を対象とする尺八の表現領域の教材作成に取り組みました。

教材案① [小・中学校/表現] 尺八をふいてみよう

- 教材案①を使って、授業を実施しました。

授業事例① 阿波市立久勝小学校6年生

研究委員

佃 伸一（つくだ・しんいち）

元小学校教員・竹保流尺八

清水 露保（しみず・ろほ）

徳島県邦楽協会・竹保流尺八

【教材案①】 [小・中学校／表現] 尺八をふいてみよう

対象児童生徒	小学校6年生
題 材	尺八をふいてみよう
学習のねらい	尺八や箏の生の演奏を鑑賞したり，尺八の演奏体験をすることで，尺八がどのような楽器でどのような音色なのか，尺八で演奏する音楽がどのようなものかを知らせる。尺八に親しみを持たせ，和楽器や伝統的な音楽に対して関心を持たせる。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	A 表現（2）器楽の活動 ウ 楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。 B 鑑賞（1）鑑賞の活動 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして，楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。 B 鑑賞（2）鑑賞教材 ア 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽や諸外国の音楽など文化とのかかわりを感じ取りやすい音楽，人々に長く親しまれている音楽など，いろいろな種類の楽曲 〔共通事項〕 音色，音の重なり
教材	^{つるのすごもり} 「鶴之巢籠」 ^{えちごさんや} 「越後三谷」 「春の海」 「ふるさと」 「ジングルベル」 「尺八入門 ～1音からひろげよう～」 （指導資料23）
学習の流れ （児童生徒の活動）	1 尺八について話を聞く。 2 尺八の音を聴く。 3 尺八をふいてみよう。 4 本時のまとめをしよう。
指導のポイント （教師の留意点）	・ 鑑賞の活動や演奏体験を通して，和楽器に対する興味を引き出す。 ・ 尺八の様々な奏法が生み出す音色の違いを感じ取らせる。
備 考	

<授業事例①> 阿波市立久勝小学校6年生

指導・報告者 佃 伸一（元久勝小学校）
金山 由美（久勝小学校）
実演家 清水 露保（竹保流尺八）
西野 笙保（竹保流尺八）
遠藤 綾子（沢井箏曲院）

(1) 授業の概要

題 材 尺八をふいてみよう
日 時 平成24年12月18日
場 所 阿波市立久勝小学校（音楽室）
対 象 阿波市立久勝小学校6年生（32名）

(2) 指導にあたって

近年、日本の伝統音楽に親しむ人は少なくなっている。伝統音楽は、私たちが長年親しみ育んできたものであることを思うと、とても残念に思う。

今日、普段の生活の中で伝統音楽に触れる機会はほとんどない。テレビなどで「和風」の味付けをしたい場面で、三味線や尺八の音が使われていることがある。私たちは、その音が三味線であり尺八の音であることを意識しなくても「和」の感覚が呼び起こされる。私達は、和楽器の音を聴くと「和」の感覚が呼び起こされる感性をまだ失ってはいない。今回の授業では伝統音楽のよさに気づき、その奥深さの一端に触れさせたい。

本授業では、和楽器の中でも特に尺八をとりあげての授業をする。尺八を使った様々な曲を聴かせたり、実際に尺八に触れることで、尺八独特の奏法や特徴的な音色に気付かせ、その楽しさ、面白さ、そして奥深さを感じさせたい。それが尺八、そして伝統音楽を身近なものであると考えるきっかけになればと期待している。

(3) 指導計画

1. 目標

尺八に親しみを持たせ、和楽器や伝統的な音楽に対して関心を持たせる。

2. 展開

分	児童の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
10	1 尺八について話を聞く。 ○ 尺八が、古くから日本で演奏されてきた楽器であることを知る。	○ 本時の講師(実演家)の紹介。 ○ 和楽器にはどんなものがあるか。尺八, 三味線, 箏, 琵琶, 和太鼓, 鼓, 横笛(篠笛, 龍笛)等。 ○ 古くから日本に伝わり正倉院にもあること, 素材が竹であること, 名前の由来(1尺八寸), 長さの違う尺八があり, 長い尺八は低い音が出ること, 指穴は5つあり, ドレミ…全ての音を出すことができることなどを実演とともに説明する。	
20	2 尺八の音を聴く。 尺八の特徴的な奏法や音色を聴き, 自分なりの感想を持つ。 ○ 尺八を使った曲を聴き, 感想を持つ。	○ 澄んだ音色, ムラ息, メリ, カリ等。 ・ 「鶴 <small>つるのすごもり</small> 之巢籠」 ・ 「春の海」 ・ ポピュラーソング「石川五右衛門のテーマ」, 童謡等。	・ CD
20	3 尺八をふいてみよう。 ○ 音が出せるようにする。 ○ 出すことができた音で曲を吹いてみる。	○ 尺八を扱うときの注意点, 構え方, 息の出し方などを説明し, 音が出せるように指導する。	・ 「尺八入門 ~1音からひろげよう~」(指導資料23)
10	4 本時のまとめをしよう。 ○ 尺八の音や曲, 聞いた感想をワークシートにまとめる。	○ ワークシートを使って, 本時のまとめをさせる。	・ ワークシート(指導資料1)

3. ワークシート

(指導資料1) ワークシート [小・中学校/表現] 尺八をふいてみよう

音楽科ワークシート 「尺八をふいてみよう」	
名前：	
1. 今日の授業は楽しかったですか？	(1)とても楽しかった (2)まあまあ楽しかった (3)楽しくなかった
2. 尺八の音楽をきいて、どう思いましたか？
3. 尺八の音は出ましたか？	(1)よく出た。 (2)少し出た。 (3)出なかった。
4. 尺八をふいてみて、どう思いましたか？
5. これから尺八の音楽をきいたり、尺八をふいてみたいと思いますか？	(1)尺八の音楽をもっときいてみたい。 (2)尺八をもっとふいてみたい。 (3)あまり興味（きょうみ）はない。
6. 尺八や、日本に昔から伝わる楽器(音楽)について、もっと知りたいことや、質問したいことがあれば書いてください。

(4) 授業の記録

活動の実際	児童の反応
<p>1 尺八について話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 尺八が、古くから日本で演奏されてきた楽器であることを知る。 <p>2 尺八の音を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 尺八の特徴的な奏法や音色を聴き、自分なりの感想を持つ。 ○ 尺八を使った曲を聴き、感想を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 尺八が正倉院の宝物の中にもあるという話など、興味深そうに聞いていた。 ○ ムラ息、メリ、カリ、玉音^{たまね}など尺八の特別な奏法は印象深かったようだ。「鶴之巢篋^{つるのすごもり}」ではそんな奏法を聴き取ろうと集中して聴いていた。 ○ ジングルベルなどなじみのある曲は楽しそうだった。また、現代の曲も尺八で演奏できることは少し驚きだったようだ。また、なじみのある曲の方がより楽しそうだった。 ○ 「春の海」は前時の授業でCDで聴いていたが、やはり生演奏の方が印象深かったようだ。また、箏の演奏は1曲だけだったが、子供達は興味を持ったようだ。
<p>3 尺八をふいてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音が出せるようにする。 ○ 出すことができた音で曲をふいてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音が出ないと「出ないよ。無理。」などといいながら、それでも楽しそうに、粘り強く練習を繰り返していた。 ○ 音が出るといかにもうれしそうで、友達や先生に聴いてもらいに来た。 ○ 音が出た子も出なかった子も、それぞれ楽しそうに、尺八への興味は深まったようだ。
<p>4 本時のまとめをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 尺八の音や曲、ふいた感想をワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートでは、ほとんどの児童が「楽しかった」と答えていた。 ○ ほとんどの児童が尺八や和楽器、伝統音楽に興味を持ったようだ。

(5) 児童の感想

授業後のアンケートでは、「授業がとても楽しかった」と答えた児童が26名、「まあまあ楽しかった」と答えた児童が4名、「楽しくなかった」と答えた子どもはいなかった。

♪ 尺八の音楽を聞いてどう思いましたか。

「とてもきれいで、リコーダーの音とにっていたけど音がちがいで、昔の音だと思った。」

「尺八とことの音楽が生で聞けてよかった。ことの音もきれくて感激した。」

「とても音が美しく、メリ、カリ、音色（日本独特）がすごくきれいな音だった。」

もっと尺八をふいてみて、尺八のおもしろさを体験したい。」

「尺八で今の曲をふいているのを聞いても、どこか昔のような風景が浮かんでとてもなつかしさを感じた。」

「尺八は高い音を出すんだなと思った。美しい音色だなと思った。」

「昔ながらの曲で、好みだった。」

「やっぱり日本という感じがして、とてもうれしかった。」

「せん律や音色に感動した。色んな音の出し方で、色んな曲がふけることを知った。」

♪ 尺八をふいてみて、どう思いましたか？

「すごく頭が痛くなったり、息がしづらくなったりしたけど、しゃくれアゴのポーズをしたらふけてびっくりした。」

「とても難しかったけど、たまに音がたくさん出ておもしろかった（楽しかった）。」

「すごくむずかしかった。尺八をふけるのがすごいと思った。」

「むずかしくて、楽しかった。」

「楽しかったけど、ずっとふいていると頭がくらくらしました。音が出たのでうれしかったです。」

「とてもふき方が難しかったけれど、おもしろかった。また機会があったらふいてみたい。」

「音はぜんぜんでていなかったけど、楽しかった。」

♪ 尺八や、日本に昔から伝わる楽器(音楽)について、もっと知りたいことや、質問したいことがあれば書いてください。

「もっと日本の楽器について調べてみたいです。」

「尺八が、どのように日本まで伝わってきたか知りたい。」

「ことのひき方をもっと知りたい。」

「いろいろな音色があり、日本独特の音色を知りたいと思った。」

「いろいろな音を出してみたい。」

「もっと尺八などの、日本古来からの楽器についての理解を深めたい。」

「尺八は色々な寸があるのに、何ですべて尺八というんですか。」

(6) 考察

- ・ 児童に興味を持たせることができた。

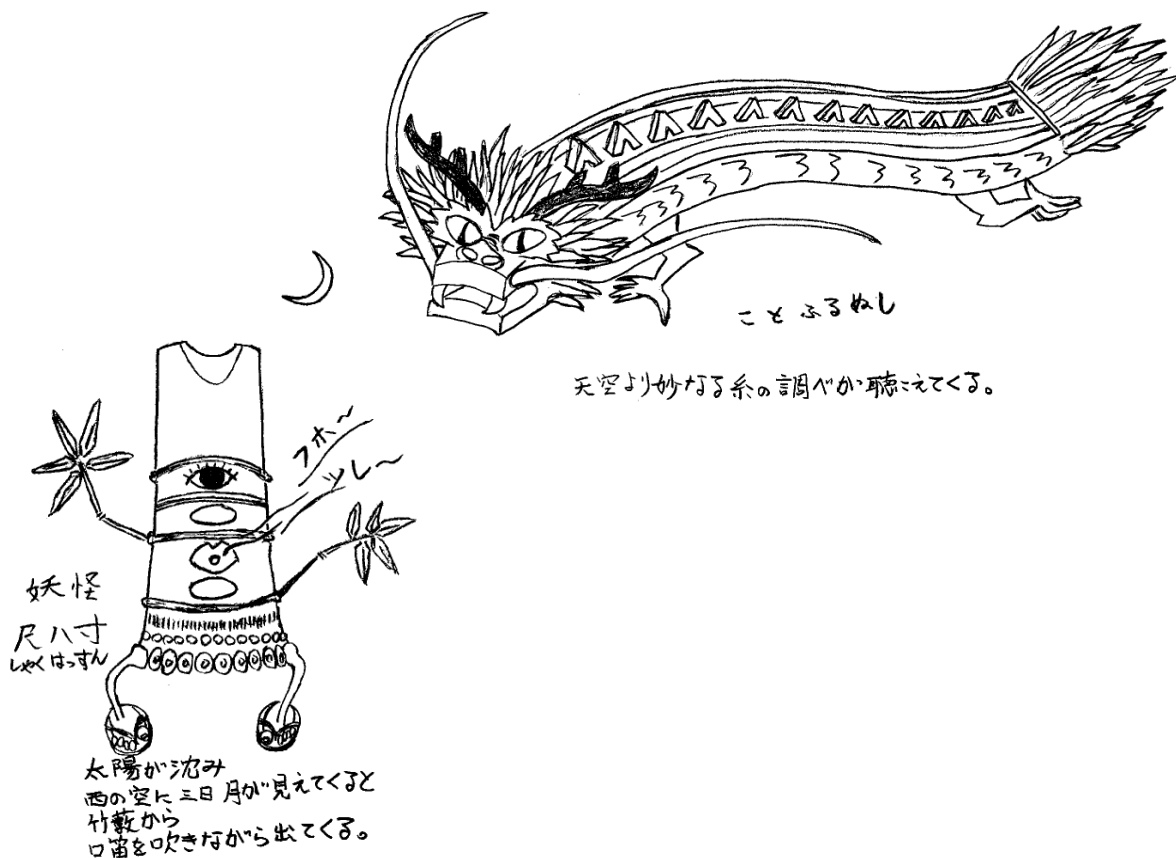
子ども達は最後まで集中力を欠かさず、興味を持って授業を受けることができた。授業後のワークシートでも、ほとんどの児童が楽しかったと答えている。また、今後も尺八の曲を聴いたり、もっとふいてみたいと答えている児童も多かった。生で演奏を聴かせたことと、尺八を吹く体験を取り入れたことがよかったのだと思う。

- ・ 尺八以外の和楽器にも興味が広がっている。

今回の授業では、尺八の演奏が中心だったが「春の海」は箏と一緒に演奏した。箏の演奏は1曲だけだったが子供達には強く印象に残ったようだ。また、授業の中で使ったCDに琵琶の音が入っていたが、それも印象に残ったようで、ワークシートの中で琵琶について質問している児童がいた。鑑賞したり体験する機会をうまくつくることができれば、子ども達の興味はどんどん広がっていくのだと感じた。

- ・ 実演家による指導

今回は尺八の実演家が中心になって授業をすすめた。西洋楽器にはない尺八の特徴や魅力がある程度は伝えることができたのではないかと考えている。



授業を始める前は、子ども達が伝統音楽や尺八にどの程度興味を示すのか、尺八の魅力をうまく伝えることができるかどうか不安だった。しかし、授業を始めると、思いのほか子ども達は熱心に尺八の学習に取り組んでいた。日本の尺八人口は急激に減っているが、一方、海外では尺八のよさが認められ、愛好者の人口が増えている傾向がある。日本の伝統文化が外国で認められるのはうれしいことであると同時に、肝心の日本でそれが失われてしまっただけではいけない。子ども達の学習の様子を見て、これからも学校教育の場において、尺八の魅力を伝えられる機会が増えればと身にしみて感じた。

佃 伸一

学校現場の音楽教師は、伝統音楽の指導をしなければ・・・でもどう指導したらいいのかわからない。伝統音楽の指導はしたいけど・・・自分は演奏できないので指導ができないと思っている人が多いのではないだろうか。

現に私自身も、これまでに実演家を招いて箏の指導を実践したことはあるが尺八の指導をしたことはなかった。しかし、今回の実践で、小学校でも尺八の表現・観賞の指導が可能であるということが実証できた。やはり、実演家の方々の生の演奏が子ども達の心に響き活動の意欲が持続した。また、音が出て出なくても本物の尺八を吹く体験ができたことは、子ども達に満足感を持たせることができるということも分かった。さらに、邦楽協会の実演家の方々が伝統音楽の普及を切に願っているので、依頼すれば快く、学校現場に指導に来ていただけるということもありがたい。

今回の実践で、小学校でも箏だけでなく尺八の指導も可能であるということが実証できたので、今後は進んで伝統音楽の指導に取り組んでいきたい。そして、ますます小学校でも伝統音楽の指導が普及促進していくことを願っている。

金山 由美

久勝小学校6年生31名に尺八の生の音色を体験してもらい、関心を持ってもらう目的で、音楽の授業に参加した。はじめに、尺八を見たことがあるか、音をきいたことがあるかと質問したところ、誰も手をあげなかった。昔は時代劇などで、尺八を見たり聴いたりする機会があったが、放送自体が減り、子ども達が尺八を見聞きする機会が減っているのかもしれない。音にしても、アニメなどで効果音として使われているぐらいで、説明してはじめて尺八の音色だとわかってもらった。生徒たちに尺八の持つ色々な音色を聴いてもらい、古典本曲の「鶴之巢籠」「越後三谷」の一部分と「春の海」、童謡等を鑑賞してもらった。その後、実際に尺八で簡単な曲を演奏するためにつくった楽譜集「尺八入門 ～1音ずつひろげよう～」を使って、演奏体験をしてもらった。生徒たちは一生懸命音を出そうと頑張ってくれた。なかなか音が出なくて、息を吹き過ぎて、しんどい、頭がくらくらすると言いながらも目をかがやかせ、また音が出ると出来たと嬉しそうに声を上げた。授業後のアンケートでも、大半の生徒が楽しかった、またやってみたくて書いてあった。そんな子ども達の様子を見て、この活動が継続して行えたら良いなと思う一日だった。

清水 露保

2 尺八ってどんな音？

- 小・中学生を対象とする尺八の鑑賞領域の教材作成に取り組みました。

教材案② [小・中学校／鑑賞]「胡茄^{こか}の歌」をきいて

- 教材案②を使って、授業を実施しました。

授業事例② 徳島市加茂名南小学校6年生

研究委員

小川 雅功（おがわ・まさのり）

徳島市加茂名南小学校

西野 筈保（にし の・こうほ）

徳島県邦楽協会・竹保流尺八

【教材案②】 [小・中学校／鑑賞] 「胡茄^{こか}の歌」をきいて

対象児童生徒	小学校6年生
題 材	「胡茄 ^{こか} の歌」をきいて
学習のねらい	生の演奏鑑賞や簡易楽器の試奏により尺八の音色に親しみ、漢詩をもとに作曲された思いのこもった楽曲の鑑賞を通して、和楽器や邦楽作品への関心を高める。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	<p>A 表現（2）器楽の活動 ウ 楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。</p> <p>B 鑑賞（1）鑑賞の活動 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。</p> <p>B 鑑賞（2）鑑賞教材 イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、聴く喜びを深めやすい楽曲 〔共通事項〕 尺八の音色，強弱，速さ，反復，縦と横の関係</p>
教材	「胡茄 ^{こか} の歌」野村正峰作曲（尺八・箏二重奏曲），リコ八
学習の流れ (児童生徒の活動)	<p>第1時 リコ八を試奏したり，生の尺八の音を聴くことにより，尺八の音に慣れ，耳慣れた曲の尺八演奏を鑑賞する。</p> <p>第2時 尺八の音色や鑑賞のポイント1（音楽のつくり）に気を付けながら「胡茄^{こか}の歌」を鑑賞する。</p> <p>第3時 尺八の音色や鑑賞のポイント2（こめられた思い）に気を付けながら「胡茄^{こか}の歌」を鑑賞する。</p>
指導のポイント (教師の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲の構造に気を付けながら鑑賞する。 ・ 尺八の音色や音楽にこめられた思いに気を付けながら鑑賞する。
備 考	この題材は学習指導要領A表現（2）のウ「楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。」及びB鑑賞（1）のウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして，楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。」と関連付けて，B鑑賞（2）のイ「音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく，聴く喜びを深めやすい楽曲」を取り上げて学習を進める。

<授業事例②> 徳島市加茂名南小学校 6 年生

指導・報告者 小川 雅功 (徳島市加茂名南小学校)
実演家 西野 笙保 (竹保流尺八)
清水 露保 (竹保流尺八)
佃 伸一 (竹保流尺八)

(1) 授業の概要

題材 尺八ってどんな音? ～^{こか}胡茄の歌をきいて～
日時 平成25年12月2日
場所 徳島市加茂名南小学校 (音楽室)
対象 徳島市加茂名南小学校6年生 (27名)

(2) 指導にあたって

本学級の児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。新しい楽器や楽曲への関心も高く、できるようになるまで熱心に取り組んだり、できるようになった友達の演奏にも耳を傾けている。感想の中にみられる気付きや文章表現も6年生という発達段階に到達していることを感じさせるものが多い。

また、子どもたちは6年間の音楽の学習を通して、様々な楽器の音色を鑑賞してきている。しかし、日本古来の楽器である尺八や箏の音を生で耳にする機会は少ない。また、CMやTV番組等で流れるそれらの音も邦楽作品としてではなく、雰囲気を表すための効果音などであることが多く、邦楽作品としてひとまとまりの音楽を聴く機会は少ない。そこで、本題材では実演家を招き、生の尺八の音にふれさせる。また、尺八に発音方法を似せた簡易楽器 (リコ八) の演奏に取り組むことにより、尺八の演奏のおもしろさ、表現力の高さに気付かせる。また、子どもたちにとってわかりやすい思いのこもった邦楽作品をとりあげ、音楽の構成に目が向くように支援することで、関心を持続させて、邦楽作品をゆっくり鑑賞させたい。それぞれの思いを伝え合う場を設定することで、和楽器や邦楽作品への関心を高めたいと考え本題材を設定した。

本題材で扱う鑑賞教材「^{こか}胡茄の歌」(野村正峰作曲)のもととなる漢詩「^{こか}胡茄の歌」は盛唐の詩人岑参(しんしん)が都を離れる友人の顔真卿(がんしんけい)にあてて送った別離の詩である。親友と別れる(一生の別れ)寂しさ、思い出が綴られている。この漢詩をもとにして尺八奏者野村正峰はこの曲を作曲した。

演奏時間は13分と長い曲であるが、4部に分かれている。第1部は箏の伴奏による序奏に始まる。大きな拍に細かい拍を重ねて5連符や9連符として演奏している点が特徴的である。第2部に入って演奏されるテーマからは軽快な中にも別離への寂しさが伝わってくる。遠くへ赴任する友の任地への思いを想像させるようなスケールの大きなメロディである。第3部はうってかわってゆっくりとなり、友への気遣いを歌い上げる。尺八の様々な演奏技法も取り入れられている。最後の第4部は再び箏の軽快な導入により展開されるが、受ける感じはさらに寂しさが増し、いよいよ別れという感じがする。4つの場面の楽曲の特徴をつかんで、全体をつくりを感じ取れるように支援したい。

漢詩についても6年生の児童は国語科において触れてきている。鑑賞のポイントとして漢詩にふれ、内容を紹介する。あわせて「^{ろうらん}桜蘭」「^{こんろんせん}崑崙山」のような中国の名勝を紹介することにより顔真卿の旅を実感できるようにする。このことで作詞者岑参の思いにつながるものとなり、曲にこめられた「寂しさ」という思いを感じ取らせるための支援とする。

(3) 指導計画

年間50時間（第6学年）という限られた時間の中で邦楽作品に触れるという時間はこれまでであれば1時間か2時間程度であった。しかし、鑑賞と演奏を組み合わせることや、邦楽作品の教材分析を進め、音楽の諸要素を見いだすことで、1つの題材として授業を構成することは可能だと考えた。今回は演奏家による鑑賞などの体験も含めて次のような3時間を考えてみた。

1. 目標

- 第1時 リコ八を試奏したり、生の尺八の音を聴くことにより、尺八の音に慣れ、耳慣れた曲の尺八演奏を鑑賞する。
- 第2時 尺八の音色や鑑賞のポイント1（音楽のつくり）に気を付けながら「胡茄^{こか}の歌」を鑑賞する。
- 第3時 尺八の音色や鑑賞のポイント2（こめられた思い）に気を付けながら「胡茄^{こか}の歌」を鑑賞する。

2. 展開

第1時

分	児童の活動	教師の支援、支援上の留意点	準備物等
10	1 尺八名人（実演家）の話を聞く。	1 今回の学習の内容を伝え、3名の実演家を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ リコ八（児童の人数分） ・ 尺八をふいてみよう「尺八入門～1音からひろげよう～」(指導資料23) ・ 振り返りワークシート（指導資料2）
15	2 リコ八に挑戦 ○ 音を出したり、簡単な楽譜を演奏したりする。	2 楽器を紹介し、音の出し方を伝える。 ・ 息を出す方向、ねらいをつけるところ等を伝える。 ・ 実演家にも協力してもらい個別に指導する。	
10	3 実演家の演奏（お話） ・ 奏法についての説明 ・ 模範演奏	3 児童といっしょに演奏を聴く。 適宜解説していただく。	
10	4 尺八の鑑賞 ○ これまでに耳慣れた曲「島唄」を鑑賞する。	4 児童の知っている曲の尺八による演奏を鑑賞する。	

第2時

分	児童の活動	教師の支援、支援上の留意点	準備物等
10	1 リコ八に挑戦 ○ 尺八らしい奏法を取り入れて簡単な楽譜を演奏する。	1 音の出し方を伝える。 ・ 息を出す方向、ねらいをつけるところ等を伝える。 ・ 感じを出して演奏している児童を取り上げ模範とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ リコ八（児童の人数分）
15	2 「胡茄 ^{こか} の歌」を鑑賞する。	2 曲名、作曲者等を知らせ、全曲を鑑賞する。	

15	3	鑑賞のポイント1(音楽のつくり)に気をつけながら聴く。 ○ 鑑賞のポイント1(音楽のつくり)を楽譜などで確かめながら鑑賞する。 ・ 第1部を鑑賞する。 ・ 第2部を鑑賞する。 ・ 第3部を鑑賞する。 ・ 第4部を鑑賞する。	・ 楽曲の構成を捉えられるようにする。 3 鑑賞のポイントを示しながら部分的に鑑賞する。 ・ 5連符や9連符 ・ テーマの演奏, 軽快な短調 ・ テンポの変化演奏技法 ・ 繰り返し	・ 振り返りワークシート(指導資料2) ・ 楽譜「胡茄の歌」など(指導資料3)
5	4	本時の学習を振り返る。	3 リコ八の技法や鑑賞曲のおもしろさを振り返る。	

第3時

分	児童の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
10	1 リコ八に挑戦 ○ 尺八らしい奏法を取り入れて簡単な楽譜を演奏する。	1 音の出し方を伝える。 ・ 息を出す方向, ねらいをつけるところ等を伝える。 ・ 感じを出して演奏している児童を取り上げ模範とする。 ・ メリ, カリ, ムラ息	・ リコ八(児童の人数分)
10	2 鑑賞のポイント1(音楽のつくり)に気をつけながら振り返る。 ○ 鑑賞のポイント1(音楽のつくり)を楽譜などで確かめながら鑑賞する。 ・ 第1部を鑑賞する。 ・ 第2部を鑑賞する。 ・ 第3部を鑑賞する。 ・ 第4部を鑑賞する。	2 鑑賞のポイントを示しながら部分的に鑑賞する。 ・ 5連符や9連符 ・ テーマの演奏, 軽快な短調 ・ テンポの変化演奏技法 ・ 繰り返し	・ 振り返りワークシート(指導資料2) ・ 楽譜「胡茄の歌」など(指導資料3)
20	3 「胡茄の歌」の作曲のもととなった漢詩にふれ, 鑑賞のポイント2(こめられた思い)を鑑賞のポイント1(音楽のつくり)と重ね合わせながら, 「胡茄の歌」を鑑賞する。	3 音楽にこめられた思いを文字, 写真で示しながら1曲通して鑑賞する。	・ 中国西域をイメージさせる写真(指導資料4) ・ 顔真卿の書(指導資料5)
5	4 本時の学習を振り返る。		・ 振り返りワークシート(指導資料2)

3. ワークシート

(指導資料2) ワークシート [小・中学校/鑑賞] 「胡茄^{こか}の歌」をきいて

音楽ワークシート 6年 組 名前 ()

- リコ八…ふいてみてどうでしたか？リコ八名人の佃先生や尺八名人の西野先生・清水先生に教えてもらったことをメモしましょう。

- リコ八の八って尺八のことだったのね…尺八の音もきかせていただいたし、こんな尺八の演奏もきいてみましょうか。

題名(知ってる曲だよわかるかな→)

- 尺八の音ってどんな感じですか？気付いたことを書きましょう。

- リコ八も音が出せるようになって…次は尺八のために書かれた曲をきいてみましょうか。

- 曲名は…

- 作曲者は…

- 作曲者の野村正峰（のむらせいほう）さんが娘さんのお婿さん（尺八の名人）のためにこの曲を書いたんだって。とても長い曲ですが、4つの部分に分かれているのでまずは少しずつきいてみましょう。

- 第1部（先生の話ヒントに気付いたことがあったら書いてね。）

- 第2部

- 第3部

- 第4部

- これが曲のもととなった「胡茄の歌」です。

胡茄歌 岑参

君不聞胡茄聲最悲
 紫髯綠眼胡人吹
 吹之一曲猶未了
 愁殺樓蘭征戍兒
 涼秋八月蕭關道
 北風吹斷天山草
 崑崙山南月欲斜
 胡人向月吹胡茄
 胡笳怨今將送君
 秦山遙望隴山雲
 邊城夜夜多愁夢
 向月胡笳誰喜聞

国語の勉強で出てきた漢詩による詩です。読み方は…意味は…作者は盛唐の詩人岑参（しんしん）という人が都を離れる大の友人顔真卿（がんしんけい←今みんなが書いている書写の手本となった人）にあててつくりました。じゃあ顔真卿はどこへいくのか、同じ中国じゃないか…そうじゃないのよね…

- 岑参（しんしん）はどんな気持ちでこの詩を書いたでしょう。（いろいろ想像してみてくださいね。）

- と考えてみると、この前きいた「胡茄の歌」もう一回きいてみたいくありませんか。確か、音楽は4つに分かれていて…岑参（しんしん）の思いと尺八の音色をあわせて最後に鑑賞しましょう。

- 学習を振り返って…短い時間でしたが、「尺八の音色」の学習はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。尺八の音色…けっこう良いものでしょ。

4. 楽曲について

野村正峰作曲「胡茄の歌」を取り上げる。「胡茄の歌」は盛唐の詩人岑参（しんしん）が都を離れる友人の顔眞卿（がんしんけい）にあてて送った漢詩である。親友と別れる（一生の別れ）寂しさ、思い出が綴られている。この漢詩をもとにして尺八奏者野村正峰が作曲した曲を鑑賞する。

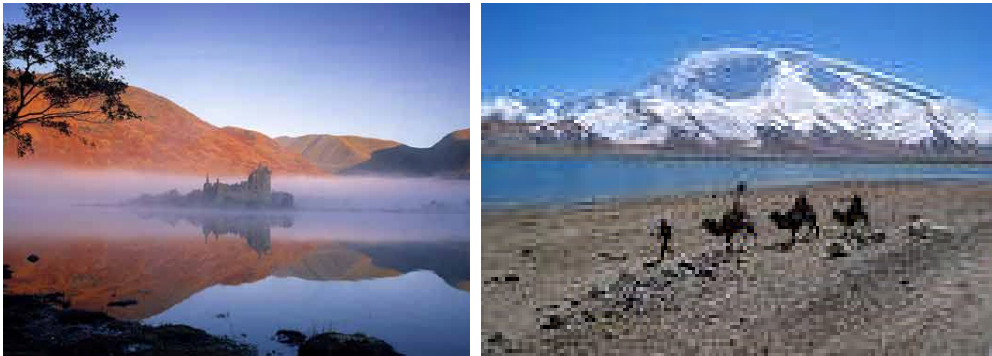
（鑑賞のポイント1）演奏時間は13分と長い曲であるが、4部に分かれている。第1部は箏の伴奏による序奏に始まる。大きな拍に細かい拍を重ねて5連符や9連符として演奏している点が特徴的である。第2部に入って演奏されるテーマからは軽快な中にも別離への寂しさが伝わってくる。遠くへ赴任する友の任地への思いを想像させるようなスケールの大きなメロディである。第3部はうってかわってゆっくりとなり、友への気遣いを歌い上げる。尺八の様々な演奏技法も取り入れられている。最後の第4部は再び箏の軽快な導入により展開されるが、受ける感じはさらに寂しさが増し、いよいよ別れという感じがする。市販されている都山流の楽譜を見ると強弱、テンポ、くり返しといった音楽の要素がわかりやすい。最後まで通しての鑑賞が可能であれば、（目標とする）4つの場面の特徴、そして楽曲全体のつくりといったところまで感じることができれば、6年生の鑑賞としては100点満点だと考える。

（鑑賞のポイント2）漢詩について6年生の児童は季節にあわせて国語科において触れてきている。小学校の国語科では具体的な解釈は行わないが、仮名交じり文にしたときの響きや原文を視写するような活動である。鑑賞のポイントとして別添資料のような漢詩を見せ、内容を紹介したい。あわせて「桜蘭」「崑崙山」のような中国の名勝を紹介することにより顔眞卿の旅を実感できるようにする。このことが作詞者岑参の思いにつながるものとなり、曲にこめられた「寂しさ」という思いを感じ取らせるための支援となる。

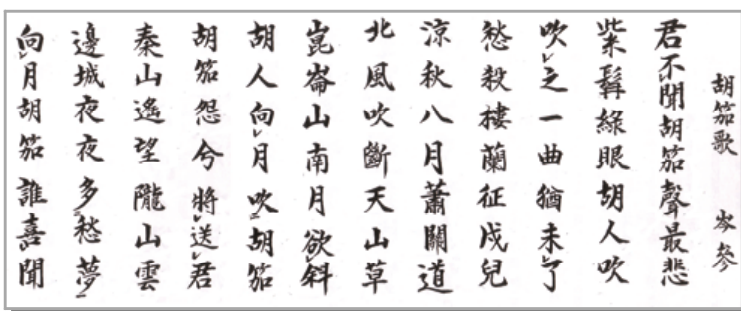
（指導資料3）楽譜（序奏部）[小・中学校／鑑賞]「胡茄の歌」をきいて

野村正峰作曲 胡茄の歌 （尺八イ音） 楽譜のよびづか									
一 尺八									
コト									
二 尺八									
コト									
三 尺八									
コト									
四 尺八									
コト									
五 尺八									
コト									
六 尺八									
コト									
七 尺八									
コト									
八 尺八									
コト									
九 尺八									
コト									
十 尺八									
コト									
十一 尺八									
コト									
十二 尺八									
コト									
十三 尺八									
コト									
十四 尺八									
コト									
十五 尺八									
コト									
十六 尺八									
コト									
十七 尺八									
コト									
十八 尺八									
コト									
十九 尺八									
コト									
二十 尺八									
コト									

(指導資料4) 掲示物 (中国西域をイメージさせる写真) [小・中学校/鑑賞] 「胡茄の歌」をきいて



(指導資料5) 掲示物 (顔真卿の書) [小・中学校/鑑賞] 「胡茄の歌」をきいて



顔真卿君よ、ききたまえ、胡茄のあの悲しい音色を。あれは赤いひげ青い眼をした胡人がふいているのです。

笛がまだ一曲終わらないうちに、^{ろうらん}桜蘭地方の守備に赴く若い兵士達の心をひどく悲しませる。今やすず風のふく秋8月、君が行くであろう蕭關の道には北風が天山の草をふきちぎらんばかりにふきまくっているだろう。

また、^{こんらんざん}崑崙山の南に月が傾きかける頃、胡人が月に向かって胡茄をふきならすであろう。

今その胡茄の悲しい調べをはなむけに君の門出を送ろう。ここ秦山あたりから君が赴く隴山にかかる雲をながめながら。

あの雲の下あたり、辺境の町で君の結ぶ夢は望郷の愁いにとざされることだろう。そんな夜、月に向かってふいている胡茄の音色を誰が喜んできくだろうか。

胡 茄	胡人がふく蘆の葉を巻いて作った笛
君	唐の忠臣であり書家としても有名な顔真卿 (がんしんけい 709-785)
河 隴	河西 (かさい=甘肅省武威) と隴右 (ろうゆう=青海省西寧=さいない) の略=備考欄で解説の本題にあり
紫緑眼	赤ひげに青い眼の西域からきた異人の容貌
胡 人	北方や西方の異民族
愁 殺	ひどく悲しませる 「殺」は強意の助字
樓 蘭	漢代に新疆 (しんきょう) ウイグル自治区のロブノール湖あたりにあった国
征 戍 兒	遠征して辺塞の守備にあたった若い兵士
蕭 關	今の寧夏 (ねいか) 回族自治区固原にあった関所 西域への交通の要衝
吹 斷	ふきすさぶ 「斷」は強意の助字
天 山	河西回廊 (かせいかいろう) の南に横たわる祁連 (きれん) 山脈
秦 山	陝西省から甘肅省に続く山 秦嶺ともいう
邊 城	辺境の町

(4) 授業の記録

第1時

活動の実際	児童の反応
<p>1 尺八名人(実演家)の話聞く。</p> <p>○ 西野先生, 清水先生, 佃先生それぞれが, いろいろな尺八を見せながら, 尺八の種類, 歴史などについて話をする。</p> <p>2 リコ八に挑戦</p> <p>○ 児童の人数分準備したリコ八を配布する。リコ八の由来について説明を聞いた後, 実際に挑戦する。西野先生, 清水先生, 佃先生とともに個別に音の出し方を指導する。</p> <p>3 実演家の演奏(お話)</p> <p>○ 西野先生, 清水先生, 佃先生それぞれが, 実際に演奏しながら尺八の奏法について説明する。メリ, カリについては清水先生が演奏しながら, 西野先生が説明する。ムラ息, 玉音, などについても実際に児童が耳にする場面を例としてあげながら説明した。</p> <p>その後, 伝統的な曲として「鶴之巢籠」, 児童になじみのある曲として「さんぽ」(尺八2重奏)を演奏する。</p> <p>4 尺八の鑑賞</p> <p>○ 最後にCDを鑑賞した。鑑賞曲は「島唄」を尺八で演奏したものであった。生の演奏を聴いた後なのでどうかとは思ったが, 「島唄」は運動会で他の学年が取り入れていた曲で, まとめとして聴かせた。</p>	<p>○ 尺八の歴史, 種類, 音の出し方などについてメモを取りながら話を聞いていた。</p> <p>○ 熱心に取り組んでいるが, なかなか音がでない児童が多かった。数分して音が出ると歓声が上がる。配布した「尺八入門～1音からひろげよう～」(指導資料23)に取り組む児童, 既習曲を演奏しようとする児童が現れ, 学習は一気に活発化した。</p> <p>○ 特にメリ, カリ, ムラ息, 玉音, などの技法には思わず声をあげる児童もいた。「鶴之巢籠」は一部分を鑑賞したが, 演奏中に尺八の技法を見付けることが容易にできた。「さんぽ」についてはこんな曲(現代曲)も演奏することができるということが新鮮な発見のようであった。</p> <p>○ これも尺八だったのかという声が多く聞かれた。</p>

第2時

活動の実際	児童の反応
<p>1 リコ八に挑戦</p> <p>○ 児童により個人差が生じているが, 音を出すということを目標にして活動に取り組んだ。</p>	<p>○ 音が出ている児童は「尺八入門～1音からひろげよう～」(指導資料23)をすすめていた。なかなか音が出ない児童に個別指導を行ったところ, 息を出す方向, リコ八の角度, 息の強さなどについての指導が効果的にはたらき, 音が出せた時の反応はとてうれしそうだった。</p>

<p>2 「^{こか}胡茄の歌」を鑑賞する。</p> <p>○ 作曲者と演奏形態（尺八・箏二重奏曲）以外、楽曲についての説明はせず、全体の音楽のつくりに気を付けて聴くよう指示をし、全曲を鑑賞する。</p> <p>3 鑑賞のポイント1（音楽のつくり）に気をつけながら聴く。</p> <p>○ 鑑賞のポイント1（音楽のつくり）を確かめながら鑑賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1部の鑑賞…竹保流の楽譜を掲示し、西洋楽譜と比較したり、連符に着目させて演奏を確認した。 ・ 第2部の鑑賞…西洋音楽では既習の短調、長調に着目させ、テーマとして登場するメロディを聴いた。 ・ 第3部の鑑賞…ゆっくりの部分で現れる尺八の技法を回想しながら聴いた。 ・ 第4部の鑑賞…くり返し登場するテーマと鑑賞のポイント2（こめられた思い）に想像を働かせながら聴いた。 <p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○ 楽曲が4つの部分から構成されていることについては、簡単に見つけた。音楽全体から「悲しい感じ、さみしい感じ」といった曲想を感じ取っている。長い曲であるが、最後まで静かに聴き入っていた。</p> <p>○ 縦書きの楽譜には一様に大きな反応があった。しかし、速度についての記述や表現についての記述を発見するにつけ、西洋音楽の楽譜との類似点を見付け、より関心が高まったようであった。</p> <p>○ 楽譜を示しながら、4つの部分を鑑賞したことで音楽全体のつくりをおおまかに把握できた様子であった。</p> <p>○ 尺八の技法については前時に教えていただいた「メリ」「カリ」「ムラ息」^{たまね}「玉音」が登場し、前時の学習が活かされた。</p>
--	---

第3時

活動の実際	児童の反応
<p>1 リコ八に挑戦</p> <p>○ 音はまほ全員が出せるようになったので、息の強弱で変化を出して感じが出るようにと指導した。児童はプリントの曲を全部演奏しようがんばっていた。</p> <p>2 鑑賞のポイント1（音楽のつくり）に気をつけながら振り返る。</p> <p>○ 前時の学習を思い出しながら鑑賞する。</p> <p>3 「^{こか}胡茄の歌」の作曲のもととなった漢詩にふれ、鑑賞のポイント2（こめられた思い）を鑑賞のポイント1（音楽のつくり）と重ね合わせながら、「^{こか}胡茄の歌」を鑑賞する。</p> <p>○ ^{がんしんけい}顔真卿と^{しんしん}岑参との関係について、どのような悲しさ、寂しさかと問うことによって鑑賞への思いを高め、鑑賞を深めようと考えた。</p> <p>○ 漢詩の内容について ^{こんろんさん}崑崙山、^{ろうらん}楼蘭について説明を聞いた後、イメージを膨らませる写真を見る。</p> <p>○ 音楽のつくりを書いた板書を見て、音楽全体のイメージに着目させながら、全曲を鑑賞する。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>○ ワークシートによる振り返りとした。</p>	<p>○ 上手に音を出している児童を取り出して音や演奏方法に着目させようとしたが、奏法に大きな違いは認められなかった。←奏者による音色の違いに着目させてもおもしろかったと思う。</p> <p>○ 部分的に鑑賞を進めることで前時の学習をふりかえっていたと思われる。</p> <p>○ ^{しんしん}岑参の思いが鑑賞する前の予想通り、「悲しい、寂しい」に関連したものであることに気付いていた。国語や社会科の学習と関連付けてとらえようとしている児童も見られた。</p> <p>○ 漢詩の内容についておおむね理解できたようであった。イメージを高める写真も効果があった。</p>

(5) 児童の感想

はじめは息づかいがうまくいかずに音が出なかったが、次第に音が出始めると「出た！」と歓声が上がった。さらに、息づかいによって音が変わる体験をすると、互いに「おおっ」と感心し合っていた。子どもたちは尺八の音に強く惹かれたようだ。



♪ 第1時

「なめらかな感じ、他にもいろいろな音を出しているので少しずつ感じはちがうけど、きく人が心をうばわれるような音を出しているいろいろすごいと思う。」

「リコーダーよりもしぶい音がきこえていていかにも和風という感じがした。」

「尺八は、昔の音楽も今の音楽もふけるんだなあと思いました。」

「低めの音しか出ないと思っていたから、けっこう高い音も出る。ことなどの楽器とのかさなりがきれいだと思った。」

「音色がものすごくひびいてすごかった。ふつつの島唄より感動的な曲にきこえた。」

「尺八で島唄をきくと普通の島唄よりかっこいい感じが出ていた。リコーダーとまたちがう音できれいだった。」

「耳に残る音がする。音量の変化がすごい。ひくい音も高い音もすごくきれい。その時の場面が分かる音だった。」

♪ 第2時

「はじめの部分は本当に悲しそう。岑参さんの顔真卿さんへの思いが伝わってくる。音量の変化でさらに思いが伝わってくる。速くなった部分は大泣きしているイメージが頭に浮かんできた。一度思いはおちつくけどまたはげしく泣いてしまうような感じ。」

「リコーダーは少し息をふきかけると音ができるけど、尺八は少し息をふきかけても音がでない。だから尺八をしている人はすごくて、きれいな音ができるんだなと思った。もっとリコ八をふいてみたいです。」

「第2部で岑参は仲のいい友達と別れる悲しさを曲にしている。悲しさを表すために激しいところと静かなところを尺八で表していると思う。第4部でまたくり返されているのは本当に仲のよい友達と別れたくないんだなと思った。岑参は友達思いの人。」

「最初の1はすごく悲しそうにしていた。なんとかひきとめようとした。2は今までの思い出を思い出しているようにきこえた。3はすごくおちこんでいる。4はなんとかひきとめようとしたがさいごには行ってしまい、かなしんだと伝わってきた。」

(6) 考察

- ・ リコ八は効果的

尺八体験をより効果的にする上でも、実際に楽器にふれることは有効であったと思われる。3時間の授業の中でそれぞれ10分程度の活動であったが、児童は熱心に取り組んでいた。また、尺八の奏法や音の感じに目を向けさせる意味でも効果的であった。

- ・ 実演家による尺八の演奏効果は鑑賞に役立っている。

リコ八との相乗効果で尺八の技法に目が向いたように思われる。特に第2時の3の活動では3の部分の鑑賞で児童から「メリ」「カリ」などの言葉が出てきたことには驚かされた。実演家によるご指導のたまものである。

- ・ 尺八による表現に興味を覚えている子どもは多かった。

鑑賞曲の中でも単なる鑑賞ではなく、具体的な演奏の姿を想像しながら鑑賞をすすめられたことは良かった。表現豊かな鑑賞曲を取り上げたことにより奏法を含めて尺八の音へ好感をもった児童が多く見られた。

- ・ 漢詩との関連は違和感なく

鑑賞曲と関連する漢詩、社会的事象との関連は違和感なく伝えることができた。今後は、より効果的に伝えるために、内容を精選して授業をすすめる必要がある。

- ・ チームティーチングの妙

1年間にわたって共同で題材を作成してきたことで、実演家とのチームティーチングがうまく機能し、学習を効果的に進められたと考える。

実演家の皆さんとの出会いは私にとって一番の宝物です。なんといっても邦楽を生で聴く機会が増え、邦楽の作品にも数多くふれました。それはつまり音楽の新しい見方を教えていただいたことだと思います。尺八実演家のみなさんの「しびい、味がある」という演奏の意味が少しは理解できたような気がします。ただ、このことは小学生に直ちに理解することは不可能だと思われます。(同じように感じ、表現する子はいましたが)。美しい音、華々しい演奏がともすれば第一義として捉えられることが多い中で、このような感覚を得られたことは今後鑑賞の学習を進めていく上で大きなプラスになると思いました。

第32回徳島県小学校音楽教育研究大会では、箏と尺八の生演奏による「春の海」の授業が行われました。また、第44回中国・四国音楽教育研究大会山口大会の授業でも地元の実演家を迎えて歌唱（地域に伝わる歌）の授業が行われました。後者の研究会でも話題となったのですが、授業の中でどのように実演家を生かすのか、（生かすというと授業者である我々の側から見た考え方となりますが）、今回のような題材づくりから共同研究をすすめ、チームティーチングとして授業をすすめられたことは大きな成果だと思っています。我々教員が目指すところと実演家の皆さんが目指すところは方法の違いはあれ、同じ「音楽を愛好する気持ちを育てる」ということです。いろいろな問題をのりこえて、このような取り組みがさらに進むことを望みます。

また、年末には反省会も兼ねて西野先生、清水先生、佃先生に原稿を見ていただきました。その会で佃先生がおっしゃっていたことが一番印象に残りました。それは今後どのようにこのプログラムや尺八に触れる機会が残されていくのかということでした。本事業の取り組みは、本当によかったと思います。でも、これだけでは尺八の普及にはとても近づきそうもありません。そこで佃先生は「指導者がいなくなっても、尺八クラブなどこの授業が残っていくようにしてほしい」とおっしゃいました。早々にこの希望を管理職に伝え、来年度からの「尺八クラブ」新設に向けて取り組んでみようと思います。

小川 雅功

まず、学校の先生方が非常に熱心に取り組まれたことに感謝をいたします。3年間を通して一緒に作成したこの教材が、子ども達に実用可能であることを立証できて、とてもうれしく思いました。私達が選んだこの曲は、低学年・高学年関係なく気持ちの伝わる曲ではないでしょうか。小川先生が実に良く調べ抜かれて、私達もよく演奏している曲ではありますが、先生の説明を聞き、そうだったのかとあらためて勉強になることばかりでした。授業では、子どもたちが目を輝かせて取り組み、尺八の長さによって音の高さ・低さが違うことや、伝統的な曲だけでなく五線譜曲も楽しめること、またリコーダーとは違う音の出し方など、尺八の特徴が理解できたと思います。

これをきっかけに、今後も尺八の授業を継続していただき、実技等、学校で十分な指導が困難な場合は、邦楽協会に依頼していただければ、何時でもお伺いしたい気持ちです。そして、今回作成した教本が次年度へといかせれば幸いです。

西野 筈保

尺八を学校の音楽の授業に取り入れる研究を、私も学校の先生方や、尺八の先生と、鑑賞の分野で勉強しました。

日本人で有りながら日本の音楽が、学校の子供たちに理解出来ていないのでは、本当に困ると思います。

しかし尺八は他の管楽器に比べて大分変わっています。同じ原理で音が出るフルートは、管楽器で一番子供たちに人気のある楽器ですが、尺八とは、形も材質もあまりにも違いすぎます。尺八音楽を鑑賞するだけでしたら、簡単ですが、やはり実際に触って音を出し、音楽をしないと、本当に理解できたとはいえません。

どのように授業に取り入れるか難解な問題が沢山ありますが、良い研究発表が出来て成果が出ますように期待します。

山上 明山

3 ことをひいてみよう

- 小学生を対象とする箏の表現領域の教材作成に取り組みました。

教材案③ [小学校低学年／表現（基本）] よびかけあそびをしよう

教材案④ [小学校低学年／表現（基本）] 音の高さをかんじとろう

教材案⑤ [小学校低学年／表現（発展）] みのまわりの音をことで表現しよう

教材案⑥ [小学校中学年／表現（基本）] 3つの音の高さを感じ取ろう

教材案⑦ [小学校中学年／表現（基本）] 正しいリズムでことを演奏しよう

教材案⑧ [小学校中学年／表現（発展）] 自分の気持ちを言葉にしてふしをつくろう

教材案⑨ [小学校高学年／表現（基本）] 音の上がり下がりを感じて演奏しよう

教材案⑩ [小学校高学年／表現（基本）] 日本音階を感じ取って演奏しよう

教材案⑪ [小学校高学年／表現（発展）] 身のまわりの様子を箏で表現しよう

- 教材案⑦⑪を使って、授業を実施しました。

授業事例③ 阿波市立八幡小学校4年生

授業事例④ 石井町高原小学校6年生

研究委員

清水 美穂（しみず・みほ）

石井町高原小学校

美馬 三八子（みま・みやこ）

阿波市立八幡小学校

内田 道子（うちだ・みちこ）

徳島県邦楽協会・宮城会

【教材案③】[小学校低学年／表現（基本）] よびかけあそびをしよう

対象児童生徒	小学校1・2年生
題 材	よびかけあそびをしよう
学習のねらい	拍のながれにのってよびかけあそびをする。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	A 表現（1）歌唱の活動 工 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。 A 表現（2）器楽の活動 工 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。 〔共通事項〕 拍の流れ、問いと答え
教材	よびかけあそび「○○ちゃん」「はあい」
学習の流れ (児童生徒の活動)	1 よびかけあそびをする。 2 手をたたきながらよびかけあそびをし、拍の流れを感じ取る。 3 よびかけあそびを箏で弾く。 4 友達の手拍子に合わせて、拍の流れを感じ取りながら演奏する。 5 よびかけあそびリレーをし、友達の演奏を聴き合う。
指導のポイント (教師の留意点)	・ よびかけあそびでしっかりと遊ばせた後で、学習に発展させる。 ・ 箏の弦のひき方について指導する。
備 考	2時間で扱う。

【教材案④】〔小学校低学年／表現（基本）〕音の高さを感じとろう

対象児童生徒	小学校1・2年生
題 材	音の高さを感じとろう
学習のねらい	2つの音の高さの違いを感じ取って演奏する。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	A 表現（1）歌唱の活動 ア 範唱を聴いて歌ったり，階名で模唱したり暗唱したりすること。 A 表現（2）器楽の活動 ア 範奏を聴いたり，リズム譜を見たりして演奏すること。 〔共通事項〕音色，旋律
教材	「だるまさんが ころんだ」
学習の流れ (児童生徒の活動)	1 「だるまさんが ころんだ」で遊ぶ。 2 教師が「だるまさんが ころんだ」の旋律を1つの音で唱えるのをきき，「だるまさんが ころんだ」は2つの音（高い音と低い音）でできることに気付く。 3 手を動かして高低を表現しながら「だるまさんが ころんだ」を歌う。 4 「だるまさんが ころんだ」を箏で表現し，声と箏の音を合わせる。 5 友達と聴き合う。
指導のポイント (教師の留意点)	・ 「だるまさんが ころんだ」でしっかりと遊ばせた後で，学習に発展させる。
備 考	2時間で扱う。

(指導資料6) 楽譜 [小学校低学年/表現 (基本)] よびかけあそびをしよう

よびかけあそびをしよう



七 六 七 七 六 七
○ ○ ちゃん は あ い

(指導資料7) 楽譜 [小学校低学年/表現 (基本)] 音の高さを感じとろう

だるまさんがころんだ

わらべ歌



七 > > > > > 六 > 七
だ る ま さ ん が こ ろ ん だ

調弦は、花雲調子に合わせます。

花雲調子 (民謡音階)



一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 斗 為 巾

※ 伝統的には、実音を2度下げて調絃します。(五=D)

【教材案⑤】〔小学校低学年／表現（発展）〕 みのまわりの音をことで作ろう

対象児童生徒	小学校1・2年生
題 材	みのまわりの音を こと で つくろう
学習のねらい	身のまわりの音に気付き，箏で表現する。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	A 表現（3）音楽づくりの活動 ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。 〔共通事項〕音色，旋律
教材	
学習の流れ (児童生徒の活動)	<ol style="list-style-type: none"> 1 耳をすまして，身のまわりの音を聴く。 2 見つけた音を発表する。 3 箏でつくった音（例）を鑑賞する。 4 箏で作りたい音を絵や文でワークシートに書く。 5 箏を使って身のまわりの音をつくる。 6 友達の演奏を聴き合う。 7 感想をワークシートに書く。
指導のポイント (教師の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞をする時に，箏でいろいろなひき方ができ，それによっていろいろな音が出ることに気付かせる。 ・ 箏でいろいろな音が出せる楽しさを味わわせるようにする。
備 考	2時間で扱う。

みんなのまわりの音を がっきで つくってみよう。

(たとえば こんな音)

風の声



犬のなき声



① つくりたい音を絵や文で書いてみましょう。

② ともだちと ききあって かんそうを つたえましょう。

() さんの 音を きいて

【教材案⑥】 [小学校中学年／表現（基本）] 3つの音の高さを感じ取ろう

対象児童生徒	小学校3・4年生
題 材	3つの音の高さを感じ取ろう
学習のねらい	3つの音の高さの違いやを旋律の流れを感じ取って演奏する。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	A 表現（1）歌唱の活動 ア 範唱を聴いたり，八長調の楽譜を見たりして歌うこと。 A 表現（2）器楽の活動 ア 範奏を聴いたり，八長調の楽譜を見たりして演奏すること。 〔共通事項〕 音色，旋律
教材	「かりかり わたれ」
学習の流れ (児童生徒の活動)	1 「かりかり わたれ」で手をつないで遊ぶ。 2 前半と後半の音の違いに気付く。 3 3つの音の高さの違いを感じ取り，手で音高を表しながら歌う。 4 歌に合わせて，箏を演奏する。 5 友達の演奏を聴き合う。
指導のポイント (教師の留意点)	・ 前半が2音で，後半が3音になっているという曲の構成に気付かせるようにする。
備 考	2時間で扱う。

【教材案⑦】〔小学校中学年／表現（基本）〕正しいリズムでことを演奏しよう

対象児童生徒	小学校3・4年生
題 材	正しいリズムでことを演奏しよう
学習のねらい	四分音符と八分音符の違いに気をつけて箏を演奏する。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	A 表現（2）器楽の活動 工 互いの楽器の音や副次的な旋律，伴奏を聴いて，音を合わせて演奏すること。 〔共通事項〕リズム
教材	「なべなべそこぬけ」
学習の流れ (児童生徒の活動)	<ol style="list-style-type: none"> 1 「なべなべそこぬけ」で遊ぶ。 2 手をたたきながら歌い，「なべなべそこぬけ」は四分音符と八分音符でできていることに気付く。 3 リズムを合わせて「なべなべそこぬけ」を箏で弾く。 4 友達の手拍子に合わせて，リズムを感じ取りながら演奏する。 5 友達の演奏を聴き合う。
指導のポイント (教師の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拍たたきやリズムたたきをしっかりとさせた後で，箏で演奏させる。 ・ 音高とリズムの両方が歌と合うように練習させる。
備 考	2時間で扱う。

(指導資料9) 楽譜 [小学校中学年/表現 (基本)] 3つの音の高さを感じ取ろう

かり かり わたれ

わらべ歌

七 六 七 六 七 > > 七 六 > 五 七 > >
かり かり わたれ おおきな かりは さきに

七 六 > 五 七 六 五 七 六 七 六 七 > >
ちいさな かりは あとに なかよく わたれ

(指導資料10) 楽譜 [小学校中学年/表現 (基本)] 正しいリズムでことを演奏しよう

なべ なべ そこぬけ

わらべ歌

七 六 七 六 七 > > >
なべ なべ そこぬけ

七 六 > > > 八 > 七 > > 六 七
そこがぬけたら かえりましょ

調弦は、花雲調子に合わせます。(27ページ参照)

<授業事例③> 阿波市立八幡小学校4年生

指導・報告者 美馬 三八子(阿波市立八幡小学校)
実演家 内田 道子(宮城会)
島本 美保(当道音楽会)

(1) 授業の概要

題 材 3つの音の高さを感じ取ろう
日 時 平成26年3月3日(月) 3・4校時
場 所 阿波市立八幡小学校(音楽室)
対 象 阿波市立八幡小学校4年生(21名)

(2) 指導にあたって

本学級の子どもたちは、明るく素直で、いろいろなことに興味を示し、意欲的に取り組むことができる。音楽の学習においても、初めて習った楽曲をすぐに口ずさんだり、リコーダーで演奏したりして、音楽を楽しむ様子が見られる。しかし、男子は歌うことを、女子は楽器を演奏することを好む傾向が見られる。「歌うことを好きになって、いろいろな曲に親しんでほしい。」と思い、4月より音楽の時間だけでなく、機会をとらえて、みんなで歌声を響かせようと取り組んできた。最近では、リズムにのって笑顔で歌う子どもたちが、増えてきている。しかし、その歌声を聞いていると、自分の出している声と実際の音の高低のずれに気づいておらず、自分の歌う音が高いのか低いのか分かっていないように思われる児童も少なくない。子どもたちは、ドレミファソラシドの階名を音の並びとして理解してはいるが、実際の音の高低と結びつけて捉えることができていないと考える。

また、箏に関しては、「見たことはあっても弾いたことはない。」という子どもたちがほとんどである。箏の音色を意識して聴いたという経験も、ほとんどないといえる。

本題材では、箏の基礎的奏法を身につけ、箏の音色や日本のふしの美しさを知覚・感受し、演奏する楽しさを味わうことをねらいとしている。そして、箏を用いて3音からなる「わらべうた」を演奏することによって、「音の高低」を聴き取り、音が高低をもって動くことで生み出される特質(明るい、優しいなど)を感じ取ることができるようになってほしいと考える。また、3人組や全体で考え合う場をもつことによって、自分や友達の思いや考えに気づき深めるなど、思考・判断・工夫する能力を養いたい。

(3) 指導計画

1. 目標

第1時 箏の基礎的奏法を身につけ、箏の音色に関心をもち、演奏する楽しさを味わうとともに、3音からなる日本のふしに親しむ。

第2時 箏の音色や3音からなるふしの美しさを知覚・感受し、演奏の仕方を工夫する。

2. 展開

第1時

分	児童の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
5	1 箏の音色を聴いて, 感じたことを発表する。	・ 実演家の演奏により, 音色の美しさを知覚・感受させる。	・ 箏爪のつけ方の絵
10	2 箏爪のはめ方, 座り方, 弾き方など, 箏の奏法の基本事項を理解し, 正しい姿勢で箏を弾く。	・ 箏の基礎的奏法を理解させ, 正しい手の位置, 形, 弾き方などを確認させる。理解できていないと思われる児童には, 実演家とともに助言する。	
10	3 3人組で教え合いながら, 箏の奏法の基本を練習する。	・ 3人で協力し合って練習させ, 友達の音色をしっかりと聴き, 意見を出し合う。	
10	4 「七, 六, 七」を弾く練習をする。	・ 2音の音高を確認し, リズムにのって演奏できるようにする。	
5	5 「かりかりわたれ」を歌う。	・ 3音でできている, この曲の構成に気付かせ, 手で音高を表しながら歌わせる。	
5	6 3本の弦を使って「かりかりわたれ」を演奏する。	・ 3音の高さの違いを感じ取らせる。 ・ 友達の演奏を聴き, 感じたことをワークシートに記入させたり, 発表させたりする。	

第2時

分	児童の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
10	1 「かりかりわたれ」を演奏する。	・ 箏の奏法を繰り返し指導する。 ・ 曲に合った速さで演奏できるようにする。 ・ 実演家とともに, 個々の児童に適切な支援(リズム, 速度など)を与える。	・ ワークシート (指導資料11)
10	2 箏の演奏に合わせて歌い, 楽しむ。	・ お互いの演奏を聴き合い, 響きの美しさを味わって演奏できるようにする。	
10	3 伴奏の練習をする。	・ 伴奏に合う音色を考えさせ, 演奏の仕方を工夫させる。	
15	4 メロディーと伴奏に分かれて楽しく合奏し, 箏の音色の重なりを味わう。箏の音色を聴いて, 感じたことを発表する。	・ 響きの美しさを知覚・感受させる。 ・ 3人で協力し合って練習させ, 演奏する楽しさを味わうことができるようにする。 ・ 合奏をして感じたことを, ワークシートに記入させたり, 発表させたりする。	

3. ワークシート

(指導資料11) ワークシート [小学校中学年/表現 (基本)] 3つの音の高さを感じ取ろう

「かりかり わたれ」

4年 ()



- 1 友達のえんそうをきいて，感想を伝えましょう。

() さんの えんそうを きいて

- 2 合奏をして 感じたことを書きましょう。

- ・メロディーとばんそうを合わせてみて 感じたこと
- ・重なったことの音色をきいて 感じたこと

(4) 授業の記録

第1時

活動の実際	児童の反応
1 箏の音色を聴いて、感じたことを発表する。 箏爪のはめ方、座り方、弾き方など、箏の奏法の基本事項を理解し、正しい姿勢で箏を弾く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実演家の演奏（ひなまつり）を真剣に聴くとともに、一緒に歌を歌ってうれしそうだった。 ・ 音色に関する感想では、「きれいな音」「さわやかな音」「心に響く音」「昔の感じがする」などの意見が出た。
2 3人組で教え合いながら、箏の奏法の基本を練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箏の奏法の基本事項の習得においては、薬指の位置を徹底するのが難しかった。 ・ 親指にだけ箏爪をつけたが、初めての体験だったため、箏爪が気になる様子の児童が多かった。
3 「七、六、七」を弾く練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手の形や弾いた後の親指の位置などを繰り返し指導することにより、児童の弾く音に力強さが出てきた。 ・ 3人組で練習したため、始めに弾いた友達をしっかり見ていた児童は、習得が早かった。
4 「かりかりわたれ」を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習する時により「七、六、七・・・」と弦の名前で歌うと、練習しやすそうだった。 ・ 「かりかりわたれ」を歌詞や階名で歌った際、3音の音高を手で表したことにより、高さの違いを意識することができた。
5 3本の弦を使って「かりかりわたれ」を演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員「かりかりわたれ」を演奏することができた。

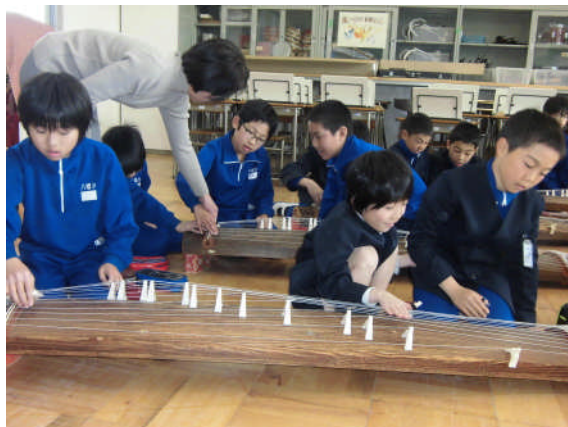
第2時

活動の実際	児童の反応
1 「かりかりわたれ」を演奏する。 2 歌と箏の合唱奏をして楽しむ。 3 伴奏の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 慣れてくると速く演奏する児童が出てきたため、歌う速さを考えて演奏するよう気を付けた。 ・ 伴奏の練習をする前に、伴奏の役割について考え、伴奏に合う音色を話し合うと、「やさしい音色」「響く音色」などの意見が出た。 ・ 一と二の弦を使って伴奏の練習をした。 ・ 伴奏は、指で弦をつまむようにして弾いた。力の入れ具合が難しいようだったが、やさしく演奏することができた。
4 メロディーと伴奏に分かれて楽しく合奏し、箏の音色の重なりを味わう。箏の音色を聴いて、感じたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3人組で、交代しながらメロディー・伴奏・歌に分かれて練習した。一人ずつに役割があったので、意欲的に取り組めた。
5 メロディーと伴奏に分かれて楽しく合奏し、箏の音色の重なりを味わう。箏の音色を聴いて、感じたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のまとめとして、1グループずつ発表した。少々つまってしまうグループもあったが、どのグループも最後まで演奏できた。

(5) 児童の感想

友達の演奏をきいて

- ♪ この音がはっきりと出ている、きれいだった。
- ♪ やわらかくひけていた。
- ♪ やさしい音で気持ちがよかった。
- ♪ さわやかな感じがして、きいていて楽しかった。
- ♪ だんだんと大きな音が出るようになっていた。
- ♪ 力強いえんそうで、いい気持ちになれた。
- ♪ この音が心にひびいてきた。
- ♪ まちがえてもいっしょうけんめいに練習していて、すごいと思った。だんだん上手になった。
- ♪ 初めてなのに、こんなにきれいにひけるのが、すごいと思った。
- ♪ 歌とよく合っていた。



合奏をして（メロディーと伴奏）



- ♪ 音が重なってきれいなひびきだった。2人の気持ちが合っていたと思う。
 - ♪ 低い音と高い音が重なって、きれいだった。
 - ♪ きれいな音がきこえて楽しかった。
 - ♪ 重なったことの音をきいて、明るいし楽しいと感じた。
 - ♪ 美しい音が心にひびいた。
 - ♪ ばんそうを入れると、にぎやかになった。一人でひいた時と感じが変わったので、おどろいた。
- ♪ やさしい感じがした。
 - ♪ 合奏はすごく楽しくて、一人でひくよりおもしろかった。音が重なったら、はく力があつた。

(6) 考察

児童にとっては箏を弾くのが初めての体験だったため、学習前、箏に対する興味・関心には個人差がみられた。しかし、まずはじめに、実演家の演奏を聴かせてもらったことにより、箏の音色に対する関心を深めることができた。どの子も、「早く箏を弾きたい。」という気持ちでいっぱいになったようだ。また、箏は、3人に1面準備したため、演奏を見る児童の態度を心配したが、協力し合って練習することができた。「友達が教えてくれて、うれしかった。」という感想も多く聞くことができた。となりで歌を歌ったり、弾く弦の名前を言ったりすることで、練習の効果が上がったようにも思われる。1時間で3音の「かりかりわたれ」を全員が演奏できたことは、児童にとっても教師にとってもうれしく、子どもたちには、満足した様子が見られた。

第2時には、伴奏を取り入れた。第1時で演奏できたと思っていた児童は、次の課題をもつことができ、意欲的に取り組めた。演奏前に伴奏に合う音色を考えさせたことによって、やわらかい音色を意識し、やさしく演奏できたと考える。また、音に幅ができ、箏の音色を楽しむことができた。各グループで発表した際には、メロディー・伴奏・歌と、一人一役あったため、どの子も達成感を味わうことができた。そして、緊張しながら真剣な表情で発表している児童、友達の演奏を真剣なまなざしで聴いている児童の姿を見ることができ、技能の習得だけでなく、仲間作りにおいても得るものがあつたと考える。

今回は、4年生になって初めて箏を体験したが、今後も5年生・6年生と系統的・継続的に学習を進めていきたい。それが、箏だけでなく、日本の伝統音楽に対する興味・関心や、伝統音楽を大切に守っていききたいという思いを高めることになるのではないか、と考える。



授業の前には、箏に対してそれほど関心を示さなかった子どもが、実演家の先生の演奏に合わせて、うれしそうに「ひなまつり」を歌う姿を見て、感動した。心から音楽を楽しんでいる姿だった。生の演奏を聴くことによって、箏という楽器やその音色のすばらしさを感じ取ることができた。

子どもたちは、今まで箏を演奏するという機会がなかったため、始めは、「かりかりわたれ」の演奏に、2時間かかるだろうと考えていた。しかし、実際に授業を始めると、子どもたちは、箏の3音に敏感に反応し、高さの違いを正確にとらえ、1時間でほぼ全員が演奏できた。箏の音色が子どもたちに親しみやすかったとともに、弦という視覚を通して、音の高さをとらえることが、容易にできたからではないだろうか。

また、伴奏をつけたことで、子どもたちの意欲を高めることができた。メロディーと違った演奏の仕方や音色は、子どもたちの心を満足させたようであった。

箏を用いた学習となると、演奏に必要な箏を準備することが難しいため、消極的になっていた。しかし、今回の授業で子どもたちの満足した笑顔を見、教師の都合で、子どもたちが「日本の伝統音楽に親しむ」、「日本の伝統音楽を味わう」機会を少なくしていたことを反省した。今後は、継続して計画的に取り組んでいきたい。そして、自分の国の音楽を自慢できる子どもたちを育てていきたい。

美馬 三八子

八幡小学校で表現教材の授業に参加させていただきました。そこには、今まで箏を見たことも聴いたこともないという子どもがたくさんいました。子どもたちは、実演家の演奏を聴いたり、実際に箏を演奏したりと楽しそうに活動していました。また実際に箏を演奏する際には、3人1組になりメロディーを弾く・伴奏する・歌うと、一人ひとりに役割を与えることで、子ども同士協力し合いながらより良い表現ができていたように感じました。

今日の子どもの周りには数多くの音楽があふれています。しかし、日本の伝統音楽を耳にしたことがない興味もないといった子どもがたくさんいるのが現実です。そこで、今回の授業のように実際に箏や尺八に触れ演奏したり、生の音を聴いたりすることで新たな発見があり、もっとやりたいという気持ちになった子どもたちもたくさんいました。「私たちの国にはこのようなすばらしい音楽がある。」と胸を張って言えるように育ててほしいものです。そのためにも、この事業を終わらせることなく継続させていくことが必要だと感じました。

島本 美保

【教材案⑧】 [小学校中学年／表現（発展）] 自分の気持ちを言葉にしてふしをつけよう

対象児童生徒	小学校3・4年生
題 材	自分の気持ちを言葉にしてふしをつけよう
学習のねらい	言葉に合うふしをつくって箏で表現する。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	A 表現（3）音楽づくりの活動 イ 音を音楽に構成過程を大切にしながら，音楽のしぐみを生 かし，思いや意図をもって音楽をつくること。 〔共通事項〕 旋律
教材	
学習の流れ (児童生徒の活動)	1 音楽づくり（例）を鑑賞し，言葉にふしをつけ，箏で演奏すること を知る。 2 自分の気持ちを言葉で表し，ワークシートに書く。 3 高い音と低い音の2音でつくることが知り，言葉に高低をつけてワ ークシートに記入する。 4 ワークシートを手がかりに，歌いながら箏で演奏し，完成させる。 友達の作品を聴き合う。
指導のポイント (教師の留意点)	・ 高い音と低い音の2音でつくることが確認させる。 ・ 言葉の抑揚と合うと歌いやすいことに気付かせる。
備 考	2時間で扱う。

自分の気持ちを言葉にしてふしをつけよう。



例

言葉：「えんそく たのしいな」



高い音 (七の弦)	え	ん	そ	く	た	の			な	
低い音 (六の弦)							し	い		

言葉：「やきゅう だいすき」



高い音 (七の弦)		き	ゅ	う	だ			き		
低い音 (六の弦)	や					い	す			

① 自分の気持ちを10文字以内で書いてみましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

② 高い音と低い音の2つの音でふしをつけよう。

高い音 (八の弦)										
低い音 (七の弦)										

③ 友だちと きき合って 感想を つたえましょう。

() さんの ふしを きいて

【教材案⑨】 [小学校高学年／表現（基本）] 音の上がり下がりを感じて演奏しよう

対象児童生徒	小学校5・6年生
題 材	音の上がり下がりを感じて演奏しよう
学習のねらい	音の上がり下がりを知覚し，旋律のながれにのって箏を演奏する。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	A 表現（1）歌唱の活動 ア 範唱を聴いたり，八長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌うこと。 A 表現（2）器楽の活動 ア 範奏を聴いたり，八長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。 〔共通事項〕 音色，旋律
教材	「あした天気になあれ」
学習の流れ (児童生徒の活動)	1 「あした天気になあれ」を歌い，いくつかの音でできているか調べる。 2 前半は音の上がりがあり，後半は音の下がりがあることに気付く。 3 音の上がり下がりを手で表しながら歌う。 4 歌のふしに合わせて箏を演奏する。 5 友達の演奏を聴き合う。
指導のポイント (教師の留意点)	・ 後半のターンタのリズムにも気をつけて演奏できるよう，支援する。
備 考	2時間で扱う。

【教材案⑩】 [小学校高学年／表現（基本）] 日本の音階を感じ取って演奏しよう

対象児童生徒	小学校5・6年生
題 材	日本の音階を感じ取って演奏しよう
学習のねらい	日本の音に親しみ、箏の演奏に慣れる。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	A 表現（2）器楽の活動 工 各声部の楽器の音や全体の響き，伴奏を聴いて，音を合 せて演奏すること。 〔共通事項〕 音階や調
教材	「さくらさくら」
学習の流れ (児童生徒の活動)	<ol style="list-style-type: none"> 1 「さくらさくら」を歌う。 2 使われている音を調べ，日本の音階の特徴を感じ取る。 3 日本のふしのよさを味わいながら歌い，繰り返すふしがあることにも気付く。 4 「さくらさくら」を箏で弾く練習をする。 5 友達の演奏を聴き合う。
指導のポイント (教師の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弦に名前があることを知らせ，弦の名前で歌わせてから弾かせるようにする。
備 考	2時間で扱う。

(指導資料13) 楽譜 [小学校高学年/表現 (基本)] 音の上がり下がりを感じ取って演奏しよう

あした天気になあれ

わらべ歌

七 七 八 七 > > 七 > > 七 六 > 七 六 七
 ゆう や け こ や け あ した て ん き に な あ れ

(指導資料14) 楽譜 [小学校高学年/表現 (基本)] 日本音階を感じ取って演奏しよう

さくら さくら

日本古謡

七 七 八 七 七 八 七 八 九 八 七 八 七 六
 さ くら さ くら の や ま も さ と ー も

五 四 五 六 五 五 四 三 七 八 九 八 七 八 七 六
 み わ た す か ぎ ー り か す み か く も ー か

五 四 五 六 五 五 四 三 七 七 八 七 七 八
 あ さ ひ に に お ー う さ くら さ くら

五 六 八 七 六 五
 は な ざ ー か り

調弦は、平調子（都節音階）に合わせます。

平調子（都節音階）

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 斗 為 巾

※ 伝統的には、実音を2度下げて調弦します。（五=D）

【教材案⑪】 [小学校高学年／表現（発展）] 身のまわりの様子を箏で表現しよう

対象児童生徒	小学校5・6年生
題 材	身のまわりの様子を箏で表現しよう
学習のねらい	身のまわりの様子を箏の音の出し方を工夫して表現する。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	A 表現（3）音楽づくりの活動 イ 音を音楽にする構成過程を大切にしながら，音楽のしくみを生かし，思いや意図をもって音楽をつくること。 〔共通事項〕 旋律
教材	
学習の流れ (児童生徒の活動)	1 音楽づくり（例）を鑑賞し，身のまわりの様子を箏で表現することを知る。 2 自分が表したい様子を言葉でワークシートに書く。 3 箏で表現を工夫する。 4 友達の演奏を聴き合う。
指導のポイント (教師の留意点)	・ 工夫した演奏法については，ワークシートにメモさせておく。
備 考	2時間で扱う。

<授業事例④> 石井町高原小学校 6年生

指導・報告者 清水 美穂 (石井町高原小学校)
実演家 内田 道子 (宮城会)

(1) 授業の概要

題材 身のまわりの様子を箏で表現しよう

日時 平成26年1月21日(火) 1・2校時

場所 石井町立高原小学校(音楽室)

対象 石井町立高原小学校6年生(39名)

(2) 指導にあたって

音楽学習の中で「音楽づくり」は子どもが自分の経験や感性を働かせながら自ら音とかかわることができ、子ども達の主体的な音楽活動を促す学習となる。

本学年では、これまでの学習でリコーダーを用いての音楽づくりを行った。それぞれが楽器の音色を生かし、自分のイメージに合うように旋律を工夫することができた。リコーダーは息の入れ方や強弱のつけ方によって音色を変えることができるものの、工夫の重点は旋律におかれた。

そこで、本題材ではリコーダーより音域が広く、様々な奏法が可能である箏を用いて音楽づくりをすることで、さらに音に対する感性を磨き進んで音楽づくりに取り組む子どもを育てたいと考えた。伝統的な音楽については「春の海」を鑑賞することで、箏と尺八の音色について学習したことはあるが、実際に楽器に触れたことはない。事前に入門教材を用いて箏の奏法にまず慣れさせる。

そして、実演家による様々な奏法を聴かせることで、子ども達に箏の豊かな音色を感じ取らせ、音楽づくりへの意欲をもたせたい。自分で箏のいろいろな音の出し方を工夫させ、自分の表したいイメージに合う音や旋律をつくることによって伝統音楽に対する理解を深め、音楽活動のさらなる喜びを味わわせたい。

(3) 指導計画

1. 目標

第1時 箏を使っていろいろな音を出し、音楽づくりへの意欲をもつ。

第2時 自分が表現したい様子を箏で工夫して発表し、作品を聴き合う。

2. 展開

第1時

分	児童の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
10	1 音楽づくり(例)を聴いて、おもしろいと思った音の出し方について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> なぜおもしろいのかを話させることにより、箏のひき方によっていろいろな様子を思いうかべることができることに気付かせる。 子どもから出た奏法について実演家による実際の演奏を聴かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(指導資料15)
15	2 箏を使っていろいろな音を出す。	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達がどんな音を出しているかを知り、音の出し方の工夫について助言する。 	
5	3 自分が表してみたい様子を言葉でワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体験や経験したことをもとに表してみたい様子を考えるように伝える。 	
15	4 音の出し方を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分が表してみたい様子に合う音を考えさせるようにする。 	

第2時

分	児童の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
10	1 音の出し方を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> 工夫した音についてワークシートに記録する方法を知らせ、自由に記録させる。 表現が思うようにできていないと思われる子どもやうまく記録できない子どもには、実演家とともに助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(指導資料15)
10	2 グループで表現を聴き合う。	<ul style="list-style-type: none"> 表したい様子が伝わるかどうかについて、意見を交流させる。 	
10	3 よりよい表現になるように工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> 直す観点をはっきりさせてもう一度工夫するように伝える。 	
15	4 全体で発表し、友達の表現を聴く。	<ul style="list-style-type: none"> 友達の表現のよさについてワークシートに記入させたり発表させたりする。 	

3. ワークシート

(指導資料15) ワークシート [小学校高学年/表現 (発展)] 身のまわりの様子を箏で表現しよう

身のまわりのようすを箏で表現しよう。(5つの音でつくろう。)



(たとえば こんな様子)

五 六 七 八 九 十

♪ 海
(自由に)

♪ 雨の日
(自由に)

♪ 卒業式
(自由に)

① 表したい様子を言葉で書きましょう。

② 様子があらわれるように 箏でひいてみよう。
ひき方を 自由に メモしておこう。

③ 友だちと きき合って 感想を つたえましょう。

() さんの 作品を きいて

(4) 授業の記録

第1時

活動の実際	児童の反応
1 実演家による箏の様々な演奏法を聴いて、おもしろいと思った音の出し方について話し合う。	<ul style="list-style-type: none">・ ピチカートやグリッサンドなど、実演家による演奏と説明に興味深く聞いている。・ さっそくいろいろな弾き方を試す。グリッサンドやトレモロをしている子どもが多かった。・ 2の活動で音のイメージをもつことができ、スムーズに記入している。・ 友達と相談しながら、音楽づくりをすすめている。
2 箏を使っていろいろな音を出す。	
3 自分が箏で表してみたい様子を言葉でワークシートに書く。	
4 音の出し方を工夫する。	

第2時

活動の実際	児童の反応
1 音の出し方を工夫し、決まった音をワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none">・ 音の出し方についてワークシートに自分なりに記録している。・ 教師や実演家に相談する子どももいるが、友達と相談し合って記録できているようである。・ 友達の表現を聴いている。グループ活動が活発に行われている。・ 友達の演奏も参考に、手直している子どももいる。・ グループを代表して1人が発表した。・ 友達の表現のよさについて、ワークシートに記入したり発表したりしている。
2 グループで表現を聴き合う。	
3 よりよい表現になるように工夫する。	
4 全体で発表し、友達の表現を聴く。	



(5) 児童の感想

♪ 実演家による演奏をきいて

「内田先生が最初にひいてくださったものは、波のようだなと思った。」

「私が特に好きな演奏法は『グリッサンド』だ。音が連続してきこえ、なめらかに踊っている様子や静かな川の流れる目が目に浮かんでくるようだった。」

「森の中の湖の水がきらきら光っているようだと思った。」

「内田先生の演奏は、たくさんの工夫を加えてひいていた。それをきいて、『工夫すると、またひとつレベルが上がったようだ』と感じた。」

♪ 音楽づくりをして

「箏で自分の思っていることや考えたことを表現するのは、とてもおもしろかった。自分の気持ちを音楽で表現できることが改めて分かった。」

「班の中で発表した時、友達が『最後の部分をもう少し高い音でやった方がいいよ。』とアドバイスしてくれたので、いい曲をつくることができた。」

「自分の演奏が終わったら、『上手だったよ。』などと声をかけてくれることがすごくうれしかった。」

「『さくらさくら』をひくより自分でつくった世界に一つしかない曲をひくほうが美しくきこえた。」

「ことの先生に『こういう音がオススメだよ』や『こうしてみたら』と声をかけていただいたことがとてもうれしかった。その中でも『ユリ』というひき方が好みだ。それは、教えていただいたひき方の中で一番日本らしい音だと思ったからだ。」

「音楽づくりは難しかったけど、曲にしてみると、こんなに気持ちのいいものだったんだと思った。そして、音の表現で題が決まることが分かったので、音を表現することは大切だと分かった。」

「日本の楽器は豊かな音を奏でると感じた。先生方にやさしく教えてもらったおかげで、色々な音色をさがすことができた。すると、つくれる曲の幅がさらに広がった。」

♪ 友達の演奏をきいて

「どの人の演奏も情景がうかんだ。」

「同じ題でも、表し方は人それぞれ違っていた。」

「構成やひき方がしっかりしていて、題名に合っていた。」

♪ 学習を終えて

「箏は生まれて初めてだったので、響き方の美しさや日本の音楽の特徴がわかり、箏が大好きになった。」

「やっぱり日本の音はいいなと思った。日本の音とは、繊細で清らかな音だと思う。」

「初めて箏で音楽づくりをした時は、ピアノのように音が分からず、大変だったが、はじめて音を出すのはとても楽しくて、これこそ『日本の音楽なんだ』と思った。」

「初めて箏で作曲して、ピアノなどとは違うので不安だったけど、箏のなめらかな音色の特徴を生かして、のびのびとした曲が演奏できたと思う。日本の楽器なので、

日本風のゆったりとした感じを充分感じ取ることができた。このような日本の音色を大切にしていきたい。」

「最初は難しいと思ったけど、やってみると、意外と楽しくひきやすかった。箏は自分の気持ちが表現できるので、友達ときき合ったら、色々な情景や心が伝わってきた。」

「できることがまたひとつふえてよかった。歌い合ったり助け合ったりして学習ができたので、よかった。」

(6) 考察

- ・ 実演家の協力を得ることにより、子ども達は箏の様々な技法を実際に聴くことができ、音楽づくりへの意欲をもつことができた。実演家の演奏から、様々な技法から生まれる音色の違いを感じ取ることができている。また、音楽づくりにあたって実演家から実際に技法を教えていただいたことで、表現の方法が広がっている。
- ・ 箏での音楽づくりの活動には、どの子も時間いっぱい取り組んでいた。子ども達は自分の表したいものを限られた音を使って工夫して表すことができた。そして、自分の表現に十分満足している様子がうかがえる。
- ・ 友達と演奏を聴き合うことで、表したい内容は同じでも、できあがった作品の表現方法が一人一人異なることを感じている。そこに、互いの個性や表現を尊重しようとする姿勢が見られた。また、班で意見を交流することにより、よりよい作品ができたと感じている子どももおり、活動は個人的でも、共同的な学習になったことを感じる。



(教師と実演家が協働した授業)

箏については知識もそれほどもっておらず、楽器もない中で、実演家の先生と協働して授業を行うことで、子ども達に正しい知識や技能を示すことができた。そして、生の演奏を聴くことができた子ども達が、日本の楽器や日本の音のよさを感じ取ることができたことがよかった。音楽づくりの活動でも実演家に的確なアドバイスをいただき、授業がスムーズに流れたと思う。

(箏を用いた音楽づくりの活動)

「音楽づくり」については、日頃の授業でもどちらかという、後回しになっている感がある。しかし、思い切って箏を用いてみると、様々な音色が生み出せたため、子ども達の音楽づくりに対する意欲を高めることができたし、思っていたより容易に作品が仕上がっていたと思う。また、できあがった作品がみんな違っていたため、それぞれの発表を聴き合うことで、個性を尊重しようとする気持ちも育てることができた。

自分で箏を操作して音楽が生み出せたという経験によって、「音楽」に対する子ども達の意識が変化した。音楽のよさを改めて感じ取ることができたようである。

そして、箏がリコーダーなどの楽器と違って、1人にひとつの楽器がなかったために、友達の演奏を見たり聴いたり、友達に意見を伝えたりしながら、ともに音楽づくりの活動ができたところがよかった。

(日本の音楽について)

これまでに日本の音楽についての学習をしていなかったのも、子ども達にとって箏の学習はとても新鮮であったようだ。そして、実演家の説明や演奏によって、日本の音楽のよさを感じ取ることができたし、実際に箏に触れることで、さらに日本の音楽を大切にしていこうとする意欲が高まったように思える。

清水 美穂

お箏のいろいろな手法を使って創作曲をつくり出す時間は、とても素晴らしかったと思います。お箏の音色を聴いて何を感じたか、どんな気持ちになったかの質問には、恥ずかしかったり、正解を気にしたりするからなのか、口が重く表現が乏しかったが、楽器を使って、自分の内にある感覚や気持ちを表現した時は、大変ユニークで、豊かで、自由で、とても感動的な作品ができあがりました。

日本の楽器を使うことで、感覚に敏感になり、自分を自由に表現する子ども達が育っていくことを望みます。

内田 道子

4 ことってどんな音？

- 小学生を対象とする箏の鑑賞領域の教材作成に取り組みました。

教材案⑫ [小学校低学年／鑑賞] いい音みつけて ―日本のうた「お正月」―

教材案⑬ [小学校低学年／鑑賞] いい音みつけて ―日本のうた「虫のこえ」―

教材案⑭ [小学校中学年／鑑賞] わらべうたの音階に親しもう「うさぎ」

教材案⑮ [小学校中学年／鑑賞] 日本音階の美しさを感じ取ろう「さくらさくら」

教材案⑯ [小学校高学年／鑑賞] 日本音階の美しさを感じ取ろう「子もり歌」

教材案⑰ [小学校高学年／鑑賞] 日本音階の美しさを感じ取ろう「越天楽今様」

- 教材案⑬⑭を使って、授業を実施しました。

授業事例⑤ 阿波市立伊沢小学校3年生

授業事例⑥ 阿波市立市場小学校3年生

研究委員

金山 由美 (かなやま・ゆみ)

阿波市立久勝小学校

板垣 尚子 (いたがき・ひさこ)

阿波市立伊沢小学校

沖津 陽子 (おきつ・ようこ)

阿波市立市場小学校

猪井 恵朱 (いのい・けいしゅ)

徳島県邦楽協会・日本当道音楽会所属

【教材案⑫】 [小学校低学年／鑑賞] いい音みつけて ―日本のうた「お正月」―

対象児童生徒	小学校1年生
題 材	いい音みつけて ―日本のうた― 「お正月」
学習のねらい	いろいろな音に興味を持ち，音色に注目して音楽を聴く。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	B 鑑賞（1）鑑賞の活動 ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。 〔共通事項〕 音色
教材	箏の音，尺八の音 「たき火」渡辺茂 作曲 「お正月」瀧廉太郎 作曲 「うれしいひなまつり」河村直則 作曲
学習の流れ (児童生徒の活動)	1 既習曲を歌う。 2 新しい音を聴いて，何の音か考える。 3 歌ったり鑑賞したりする。
指導のポイント (教師の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習を想起させる。 ・ 新しい音（箏の音，尺八の音）に興味を持たせる。 ・ 児童がよく知っている曲を，ことや尺八の演奏で聴かせる。 ・ 楽器づくりの時，箱とゴムなどを用いて，箏のような演奏もできることを助言する。
備考	<p>楽曲解説</p> <p>◆「たきび」渡辺茂 作曲 素朴さを感じさせるこの曲は，子供の声の音域を考慮し，全体的に歌いやすい高さにまとめている。「たきびだたきびだ」のように2度目に繰り返す箇所は，子供の高まった感情を表現するために，1度目の繰り返しよりも音程が高くなっている。続く「あたろうか」の詞の箇所はリズムが変化しているが，明るい声を発することが容易となり，あたたかい雰囲気演出につながっている。そして，誰にもわかりやすい旋律を用いてまとめているのが特徴である。</p> <p>◆「お正月」瀧廉太郎 作曲 この曲は，最初と最後に似たメロディがくる三部形式である。また，ファとシがない，ヨナ抜き長音階である。</p> <p>◆「うれしいひなまつり」河村直則（河村光陽）作曲 日本の童謡である。楽しい行事を歌った曲で，題名にも「うれしい」とあるにもかかわらず，西洋音楽的に分類すれば短調である。ただし，唱歌の多くは日本古来のヨナ抜き音階を用いて作曲されており，短調の曲も多い。この曲についても，短調としたことにより日本情緒がよく表現されている。</p>

【教材案⑬】 [小学校低学年/鑑賞] いい音みつけて 一日本のうた「虫のこえ」ー

対象児童生徒	小学校2年生
題 材	いい音みつけて 一日本のうた「虫のこえ」ー
学習のねらい	生の演奏鑑賞によって箏の音色に親しみ、自然の情景をどんな奏法で表しているか見て、そのよさや違いを感じ取る。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	A 表現（2）器楽の活動 ウ 音色に気をつけて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。 B 鑑賞（1）鑑賞の活動 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。 B 鑑賞（2）鑑賞教材 ア 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽 〔共通事項〕 音色, 反復, 問いと答え, 変化
教材	「虫のこえ」(文部省唱歌), 「夕やけこやけ」草川信作 作曲
学習の流れ (児童生徒の活動)	第1時 箏の音色に気を付けながら「虫のこえ」等を鑑賞する。 第2時 「なべなべ」等, 既習わらべうたの, 箏の演奏に挑戦する。
指導のポイント (教師の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ はじめて生の箏の音に接するので、最初は耳だけで音をしっかりと聴かせ、今まで聴いたことのある音と比べさせて、興味を喚起する。箏にはいろいろな奏法があることに気付かせ、正月等によく流れる ・ BGMがどう演奏されているかを知る。
備 考	この題材は学習指導要領A表現（2）のウ「音色に気をつけて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。」及びB鑑賞（1）のウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。」を関連付け、B鑑賞（2）のア「和楽器の音楽を含めた我が国の音楽」を重点的に取り上げて学習を進める。

<授業事例⑤> 阿波市立伊沢小学校3年生

指導・報告者 板垣 尚子（阿波市立伊沢小学校）
実演家 猪井 恵朱（日本当道音楽会所属）
遠藤 綾子（沢井箏曲院）
島本 美保（当道音楽会）

（1）授業の概要

題 材 いい音みつけよう ―日本のうた「虫のこえ」―
日 時 2013年12月10日
場 所 阿波市立伊沢小学校（図書室）
対 象 阿波市立伊沢小学校3年生（41名）

（2）指導にあたって

本学年の児童は、素直で人懐っこく、毎日の学校生活を楽しんで生き生きと活動できている。子どもたちとは、1学年の時から音楽の授業の際や担任としても接してきているが、3学年になってもなお、音楽を聴くと体でリズムを取ったり、時には踊り出したりと、感じたことをそのまま体や言葉を使って表現できている。新しい楽器や楽曲への関心も高く、演奏できるようになるまで休み時間にも熱心に練習したり、友だち同士で教え合ったりしている。

箏の学習は、昨年職員の私物を使って1回実施したが、一面しかなかったので鑑賞も充分とは言えず、その後親指にだけ箏爪をつけさせて弦に触れはしたが、子どもたちの実感としては、ほとんど残っていないようだ。

現代の子どもたちは、様々なメディアや音楽の学習を通して、多種多様な楽器の音色を聴いてきているが、日本古来の楽器である尺八や箏の音を生で耳にする機会は少ない。店舗で流れるBGMやTV番組等で聴くそれらの音は、作品としてではなく、雰囲気を表すための効果音などであることが多く、鑑賞の機会も少ない。

そこで、本題材では実演家を招き、生の箏の音にふれさせる。また、箏の演奏に取り組むことにより、箏の演奏のおもしろさ、表現力の高さに気付かせる。子どもたちにとってわかりやすい思いのこもった邦楽作品をとりあげ、その演奏法に目が向くように支援することで、関心を持続させて、邦楽作品をゆっくり鑑賞させたい。そして、和楽器や邦楽作品への関心を高めたいと考え本題材を設定した。

本題材で扱う鑑賞教材「夕やけこやけ」では美しい日本の夕焼けの空を、「虫のこえ」では、秋の夜に聞こえてくる虫たちの鳴き声の楽しさを感じ取らせる。

(3) 指導計画

1. 目標

第1時 生の箏の音を聴くことにより、箏の音に慣れ、鑑賞のポイントに気を付けながら、既習曲等の鑑賞をする。

第2時 箏の音を出したり、簡単な曲を演奏したりして、箏に親しむ。

2. 展開

第1時

分	児童の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
10	1 箏の名人(実演家)の話聞く。	1 今回の学習の内容を伝え、3名の 実演家を紹介する。	・ ワークシート (指導資料16)
15	2 「音当てクイズ」をする ○ 実演家に背を向けて自然の様子を 表す音(奏法)を聴く。	2 ワークシートの中から、どの音を 演奏しているのか聴き取らせる。 児童といっしょに演奏を聴く。	
10	3 実演家の演奏(解説)を聴き、答 え合わせをする。	3 クイズの答えを言う。 ・ 実演家に適宜解説していただく。 ・ 奏法についての説明等	
10	4 曲の鑑賞をする。 ○ 児童がよく知っている曲を、鑑賞 する。	4 教えていただいたこと(奏法)に 注意して聴くように助言する。	

第2時

分	児童の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
10	1 箏の演奏に挑戦する。 ○ 音を出したり、簡単な楽譜を演奏 したりする。	1 箏爪の付け方や弦の弾き方を伝え る。 ・ 実演家に協力してもらい、個別に 指導する。	・ 箏 (2人に1面) ・ 箏爪(親指のみ)
15	2 リコーダーと合奏する。	2 リコーダーで演奏していた音と同 じであることに気付かせる。	
15	3 箏の発表会をする。	3 友だちの音をしっかり聴き取る。 ・ 「なべなべ」以外の曲を弾いても いいことを知らせる。	
5	4 授業の感想を書く。	4 鑑賞・表現を通して感じたことを 自由に書かせる。	・ ワークシート後半 (指導資料16)

3. ワークシート

(指導資料16) ワークシート [小学校低学年/鑑賞] いい音みつけよう ―日本のうた― 「虫のこえ」

音あてクイズ

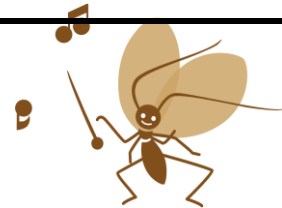
3年 組 ()

☆ なんの音でしょう。きこえたじゅんに、書きましょう。

(下からえらびましょう。)

	音 (記号)	なんと きこえましたか？
1		
2		
3		

ア 風が ふうている ようす
イ 雨が ふっている ようす
ウ 虫が ないている ようす



今日の勉強の、感想を書きましょう。

(4) 授業の記録

第1時

活動の実際	児童の反応
<p>1 箏の名人(実演家)の話聞く。</p> <p>○ 猪井先生が、この音を鳴らしながら、歴史などについて簡単にお話をする。</p> <p>2 音当てクイズ</p> <p>○ 初めは実演家に背を向けて音だけでどんな風景を表現しているか想像する。</p> <p>3 実演家の演奏(お話)</p> <p>○ 実演家の方に向き直り、今度は目でも見ながら演奏を聴き、先生方のお話を聞いた。猪井先生が、実際に演奏しながら箏の奏法について説明していった。</p> <p>4 箏の鑑賞</p> <p>○ 鑑賞曲は、子どもたちがよく知っている「夕やけこやけ」にした。</p>	<p>○ 興味津々で見たり聴いたりしていた。</p> <p>○ 目を輝かせながら、耳に集中している様子が見て取れた。最初の音がきこえると、「えっ！」という感じで、自分が思っていた音と違うなどつぶやきながら答えを書き込んでいった。</p> <p>○ クイズの当たり外れだけではなく、箏の音をしっかりと聴いて、その違いを見つけようとしていた。 全問正解者が、半数以上いた。</p> <p>○ 口ずさむかと思われたが、静かに聴いていた。</p>

第2時

活動の実際	児童の反応
<p>1 箏に挑戦</p> <p>○ 2人組で箏に触る。</p> <p>2 「なべなべ」を演奏する。</p> <p>○ 親指だけ箏爪をつけ、弦の番号について説明した。</p> <p>3 リコーダーと合奏する。</p> <p>○ 「なべなべ」などの曲を合わせる。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○ 初めはおずおずといった様子で弦に触れていたが、グリッサンドに気付いた児童がいて、しばらく楽しそうに演奏した。</p> <p>○ 番号よりも自分の耳に頼って演奏する児童もいてすぐに上手になり、既習曲を演奏しようとする児童が現れたことにより、授業が活性化した。</p> <p>○ 箏の奏法に少し慣れ、リコーダーと楽しく合奏できた。</p> <p>○ 本時の学習をふり返り、感想を書いた。</p>

(5) 児童の感想

第1時

「音当てクイズ」に関しては、半数以上の子が正解できた。それぞれの音に関して



☆ 雨の音

- ♪ 夜、雨が降っている。
- ♪ 雨が、小降りになったり大雨になったりしている。
- ♪ 最初ぽつぽつ降って、後から大雨。
- ♪ 最後は台風みたいで、強い音がきこえた。

☆ 風の音

- ♪ 山に風がびゅーびゅーふきつけている様子。
- ♪ 風がふいて葉っぱが落ちているようにきこえた。
- ♪ 北風がふいているような様子。
- ♪ 風がザーザーとなっています。



☆ 虫の声

- ♪ 虫が合奏している。
- ♪ 秋に虫がチロチロと鳴いている。
- ♪ いろんな虫がいっぺんに鳴いている。
- ♪ たくさんの虫が、音楽会をしている。

第2時

☆ 演奏をしてみると

- ♪ ことはややこしくて難しい楽器だと思っていたけど、実際に触らせてもらったら簡単でとってもきれいな音が出ることが分かりました。
- ♪ わかりやすく、やりやすかった。すごく心に残ったので、また弾いてみたいです。ずっとしていたかったです。
- ♪ 8番目と、2、3をおさえるのが難しかったけど、先生が教えてくれたのでできました。
- ♪ ぼくも風の音を弾いてみたけど、先生の方がすごくいい音が出ていました。今日はことをいっばいきけて、いっばい触れてよかった。しかも、大人になったらことを弾きたいし、このプロになりたいと思いました。



などの感想が聞かれた。

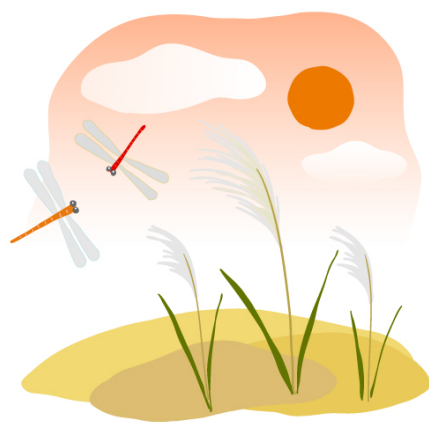
(6) 考察

普段目にするものがない楽器、
聴いたことのない音。事前に少し
話してはあったが、図書室に入っ
た瞬間から、児童の目の輝きが増
すのがわかった。

実演家の先生方には失礼だった
が、まず最初に、実演家の先生に
背を向けて耳だけで聴かせていた
だいた。児童の中には、情報の取
捨選択が苦手な子もいるので、で
きるだけ少ない情報に限定して集

中させたいと思ったからだ。その狙いどおり、「音」をしっかりと意識できた。児童の反応を見ても分かるとおり、音色を聴き分けていろいろな発見ができていた。これまでは、ただのBGMのように思っていた箏曲が、身近な鑑賞曲になる大きなきっかけとなったと思う。

第2時は、簡単な曲ではあったが、2人1組になって演奏体験をした。実際に箏に触れたことにより、ただ聴くだけの時よりも深い感想がえられた。やはり下学年の児童は、できる限り鑑賞とともに表現の機会をもっていきたい。



本校では、10年ほど前から5、6年生を対象に地域の実演家の方を招いて、年1回「邦楽鑑賞・体験」活動を行っています。また、3年前には文化庁の「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」により4年生全員に三味線の体験を、2年前には全校で人形浄瑠璃の鑑賞と、6年生だけですが体験もしてきました。「邦楽鑑賞・体験」の折には近隣の中学校から箏や三味線を借用し、6年生に尺八や箏、三味線を体験させてきています。しかし、6年生のみの体験は、中学校へのワンステップにはなるものの、小学校の学習に役立てる方法はないものかと、模索していました。

今回邦楽実演家の方々との出会えて、この事業の一端に参加させていただいたことは、私にとって大きな転機となりました。と言うのも、わたし自身の反省として、10年ほど前から何度か、年に1回程度の邦楽体験の研修を受けてはいましたが、単発的なもので、十分に理解が深まる前にまた忘れてしまい、一からのスタートになって、結局子どもたちに還元するには、二の足を踏んでしまっていたのです。

この度の継続研修及び個別研修により、学年に応じた年間計画の必要性と、継続性の大切さを痛感しました。そして、何よりも箏に触れることが怖くなくなりました。これは、ちょうど今の子どもたちと同じ段階だと思います。今回授業をして、子どもたちの目の輝きや、一生懸命聴こうとしたり、耳慣れた曲を演奏してみようとしたりする態度に接し、やはり伝統音楽ってすばらしい、もっともっと体験させてあげたいと感じました。

今までの進め方を踏襲し、6年生だけではもったいないと思いつつ変換することができなかった邦楽体験の機会。邦楽協会の先生方との出会い。これらの財産を生かして、(教えたり聴かせたりすることは、まだまだ充分ではなくできませんが)、これからも機会を捉えて子どもたちと一緒に学んでいきたいと思えます。

板垣 尚子

邦楽(箏)というものに認識のうすい子ども達が沢山いますが、「いい音みつけて」・・・箏の音色で表現するもの(自然界の様子)を当てるクイズでは、古典音楽に用いられる技法の一種なので、中には抽象的な表現もあり想像力をはたらかせる必要がありますが、私の想像以上に箏の音色や手法に関心を示してくれました。また、本物を体験してもらいたいという考えから楽器体験を実施しましたが、子供達はやはり一番楽しんでいた様に思います。また授業で習った曲をリコーダーと合奏することで、弾きやすかったのか課題曲以外の曲を自ら弾く子供達の様子に心打たれました。鑑賞曲では、子供達がよく知っている「夕やけこやけ」と、「いい音みつけて」のクイズと関連して、箏でいろんな虫の声を表現した「虫のこえ」を選びました。中には、楽しそうに身体を揺らしたり歌いながら聴いていた様子で日本の音楽の良さを感じ取っていたようです。これら授業を通して子供達が邦楽に興味を示し、日本で生まれた楽器や音楽があることを伝えたいと思えます。

猪井 恵朱

【教材案⑭】 [小学校中学年／鑑賞] わらべうたの音階に親しもう「うさぎ」

対象児童生徒	小学校3年生
題 材	わらべうたの音階に親しもう「うさぎ」
学習のねらい	表現・鑑賞の活動を通して、わらべうたの音階の特徴を感じ取る。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	<p>A 表現（1）歌唱の活動 イ 歌詞の内容，曲想にふさわしい表現を工夫し，思いや意図をもって歌うこと。</p> <p>B 鑑賞（1）鑑賞の活動 イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り，楽曲の構造に気を付けて聴くこと。</p> <p>〔共通事項〕 音色，問いと答え，音階</p>
教材	「うさぎ」（日本古謡）
学習の流れ (児童生徒の活動)	<p>第1時 「うさぎ」を歌う。前半と後半を交互に歌い，問いと答えになっている会話形式を楽しむ。</p> <p>第2時 「うさぎ」の箏演奏を聴き，箏で演奏する。</p>
指導のポイント (教師の留意点)	<p>第1時 お月見の情景を思い浮かべて，やさしく語りかけるように歌い方を工夫させる。</p> <p>第2時 箏の音色に親しませる。ハンドサインなどを使って，音の高さと箏の弦との関係をつかませる。</p>
備 考	<p>楽曲解説 江戸時代からわらべうたとして歌われていて，明治25年に『小学唱歌』に掲載された。前半と後半にわかれている問答形式となっている。月のうさぎのもちつき伝説は日本独自のものといわれている。中秋の名月の時期に，季節を感じ，情景を思い浮かべて表現させたい楽曲である。</p>

<授業事例⑥> 阿波市立市場小学校3年生

指導・報告者 沖津 陽子（阿波市立市場小学校）
実演家 遠藤 綾子（沢井箏曲院）

(1) 授業の概要

題 材 わらべうたの音階に親しもう
日 時 平成25年9月17日（火）
場 所 阿波市立市場小学校（会議室）
対 象 阿波市立市場小学校3年生（21名）

(2) 指導にあたって

本学級の子どもたちは、歌うことが大好きで明るくのびのびと歌うことができる。1学期には、「茶つみ」の歌にあわせて、友だちとなかよく手遊びする活動を通して、歌い合わせる喜びを感じ取ることができた。また、4月から始めたリコーダーの演奏にも意欲的に取り組んでいるので、美しい音色にも関心をもたせたいと考えている。本題材では、歌ったり箏を演奏したりして、わらべうたの音階に親しみをもたせたい。わらべうたは、1年生で「なべなべそこぬけ」「ひらいたひらいた」を、2年生で「かくれんぼ」を歌っている。箏の演奏を聴いたり、演奏したり、歌と合わせる活動を通して、わらべうたの音階の特徴を感じ取らせたい。本題材で扱う「うさぎ」は、古くから歌い継がれてきたわらべうたの一つである。季節を感じ、情景を思い浮かべて歌うことができる曲である。問答形式になっているので、交互唱で歌い方を工夫することができる。学習指導要領に示されている歌唱共通教材で、子どもたちに歌い継いでいってほしい曲である。

(3) 指導計画

1. 目標

表現・鑑賞の活動を通して、わらべうたの音階の特徴を感じ取る。

2. 展開

第1時

分	児童の活動	教師の支援、支援上の留意点	評価規準
10	1 「うさぎ」の歌を聴く。	○ 月見の様子がわかる絵や写真を用意する。	○ 月見の情景を思い浮かべて、うさぎにやさしく語りかけるように歌っている。(活動の様子)
	2 「うさぎ」を歌う。	○ 前半と後半に分かれて交互唱する。	
	3 歌い方を工夫する。	○ うさぎのお面などをつけて、やさしく語りかけるように歌う。	
	4 箏の弦番号で歌う。	○ 次時の活動につながることを知らせる。	

第2時

分	児童の活動	教師の支援, 支援上の留意点	評価規準
1	「うさぎ」を歌う。	○ 楽しく学習できるような雰囲気づくりをする。	○ 箏の音色に気をつけて演奏している。(活動の様子)
2	「うさぎ」の箏の演奏を聴く。	○ 先生の近くに集まって聴かせる。	
3	箏の奏法を知り, 演奏する。	○ すわり方, 構え方, 爪の付け方, 音の出し方などを指導する。	
4	先生の伴奏に合わせて, 歌ったり箏を演奏したりする。	○ 伴奏をよく聴いて, 曲のはじめがそろうように助言する。	

(指導資料17) 楽譜 [小学校中学年/鑑賞] わらべうたの音階に親しもう「うさぎ」

うさぎ 日本古謡

六 六七 八七 八 六 > > 七 八七 八
う さ ぎ う さ ぎ な に み て は ね る

七 八 九 > 八七六五 七六五 六五四 五
じゅうごや おつきさま みては ー ー ね る

平調子から四を1音上げる

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 斗 為 巾

※ 伝統的には, 実音を2度下げて調弦します。(五=D)

(4) 授業の記録

第2時

活動の実際	児童の反応
1 「うさぎ」を歌う。 楽しく学習できる雰囲気づくりをする。 問答形式で歌う。	・ 始まるまでは緊張していたが、交互に歌うといったもの楽しい雰囲気になった。
2 「うさぎ」の演奏を聴く。 実演家のかたに、演奏していただく。	・ ふだんは落ち着きのない子どもも、集中して聴くことができた。
3 箏の奏法を知る。 すわり方、構え方、箏爪の付け方、音の出し方などを指導する。	・ 2人または3人に1面ずつ箏を用意していたので、交代しながら教えていただくことができた。
4 箏を演奏する。 実演家のかたに、前奏や伴奏、後奏を弾いていただく。	・ 待っている児童は、弦の番号で歌った。

(5) 児童の感想

♪ おここの先生の演奏をきいて気付いたこと・感じたこと・先生とのかかわり

「先生のことの音色が、きれいでした。」
「先生の手先が器用で、すごかったです。」
「先生は、ばんそうをしてくれる時、つめをつけていない方の手もつかってひいていた。」
「先生がばんそうをしてくれて、きれいになってとってもうれしかったです。」
「先生の教えてくれたとおりにしたら、ひけるようになりました。」
「左手でひいたり、ひいた音のひびきをとめたりするのもあるんだな。」



♪ ここの音色について

「みんなであわせた音がきれいでした。」
「ここの音色は、ぼくが思っていたよりもとてもきれいで心が落ち着く音色でした。」
「ゆったりとした音色でした。」

♪ ここの形状・つくりについてわかったこと

「りゅうのかたちをしていることがわかりました。」
「こは大きくて、きれいな音が出ます。」
「こは大きくて、長いのでびっくりしました。」

「弦が13本あることがわかりました。」
「ことの爪の種類や指にあうサイズがわかりました。」
「柱というもので音の高さを合わせていることがわかりました。」
「バイオリンと同じように、いろんな部分があることがわかりました。」
「番号で歌っていたのは、弦の番号のことだとわかりました。」



♪ 感じたこと

「はじめは心配だったけれど、ことがひけるようになってうれしい。」
「むずかしいなあと思っていたけれど、先生の教えてくれたとおりにすればかんたんでした。上手にひけてうれしかったです。」
「気持ちがすうっとなりました。」
「ことをえんそうして楽しかったです。」
「ことをひくときにすごく力を使って指がいたかったです。」
「いい音が出て、音ができあがったら気持ちいいな。家にもことがあるので練習したいです。」

(6) 考察

・ 歌唱教材を鑑賞教材にすることは有効

親しんでいる楽曲を実演家の先生が演奏してくださったので、音色や両手の動きなどにも関心をもって聴くことができた。

あらかじめ、弦の番号で歌っていたので、実際に演奏するときに、弦の番号と弦の場所が繋がった。「六一六七 八七八 (うーさぎ うさぎ)」の旋律は、隣接する弦をつかうので、短い時間でできるようになった。

季節を感じられ、子どもたちに歌い継いでほしい歌である。歌うだけでなく、箏による演奏を聴いたり、自分で演奏したりして、心に残る楽曲の一つになったと思う。

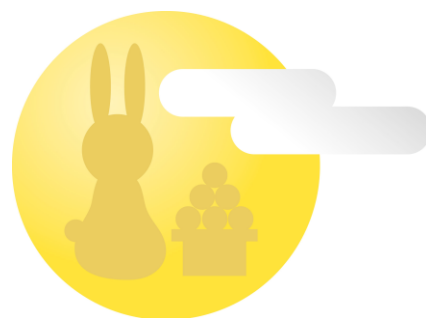
・ 生演奏による子どもたちの箏への関心の高まり

子どもたちは、箏の演奏を聴くのも自分でえんそうするのもはじめてだったので、実演家の先生に教えていただく日を楽しみにしていた。箏の音色に関心をもって聴くことができた。また、実演家の先生の両手の動き、指の動きにも関心をもって聴くことができた。まとめの演奏では、実演家の先生に伴奏をしていただき、音の重なりを感じる事ができた。姿勢や手、指の運び方を指導していただき、気を付けて演奏することができた。なによりも、箏の音色の特徴を感じ取り、美しい音色へのあこがれ

をもつことができた。

また、今回の授業で実演家の先生に「いい音が出ているね。」とほめていただいた児童は、その後自信をもって授業に取り組むことができるようになった。音楽発表会の楽器選びでは、箏を希望し、全校児童の前で発表することができた。

以上のことから、実演家の先生に演奏していただき指導していただくことによって、子どもたちの箏への関心がより高まったといえる。



考察にも述べたように、歌唱やリコーダーの演奏には関心をしめさなかった子が、この授業をきっかけとして、積極的に学習に取り組むようになった。間近で演奏していただいたので、子どもたちも実演家の先生の音色をしっかりと聴くことができたと思う。そして、その音色を目標として、子どもなりに工夫をして、演奏に取り組むことができた。

何よりも、子どもたちは、箏の先生に教えていただくことをとても楽しみにしていたし、いっしょけんめい聴いたり、箏を演奏したりすることができた。実演家の先生に演奏していただき、指導していただくことによって、子どもたちの意欲の高まりを感じた。

中秋の名月をみるたびに、子どもたちが「うさぎ」の歌を口ずさみ、箏で演奏したことを思い出すことを願っている。

沖津 陽子

「箏を弾いて心がすうっと落ち着いた」「数ある楽器の中から箏を選んで音楽会で発表した」等の感想を聞くことができ、本当にうれしく思います。

当日の授業では、箏を目の前にして、早く弾きたくてうずうずしている様子の子どもたち。いよいよ演奏体験が始まると、友達同士で「ここ、ここ」と弦を指さし合いながら、目を輝かせて取り組んでいます。練習の合間をみて、この学齢には難しいかなと思いながら「六段の調」を弾かせていただきましたが、背筋をすっと伸ばして耳を澄ませ、熱心に手元を見つめる姿に私の方が心を打たれました。

また和楽器を習うにあたって、沖津先生が丁寧に作法を教えられ、上履きをきちんと廊下に揃え、行儀よく両手をついて「お願いします」と挨拶をする様子に、「かしこいなあ！」と思わず頬がゆるみました。先生からは、普段落ち着きのない子どもも、いつもと違う雰囲気を感じ取って学習を進めることができたとお聞きしました。めずらしさもあったのだと思いますが、私達が受け継いだ和楽器が持つ魅力を再認識し、それを吸収する子ども達の能力の高さに感激した1日でした。

遠藤 綾子

【教材案⑮】 [小学校中学年／鑑賞] 日本音階の美しさを感じ取ろう「さくらさくら」

対象児童生徒	小学校4年生
題 材	日本音階の美しさを感じとろう
学習のねらい	表現や鑑賞の活動を通して、箏の音色に親しみ、旋律の特徴を感じ取る。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	B 鑑賞（1）鑑賞の活動 ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。 〔共通事項〕 音色、音の重なり
教材	「さくらさくら」（日本古謡）
学習の流れ （児童生徒の活動）	1 「さくらさくら」を歌う。 2 「さくらさくら」を箏の演奏で聴く。 3 「さくらさくら」を箏で演奏する。
指導のポイント （教師の留意点）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真や映像を手がかりに、桜の咲いている情景を思いうかべて歌うようにさせる。 ・ 箏の音色やいろいろな奏法を味わわせながら聴かせる。 ・ 親指でしっかり弦を押して音を出すようにさせる。
備考	<p>楽曲解説</p> <p>「さくらさくら」は、江戸時代末頃に箏曲の手ほどき（初心者向けの曲）の曲として使われていた「咲いた桜」という曲が原曲で、文部省音楽取調掛選『箏曲集』（明治21年）に取り入れられて全国に広がった。「咲いた桜」の歌詞は「咲いた桜花見てもどる、吉野は桜、立田はもみじ、唐崎の松、ときわときわふかみどり」というもので、四季の景色をうたったものであった。「さくらさくら」は、現在でも箏の手ほどきとして使われ、また日本を代表する歌のひとつとして世界の人びとにも知られている曲である。教科書には昭和16年から掲載された。</p>

【教材案⑯】 [小学校高学年／鑑賞] 日本音階の美しさを感じ取ろう「子もり歌」

対象児童生徒	小学校5年生
題 材	日本音階の美しさを感じ取ろう
学習のねらい	表現や鑑賞を通して子もり歌に親しみ、特徴を感じ取る。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	B 鑑賞（1）鑑賞の活動 ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。 〔共通事項〕 音色，音の重なり，調
教材	「子もり歌」（日本古謡）
学習の流れ (児童生徒の活動)	1 「子もり歌」の情景を思いつかべながら，箏の演奏を聴く。 2 「子もり歌」の特徴を生かして，表情豊かに歌う。
指導のポイント (教師の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の音階による特徴的な曲想を感じ取らせる。 ・ 箏の音色に親しませる。 ・ 箏柱の移動によって，音の高さが変わること気付かせる。 ・ 「子もり歌」が「眠らせ歌」であることを知らせ，歌詞の内容や五音音階が生み出す曲想を感じ取らせる。
備考	<p>楽曲解説</p> <p>子もり歌は「幼児を眠らせるための音楽，あるいはその情景を模した音楽」と定義づけられている。子もり歌はわらべ歌と民謡の中間に位置するといわれ，主に歌う本来の目的から「遊ばせ歌」と「眠らせ歌」に大別できる。教材「子もり歌」は「眠らせ歌」であり，民謡に比べて音域も狭くりズムも拍節的である。</p> <p>教材「子もり歌」は箏の演奏による「江戸の子もり歌」である。</p>

【教材案⑰】 [小学校高学年／鑑賞] 日本音階の美しさを感じ取ろう「越天楽今様」

対象児童生徒	小学校6年生
題 材	日本音階の美しさを感じ取ろう「越天楽今様」
学習のねらい	表現や鑑賞を通して、箏の音色や重なりに関心をもち、日本の伝統的な音楽が醸し出す雰囲気を感じ取る。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	B 鑑賞（1）鑑賞の活動 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。 共通事項：音色、音の重なり
教材	「越天楽今様」（日本古謡）
学習の流れ (児童生徒の活動)	1 雅楽「越天楽今様」と箏の演奏による「越天楽今様」とを聴き比べる。 2 旋律の特徴を感じて、グループ毎に表現の工夫をする。
指導のポイント (教師の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箏の音色や音の重なりを味わうようにさせる。 ・ 簡潔で優雅な旋律を持つ端正な形式を味わうようにさせる。 ・ 曲想に合うような演奏の工夫をさせる。 ・ リコーダーの旋律は、タンギングせずに打ち指で音を区切るなどの奏法に挑戦させる。
備考	<p>楽曲解説</p> <p>数ある雅楽の中で最も広く知られている楽曲が「越天楽」で、その旋律に今様の歌詞を付けて歌われたものが「越天楽今様」である。半音を含まない日本の音階からなる、簡潔で優雅な旋律をもつ端正な形式の楽曲である。</p> <p>教材「越天楽今様」は箏の演奏による鑑賞曲である。</p>

5 箏を楽しもう

- 中学生を対象とする箏の表現領域の教材作成に取り組みました。

教材案⑱ [中学校／表現] 箏を楽しもう ―箏で奏でる「浜辺の歌」―

教材案⑲ [中学校／表現] 箏で楽しむ ―お箏でマンボNO.5―

- 教材案⑱⑲を使って、授業を実施しました。

授業事例⑦ 徳島市徳島中学校2年生

授業事例⑧ 美馬市立穴吹中学校2年生

研究委員

小笠原 仁美 (おがさわら・ひとみ)

美馬市立穴吹中学校

丸與 直子 (まるよ・なおこ)

徳島市徳島中学校

藤本 雅登伎 (ふじもと・まさとき)

徳島県邦楽協会・正派邦楽会

【教材案⑱】〔中学校／表現〕 箏を楽しもう ― 箏で奏でる「浜辺の歌」 ―

対象児童生徒	中学校2年生
題 材	箏を楽しもう ― 箏で奏でる「浜辺の歌」 ―
学習のねらい	箏の特徴を生かし、和音やリズムパターンを工夫しながら、伴奏音楽をつくる。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	<p>A 表現（3）創作の活動 イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる。</p> <p>〔共通事項〕音色、リズム、速度、形式、構成</p>
教材	「浜辺の歌」
学習のねらい	<p>第1時 「浜辺の歌」の歌唱を通して、曲の情景を想像したり、音楽を形づくっている拍子の流れを感じ取る。</p> <p>第2時 「浜辺の歌」の特徴を知り、和音やリズムパターンを考えながら、箏で伴奏音楽を作る。</p> <p>第3時 創作した伴奏音楽を互いに聴き合い、全体のまとまりを考えながら表現の工夫をする。</p>
指導のポイント (教師の留意点)	「浜辺の歌」の流れるような雰囲気醸し出す複合拍子と、箏の音素材を生かして伴奏音楽が創作できるように導き出す。
備考	<p>評価規準</p> <p>(1) 音楽への関心・意欲・態度 箏の音色や奏法に関心をもち、学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>(2) 音楽表現の創意工夫 楽曲を形づくっている要素を感じ取り、箏の特徴をとらえた音楽表現を創意工夫している。</p> <p>(3) 音楽表現の技能 イメージにふさわしい音楽表現をするための必要な技能を身に付けて演奏している。</p>

<授業事例⑦> 徳島市徳島中学校 2年生

指導・報告者 丸與 直子（徳島市徳島中学校）

(1) 授業の概要

題 材 箏を楽しもう 一箏で奏でる「浜辺の歌」
日 時 平成26年2月19日（水）
場 所 徳島市徳島中学校（音楽室）
対 象 徳島市徳島中学校2年生（39名）

(2) 指導にあたって

この指導計画は、第1学年時に箏の基本的な奏法を身につけておくことを前提としている。その上に第2学年では創作活動を取り入れて、箏の特徴にあった表現の工夫を考えたものである。

共通教材「浜辺の歌」は、七五調の歌詞や曲想から情景を想像して歌うことができる。8分の6拍子の拍節が流れるような雰囲気醸し出しており、箏の伴奏を取り入れると音色や奏法がよく合う。また楽曲が二部形式で構成されており、伴奏も反復、変化によって表現の工夫ができる。

そこで、これまでに身につけてきた箏の基本的な奏法を生かし、1～2小節のリズムパターンを考えさせたい。さらに和音を手がかりにして、伴奏音楽の創作に取り組みさせたいと考え、指導計画を立てた。

(3) 指導計画

1. 目標

- 第1時 「浜辺の歌」の歌唱をとおして、曲の情景を想像したり、音楽を形づくっている拍子の流れを感じ取る。
- 第2時 「浜辺の歌」の特徴を知り、リズムパターンを考え、和音を手がかりにして伴奏音楽をつくる。
- 第3時 創作した伴奏音楽を互いに聴き合い、全体のまとまりを考えながら表現の工夫をする。

2. 展開

第1時

分	生徒の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
10	1 「浜辺の歌」を聴き、曲の情景を想像する。	1 ・ 七五調の歌詞の解説をする。 ・ ワークシートでイメージに合うものに○をつける。	・ CD ・ 教科書 ・ 浜辺の写真 ・ ワークシート (指導資料18)
10	2 楽曲を歌いながら8分の6拍子で	2 8分音符3拍を1つのまとまりにし	・ ピアノ伴奏

	指揮をする。	・ て指揮をすると曲の流れをつくる ことができることに気付かせる。	
15	3 曲の構成を考えながら歌う。	3 4小節ごとに4つの部分からでき ていることに気付かせる。	・ 実物投影機
10	4 テンポを変えて、たっぷり歌ったり、 早めのテンポで歌うなど、表現を工夫する。	4 曲の速度を変化させることで雰囲気 が変わることを感じ取らせる。	
5	5 箏で演奏する「浜辺の歌」の伴奏 を聴く。	5 箏の音色や奏法が、音楽を形づく っている拍子やリズムに合っている ことを考えさせる。	・ 箏の伴奏

第2時

分	生徒の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
5	1 「浜辺の歌」を歌う。	1 曲の雰囲気合うよう適切な速度 で表現させる。	・ ピアノ伴奏
35	2 グループで「浜辺の歌」の伴奏音 楽を箏を用いて創作する。 (1) リズムパターンを作る。 (2) ワークシートの楽譜に記載した和 音を参考に、リズムパターンをあ てはめて伴奏を作る。	2 調弦や創作順序を知らせる。 (1) 楽曲の雰囲気にふさわしいリズム パターンを1～2小節で考えさせ る。 (2) 記譜方法を助言する。 ・ 箏で音を確認しながら記譜させ る。また伴奏楽譜の下に弦の名称 を記載させる。 ・ 様々な奏法を活用するよう助言す る。	・ 箏（へ長調に調弦 しておく）
10	3 主旋律に合わせて、創作した伴奏 を表現する。	3 和音やリズムを修正させる。	・ ピアノで主旋律を 弾く

第3時

分	生徒の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
10	1 前時に作った伴奏の練習をする。	1 他のグループと交流し、互いに聴 き合い、修正を加えたり、表現の 工夫をさせる。	・ 箏（へ長調に調弦 しておく）
30	2 グループ発表をする。	2 ・ 発表者には、工夫したところを説 明できるよう、伝える。 ・ よいところや工夫していたことを 互いに評価し合う。	・ 歌唱CDまたはピア ノの主旋律
10	3 よくできていたグループを選び、 伴奏をしてもらいながら、全員で 主旋律を歌唱する。	3 箏で主旋律を演奏できる生徒に は、演奏してもらう。	・ 箏
5	4 感想を伝え合う。	4 生徒のがんばりを認め、評価する。	・ 板書

評価及び指導（手立て）

(A) と評価される具体的な 状況	・ 楽曲を形づくっている要素を感じ取り、歌唱表現したり、箏の特徴を とらえた音楽表現を創意工夫している。
(B) と判断される状況を実 現するための指導（手だて）	・ イメージにふさわしい音楽表現をするための必要な技能や記譜につい て、個別に助言したり、指導を行う。

3. ワークシート

(指導資料18) ワークシート [中学校/表現] 箏を楽しもう 一箏で奏でる「浜辺の歌」

箏で奏でる「浜辺の歌」

氏名()

1 「浜辺の歌」を聴いたり、歌ったりして曲の情景を想像してみましょう。
自分のイメージと合うものに○を書きましよう。

- () 静かな浜辺を散歩している様子。
- () 浜辺で海水浴を楽しんでいる様子。
- () 強い波が打ち寄せている様子。

1 この曲は、何拍子でできていますか。分数の形で書きましよう。

拍子

() 音符が1小節に () 拍ある。

2 「浜辺の歌」を歌いながら、8分の6拍子(付点4分音符を1拍として)で指揮をしてみましよう。

3 指揮をしてみてわかったことを書いてみましょう

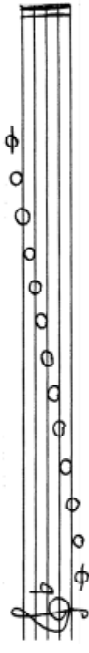
4 「浜辺の歌」にふさわしい伴奏を箏で演奏できるように弾いてみましょう。

(1) どんなリズムを使いますか? 3番の「指揮をしてわかったこと」を参考にしてみましよう。

(2) 箏の調弦を書きおきます。参考にしてください。

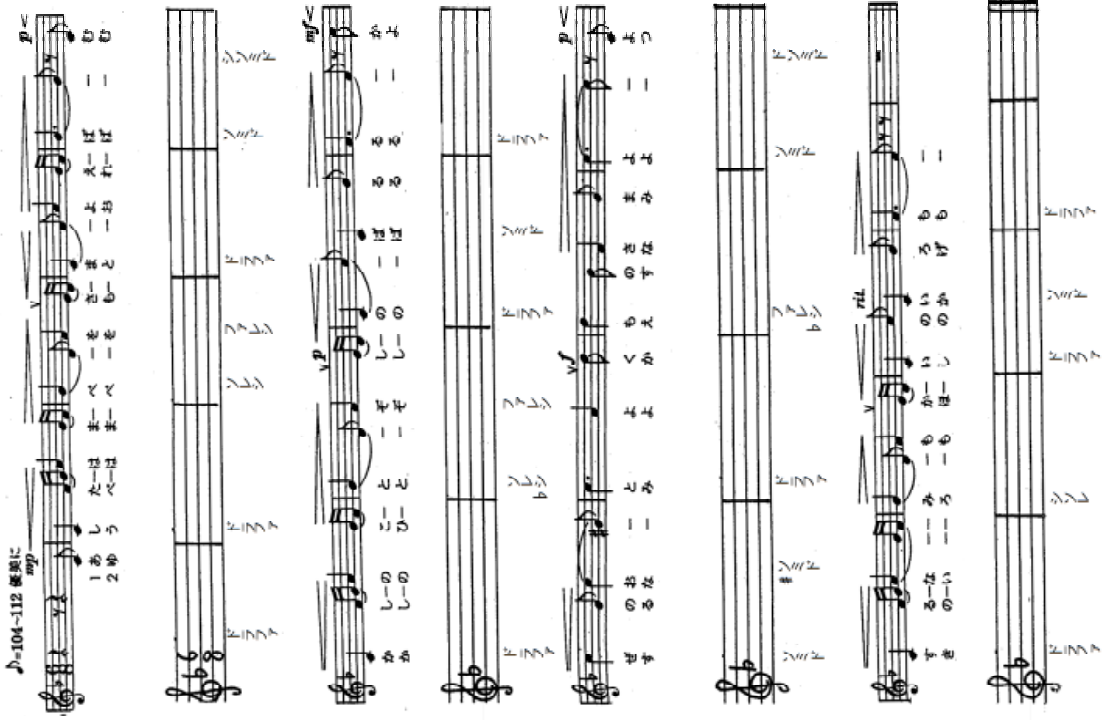
<箏の調弦>

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 斗 為 巾



3) 楽譜の下に伴奏を併せて書きましよう。(和音を参考にしして、)

小=104-112 楽譜に



(4) 授業の記録

六 箏で奏でる「浜辺の歌」



氏名()

- 1 「浜辺の歌」を聴いたり、歌ったりして曲の情景を想像してみましょう。
自分のイメージと合うものに○を書きましょう。
(○) 静かな浜辺を散歩している様子。
() 浜辺で海水浴を楽しんでいる様子。
() 強い波が打ち寄せている様子。

1 この曲は、何拍子でできていますか。分数の形で書きましょう。

$\frac{6}{8}$ 拍子

(8) 音符が1小節に (6) 拍ある。

2 「浜辺の歌」を歌いながら、8分の6拍子(付点4分音符を1拍として)で指揮をしてみよう。

3 指揮をしてみてもわかったことを書いてみましょう

曲代わるやか竹ので、2拍子だと表現しやすかった。

4 「浜辺の歌」にふさわしい伴奏を箏で演奏できるように創ってみましょう。

- (1) どんなリズムを使いますか? 3番の「指揮をしてわかったこと」を参考にリズムパターンを書いてみましょう。

6
8

(2) 箏の調弦を書きおきます。参考にしてください。
<箏の調弦>

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 斗 為 巾

3) 楽譜の下に伴奏を創って書きましょう。(和音を参考にして、)



箏で奏でる「浜辺の歌」

氏名 ()

- 1 「浜辺の歌」を聴いたり、歌ったりして曲の情景を想像してみましょう。
 自分のイメージと合うものに○を書きましょう。
 (○) 静かな浜辺を散歩している様子。
 () 浜辺で海水浴を楽しんでいる様子。
 () 強い波が打ち寄せている様子。

- 1 この曲は、何拍子でできていますか。分数の形で書きましょう。

$\frac{6}{8}$ 拍子

(8分) 音符が 1小節に (6) 拍ある。

- 2 「浜辺の歌」を歌いながら、8分の6拍子(付点4分音符を1拍として)で指揮をしてみましょう。
- 3 指揮をしてみてわかったことを書いてみましょう
 ゆったり指揮ができたので、音のつらさはリガバくわがた。
- 4 「浜辺の歌」にふさわしい伴奏を等で演奏できるように創ってみましょう。

- (1) どんなリズムを使いますか？ 3番の「指揮をしてわかったこと」を参考にリズムパターンを書いてみましょう。

$\frac{6}{8}$

- (2) 箏の調弦を書いております。参考にしてください。
 <箏の調弦>

— 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 斗 為 巾

3) 楽譜の下に伴奏を創って書きましょう。(和音を参考にして)

♩=104-112 保奏に mp

あし べへ ままを さも ぶ
 1あし べへ ままを さも ぶ
 2ゆゆう べへ ままを さも ぶ

か し の こ と と し の こ と と
 か し の こ と と し の こ と と

ぜ の お な に と み よ く か え
 る な の い か し の い か し

五 一 五 一 八 二 四 一 四 一 五
 四 四 四 四 四 五 四 二 四 四 五 三

四 四 六 六 七 七 一 四 二 五 四 四
 五 一 五 一 八 二 四 一 四 一 五

四 四 二 五 二 五 四 四 五 六 六 一 四



箏で奏でる「浜辺の歌」

氏名 ()

- 1 「浜辺の歌」を聴いたり、歌ったりして曲の情景を想像してみてください。

自分のイメージと合うものに○を書きましょう。

(○) 静かな浜辺を散歩している様子。

() 浜辺で海水浴を楽しんでいる様子。

() 強い波が打ち寄せている様子。

- 1 この曲は、何拍子でできていますか。分数の形で書きましょう。

$$\frac{6}{8}$$

拍子

(9) 音符が1小節に (6) 拍ある。

- 2 「浜辺の歌」を歌いながら、8分の6拍子 (付点4分音符を1拍として) で指揮をしてみてください。

- 3 指揮をしてみてわかったことを書いてみましょう

2拍子と長いフレーズを感じることがわかった。

- 4 「浜辺の歌」によさわしい伴奏を箏で演奏できるように創ってみましょう。

- (1) どんなリズムを使いますか? 3番の「指揮をしてわかったこと」を参考にリズムパターンを書いてみましょう。

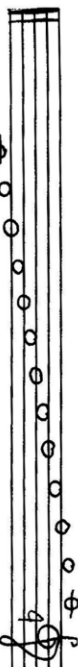
- (2) 箏の調弦を書いておきます。参考にしてください。

<箏の調弦>

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 斗 為 巾

⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮

⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙



- 3) 楽譜の下に伴奏を創って書きましょう。(和音を参考にして、)



1 あし たは まーを さーまーお ばーら ーむ
2 ゆう べーは まーべーを もーもー



(5) 考察

「浜辺の歌」の第1時の授業では、指揮をさせながら歌唱表現を行い、曲の情景や拍子の流れを感じ取らせることができた。また4つの部分の構成について学習を行い、反復・変化によって表現の工夫ができた。第2時では、第1時の学習を活用してリズムパターンを考えさせたり、提示した和音進行により箏で伴奏音楽を創作できた。さらに第3時ではグループ活動を積極的に行い、互いに発表評価し合うことができた。

このように共通教材を用いて、箏で創作活動を展開するという着眼は、少ない授業時数で運営していく上で有効であった。また1学年で箏の基礎的な技能を身につけた上で、2学年では技能を活用しながら創作活動に発展させていくことができるようになった。生徒の発達段階に合わせ、主体的な音楽活動が無理なくできたと考える。

今回の「伝統音楽促進事業」においては、現場の教師と実演家が協力し、教材作成に取り組んだ。表現領域では、教科書にある教材を用いて、「箏で伴奏をつくる」創作活動を取り入れた。

この発想は、いかに少ない授業時数で教材に和楽器を取り入れ、生徒の興味・関心を引き出し、和楽器の良さや特徴を感じ取らせる工夫であった。

創作の指導にあたっては、実演家の藤本先生から、創作するアイデアを「即興で演奏して見せる」ことを助言していただいた。

このように洋楽に和楽器を取り入れ、無理なく、創作を取り入れた表現活動が可能になった。また共同で研究することで、現場の教師と実演家の音楽に対する考え方を理解し、共有し、互いの良さが教材作成に生かされた。今後も多くの教員に共同で教材開発に取り組む機会があれば、と考える。

丸與 直子

<全体的意見として>

- この度の学校現場の先生方と実演家の協働作業は大変意義のある取り組みでありがたいものでした。デザインシンキングの手法で取り組めたのは大変効率的でよかった。
- 先生と実演家のお互いの主張や授業現場での状況がよくわかり、お互い歩み寄る事により良い授業ができるきっかけとなった。
- より多くの両者の意見が聞け大変広がりのある授業形態の可能性が見えた。普段授業講師を頼まれても、事前の話し合いが取れずお互い一方的授業の進め方になってしまいやすい。

<具体的授業に関して>

- 実演家側は授業する学校の環境をよく把握しておく事が大事。
- 邦楽授業の一番大事な音色や間を感じられる授業にする。
- 教科書から離れるのは大いに結構だが、教科書を利用できることも大事である。
- 普段授業放棄をするような生徒でも和楽器に興味を持つことができる。
- 先生方も最低限の箏などの取り扱いや手法を身につけて可能な限り先生自身も和楽器を楽しむスタンスで授業をしてほしい。
- 実演家は実技を詰め込みすぎず将来邦楽に興味を持てるようなきっかけとなるような授業であることも大事。
- この度のチームはよく箏を勉強されており、授業がスムーズにいった。今後の邦楽授業が楽しみである。

藤本 雅登伎

【教材案⑱】 [中学校/表現] 箏を楽しもう ―お箏でマンボ NO.5―

対象児童生徒	中学校 第2・3学年
題 材	箏を楽しもう ―お箏でマンボ NO.5―
学習のねらい	表現したいイメージをもとに、全体のまとまりを工夫しながら副旋律をつくる。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	A 表現(3) イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。 〔共通事項〕 音色・速度・強弱・構成
教材	器楽曲「マンボ NO.5」(教育出版教科書)
学習の流れ (児童生徒の活動)	第1時 参考曲を聴き、箏の特徴を聴き取り、主旋律を箏で練習しながら、曲のイメージを考える。 第2時 リズムパターンを参考に音楽を形づくっている要素や構成を考えながら、 〔B〕 の部分の伴奏を考える。 第3時 他のグループと演奏をしながら、さらにイメージと要素のつながりを考え、最後に作品を発表する。
指導のポイント (教師の留意点)	・ 箏の特徴を捉えさせながら参考曲を聴かせ、イメージを考えさせる。 ・ 音楽を形づくっている要素とイメージをかかわらせながら考えさせる。
備考	参考曲 「ジュピター」遠TONE音 「ヴィヴァルディ 四季」砂崎知子 評価規準 (1) 音楽への関心・意欲・態度 箏の音色や奏法に関心をもち、箏の特徴を生かし音楽表現を工夫して音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 (2) 音楽表現の創意工夫 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、表現したいイメージをもち、箏の特徴を生かし構成を工夫し、どのような音楽をつくるか思いや意図をもっている。 (3) 音楽表現の技能 箏の特徴、構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。

お箏でマンボNo.5

2年 番()

【調弦】

ソ ラ シ ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド レ ミ



一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 斗 為 巾



A



五 八 五 五 五 八 五 五 五 五 五 八

B

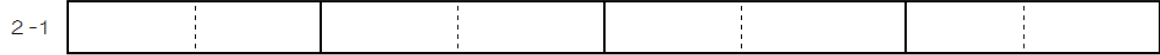


五 七 九 八 九 五 七 九 - 八 九 四 六 九 八 九 四 六 九 八 九

リズム



2-1



リズム



2-2



リズム



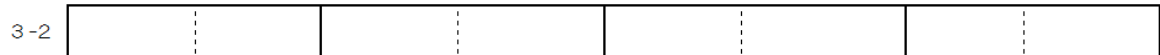
3-1



リズム



3-2



C



八 八 八 八 八 八 斗 斗

お箏でマンボNo.5

伴奏を考えて、「マンボNo.5」を箏でアンサンブルしよう!

♪パート1 主旋律・・・・・・・・メロディ
♪パート2・3 伴奏・・・・・・・・**B**のリズムを考えて伴奏を創る
(**A**・**C** はメロディと同じリズム)
♪演奏は、**A**-**B-1**-**B-2**-**C**

1 どんな 感じの 「マンボNo.5」 にしますか？

--

2 参考曲を聴いたり、次のリズムパターンを参考にして、**B**のリズムを考えましょう。

(1) $\frac{2}{2}$

(2) $\frac{2}{2}$

(3) $\frac{2}{2}$

(4) $\frac{2}{2}$

(5) $\frac{2}{2}$

他のリズム
を考えても
いいよ!



パート
2-1

--	--

パート
2-2

--	--

2年 番()

パート
3-1

_____	_____
-------	-------

パート
3-2

_____	_____
-------	-------

- 3 リズムにあわせて、音を考えましょう。
※演奏しながら音を確認しましょう。
※目標にした感じとあっているかな？音楽の要素を考えてみよう。

【どんな感じ】	【音楽の要素】	【音楽の要素をどうする】
	→	→

- 4 中間発表
他の班の発表やコメントを参考にして、もう一度考えてみましょう。

【変更したところ】

- 5 この学習を振り返って（創作・箏の演奏など）

--



<授業事例⑧> 美馬市立穴吹中学校 2 年生

指導・報告者 小笠原仁美（美馬市立穴吹中学校）

(1) 授業の概要

題 材	箏を楽しもう ― お箏でマンボNO.5 ―
日 時	平成26年1月（4時間）
場 所	美馬市立穴吹中学校
対 象	美馬市立穴吹中学校2年生

(2) 指導にあたって

本題材は、1学年で身に付けた基本的な奏法を生かしながら、創作に取り組んでいる。また、箏が様々なジャンルの音楽に挑戦できる身近な楽器であることに気づかせるとともに、主体的に創作活動に取り組めるように教材を選択した。

教材曲「マンボNO.5」は、同じ音やリズムが繰り返されリズムに乗りやすく、イメージがしやすい。また、メロディも簡単ですぐに弾くことができる。リズムパターンを示すことによって、多くの生徒が創作がしやすくしている。また、2パートを考えさせ、和音意識させたり、全員が活動しやすく創作活動ができるようにした。

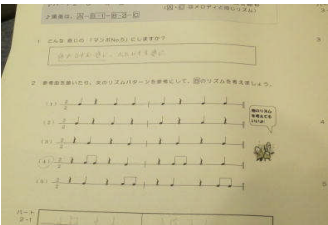
(3) 指導計画

1. 目標



- 第1時 参考曲を聴き、箏の特徴を聴き取り、主旋律を箏で練習しながら、曲のイメージを考える。
- 第2時 リズムパターンを参考に音楽を形づくっている要素や構成を考えながら、Bの部分の伴奏を考える。
- 第3時 他のグループと演奏をしながら、さらにイメージと要素のつながりを考え、最後に作品を発表する。

(4) 授業の記録

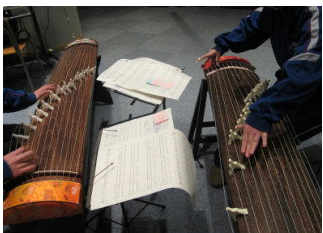
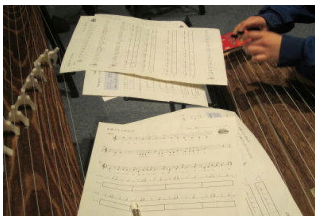
第1時

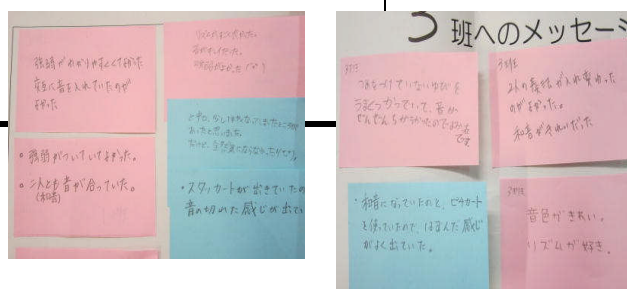
分	児童の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
10	1 参考曲を聴く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ジュピター」(遠TONE音), 「ヴィヴァルディ 四季」(砂崎知子)を聴かせ, 箏の特徴を聴き取らせる。 ・ 奏法によって音色が変わることに気づかせる。 ・ 同じ音やリズムの繰り返しに気づかせ, 基本的な箏をを確認しながら演奏させる。 ・ 「マンボ NO.5」を聴きどんな感じの曲にしたいか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CD ・ 教科書 ・ ワークシート1 (指導資料19) ・ ・ CD ・ 教科書 ・ ワークシート2 (指導資料20)
30	2 主旋律を箏で弾く。		
10	3 イメージを考える。 		

第2時

分	児童の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
5	1 前時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習を振り返りながら主旋律を演奏させる。 ・ 各班で, ワークシート(1)をもとに, イメージを確認させる。 ・ グループで, どのようなリズムにするか, ワークシート(1)のリズムパターンから考えさせる。それ以外のリズムも可能であることを助言する。 ・ 反復や変化など構成を考えるよう助言する。 ・ 2パートに別れさせ, 全員が活動しやすくする。 ・ 箏を弾き, 音を出しながら考えさせ, ワークシート(楽譜)に書かせる。 イメージを確認し, 速度や強弱, 奏法など音楽の要素を意識しながら考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 ・ ワークシート1 (指導資料19) ・ ワークシート2 (指導資料20)
15	2 B のリズムを考える。 		
20	3 音を考える。 		
10	4 各班で伴奏の確認のために演奏する。		

第3時

分	児童の活動	教師の支援, 支援上の留意点	準備物等
5	1 前時の学習を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 主旋律を演奏させる。 前時に創作した伴奏を演奏させ、音を確認させる。 主旋律と合わせて伴奏を確認させる。 隣の班と創作した伴奏を発表し合い、イメージに合っているかどうかアドバイスをさせる。 反復や変化など構成や音楽の要素のイメージを考えながらアドバイスをさせる。 アドバイスをもとに、よりイメージに合うように考えさせる。 イメージを発表してから、演奏をさせる。 音楽の要素とイメージを意識させながら相互評価をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 ワークシート1 (指導資料19) ワークシート2 (指導資料20) 付箋 ワークシート2 (指導資料20)
10	2 主旋律と合わせる。		
10	3 中間発表をする。 		
15	4 よりイメージに合う伴奏を考え、主旋律と合わせる。		
10	5 成果を発表する。 		



箏のことがいろいろ分かった。1年生の時は意味不明だったことが分かるようになって、意外と楽しいことが分かった。いろいろな音が出ていい曲ができてよかった。

難しいと思っていたけど、やってみるとスラスラできて楽しかった。合奏をするととても大きな音がでて、とてもいいマンボだったと思う。

リズムや強弱を工夫したり音を加えながら創作して時間もかかったけど、みんなからアドバイスをもらいあったり、練習をした結果、とてもすばらしい伴奏ができました！

メロディに合わせて伴奏を考えるのは難しかった。でもすごく楽しかった。いろいろな工夫をしていくとどんどん雰囲気が変わってきて、みんなで考えながらするのは楽しかった。

(5) 考察

「マンボNO.5」は、生徒たちが大変楽しく意欲的に取り組んだ。難しいと思っていたようであるが、音やリズムの繰り返しで演奏も比較的簡単に弾けた。そのためか、創作も大変意欲的に取り組んでいた。音をしっかり出しながらいろいろな奏法も自分たちなりに見つけ出した班もあった。箏の奏法による音色の違いについても、聴き取れるようになってきた。この学習を通して、箏の特徴を生かしながら創作活動ができ、楽器の良さをあらためて発見できたり、より身近な楽器となったようである。また、難しいと敬遠がちだった創作活動も箏を活用することによって、音を確認しやすく意欲的に活動できた。

生徒たちは、日本の伝統音楽や和楽器の学習に非常に興味をもって取り組みます。その意欲をさらに高め、限られた時間の中で効率よくそして充実した学習にするために、今回のように実演家の方からのアドバイスや生演奏は非常に効果があったように思います。私たちもこれまでにいろいろな研修を受け、授業をしていました。しかし、どこか不安を抱きながら授業をしていたのではないかと思います。今回、そんな部分もクリアーでき、細かいポイントまで教えていただき貴重な勉強の機会になりました。なかなか実演家の先生方と授業はできませんが、この事業を推進していく中でいただいた指導のポイントを今後の授業の中でいかし、生徒たちがより日本の伝統音楽や和楽器に意欲的に取り組み、日本の音楽のすばらしさを感じ、誇れることができるよう取り組んでいきたいと思ひます。

小笠原 仁美



6 箏曲を味わおう

- 中学生を対象とする箏の鑑賞領域の教材作成に取り組みました。

教材案⑳ [中学校／鑑賞] 箏曲を味わおう ―箏で描かれた情景を表現しよう―

- 教材案⑳を使って、授業を実施しました。

授業事例㉑ 徳島市北井上中学校1年生

研究委員

森本 祥子（もりもと・しょうこ）

鳴門教育大学附属中学校

川丘 容子（かわおか・ようこ）

徳島市北井上中学校

田中 香苗（たなか・かなえ）

美波町立日和佐中学校

井内 久美子（いのうち・くみこ）

徳島県邦楽協会・美乃里会

【教材案⑳】 [中学校/鑑賞] 箏曲を味わおう ―箏で描かれた情景を想像しよう―

対象児童生徒	中学校第1学年
題 材	箏曲を味わおう ―箏で描かれた情景を想像しよう―
学習のねらい	箏のさまざまな奏法に関心をもち、奏法が生み出す音色や楽曲の特徴や、それらが生み出す特質や雰囲気を知覚・感受し、楽曲のよさや美しさについて自分なりに解釈・説明する。
学習指導要領との 関連・〔共通事項〕	B 鑑賞（1）鑑賞の活動 ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。 〔共通事項〕音色、リズム、速度、形式
教材	「六段の調」八橋検校 作曲 「秋の曲」「冬の曲」吉沢検校 作曲 （関連教材として「春の曲」「夏の曲」）
学習の流れ （児童生徒の活動）	1 箏の奏法について復習する。 2 「春の曲」「夏の曲」「秋の曲」「冬の曲」の前弾部分を鑑賞し、それぞれの季節の、どんな情景を表現しているか想像しながら聴く。 3 「秋の曲」「冬の曲」の前弾部分を鑑賞し、さまざまな奏法が生み出す音色やリズム（間）、速度と曲想とを関わらせながら鑑賞する。 4 「秋の曲」「冬の曲」の前弾部分について、音楽の特徴や自分が感じたよさについて紹介文を書く。
指導のポイント （教師の留意点）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時（3/3）については、「六段の調」を学習した後の1時扱いとする。 ・ 「春の曲」「夏の曲」「秋の曲」「冬の曲」の前弾部分の鑑賞の場面では、どの季節のどんな情景を表現しているか想像させながら鑑賞させる。その際に、奏法や調弦方法など「六段の調」での学習内容とかかわりがもたせられるよう留意する。 ・ 生徒の実態や時間配分に応じて、和歌の部分まで鑑賞させ、和歌を手がかりに、音楽の諸要素との関わりから知覚・感受できるようにする。また国語科との関連を図る。 ・ まとめとしての紹介文を書く際には、生徒が他者を意識するような課題提示の工夫を行う。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施計画案 ・ 資料音源（指導資料21） ・ 指導展開例、ワークシート（指導資料21）

<授業事例⑨> 徳島市北井上中学校 1 年生

指導者	川丘 容子 (徳島市北井上中学校)
報告者	森本 祥子 (鳴門教育大学附属中学校)
実演家	井内 久美子 (美乃里会)

(1) 授業の概要

題 材	箏曲を味わおう 一箏で描かれた情景を想像しよう一
日 時	平成25年12月11日(水)
場 所	徳島市北井上中学校(音楽室)
対 象	徳島市北井上中学校第1学年(26名)

(2) 指導にあたって

本学級の生徒は、実技を伴う活動や体験的な活動には主体的に取り組むことができるが、言葉で自分の思いを伝えたり、意見を述べたりするのは苦手な生徒が多い。そこで、表現と鑑賞の活動の支えとなる〔共通事項〕を意識した授業展開を進め、音楽を形づくっている要素や構造と、それらの働きによって生み出される曲想とのかかわりを意識させるために、板書やワークシート、学習形態の工夫をしてきた。グループ活動では、自分なりに音楽のよさや美しさを味わったり、それを伝えたりすることができるようになってきた。さらに音楽を主体的に聴き味わうことができるよう、多様な音楽体験を通して、仲間とともに音楽を愛好する心情の育成や、音楽のよさや特質を感じ取る生徒の育成を目指したいと考えている。

本授業「箏で描かれた情景を想像しよう」は、題材「箏曲を味わおう」において、表現(器楽)領域とかかわりをもたせ、箏曲「六段の調」の発展的な内容として位置づけた。

表現(器楽)領域では、箏の基礎的な奏法を身に付けることをねらいとし、グループで協力しながら、「さくらさくら」の演奏に取り組んだ。多くの生徒が箏に触れるのは、初めてであったが、意欲的に学習に取り組むことができ、箏に対する興味も、実際に演奏していただくことで高まったことを実感した。「六段の調」の鑑賞では、様々な奏法から生み出される音色や楽曲全体の構成に着目し鑑賞を行った。教師の実演も交えながら、奏法によって異なる音色の違いや序破急によって生み出される音楽の表情を意見交換しながら学習を進めた。

これまでの箏についての学習内容を十分に踏まえ、「秋の曲」「冬の曲」の前弾部分を鑑賞しさせる。奏法から生み出される音色やリズム(間・序破急)、速度と曲想とをかかわらせながら、音楽が表している情景を想像することによって、箏曲の魅力を感じ取ったり、和歌を参考に、さらに自分のイメージを膨らませたりしながら、日本の伝統的な音楽の特質やよさを味わわせたい。また、学習活動の展開においては、仲間と自ら感じたことと他者の解釈も共有しながら学習を進めていけるよう留意したい。

(3) 指導計画

1. 目標

- 箏の様々な奏法から描かれている情景を想像し、意欲的に鑑賞している。
- 音色、速度、リズム(間)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、自分なりによさや美しさを味わって聴いている。

2. 展開

- 本時(3/3)は、「六段の調」において、箏の基礎的な奏法や楽曲について学習した後に、「古今組」を教材とし、発展、まとめの学習として位置づける。
- 指導展開例は学習計画の「学習の流れ」に基づいて、あくまでも1つの展開事例とする。

分	学習活動	指導上の留意点	学習課題における 具体的評価規準	評価方法
5	1 前時の復習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「六段の調」で学習した箏の奏法や日本音楽特有のリズム（間）などを確認させる。 		
10	2 『古今組』の「春の曲」「夏の曲」「秋の曲」「冬の曲」の前弾部分を鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの前弾部分を鑑賞させ、「どんな感じがしたか」、想像した情景についてメモをとらせる。 ・ 生徒の意欲を高めるため、どの季節のものかふせて鑑賞させ、楽曲を鑑賞したイメージからどの季節を表しているか予想させる。 ・ 楽曲の初感について意見交換を行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箏の様々な奏法から描かれている情景を想像し、意欲的に鑑賞している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記述内容 ・ 発言
20	3 「秋の曲」「冬の曲」の前弾部分を鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奏法から生まれる音色・リズム（間）・速度に着目させながら、想像したイメージとのかかわりを感じ取らせる。 ・ それぞれの前弾部分のよさや美しさについて意見交換させる。 ・ 楽曲の背景や構成について説明する。 		
15	4 「秋の曲」「冬の曲」の前弾部分のそれぞれのよさや美しさについてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽の諸要素と曲想とをかかわらせながら、初めてこの曲を聴いた人に自分が感じたよさや美しさを伝えられるような紹介文を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音色，速度，リズム（間）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受しながら自分なりによさや美しさを味わって聴いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記述内容

評価及び指導（手立て）

(A) と評価される具体的な状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音色・リズム・速度と曲想とを関連付けながら楽曲の特徴を聴き取り、これまでの学習内容や自己の経験とを結び付け、音楽を捉えることができています。
(B) と判断される状況を実現するための指導（手だて）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間の意見の中から共感したことを手がかりにししながら、楽曲を聴き取る。 ・ 聴取る手がかりとなるよう、具体的な音楽の特徴を教師が提示する。

3. ワークシート

(指導資料21) ワークシート [中学校/鑑賞] 箏曲を味わおう—箏で描かれた情景を想像しよう—

箏曲を味わおう

1年 組 氏名()

箏で描かれた情景を想像しよう

♪ 古今組「春の曲」「夏の曲」「秋の曲」「冬の曲」より前弾の部分

♪ 今から聴く音楽は「どんな感じがする?」「どんな情景を表しているかな?」

↳ どの季節を表現しているだろう・・・。

A どんな感じ?情景

季節

<友だちの意見>

B どんな感じ?情景

季節

<友だちの意見>

C どんな感じ?情景

季節

<友だちの意見>

D どんな感じ?情景

季節

<友だちの意見>

♪「秋の曲」と「冬の曲」前弾部分の想像する情景と音楽の特徴とを結び付けながら味わってみよう。

【音楽の特徴の手がかり】 **音色・速度・間**

♪「秋の曲」



どんな感じ？	↔	どんなところから？
(例) 桜の花びらが風に舞い散っている。		→・速度が少し速くなり、かき爪が入っている。

♪「冬の曲」



どんな感じ？	↔	どんなところから？

♪「秋の曲」と「冬の曲」前弾部分の自分が感じたよさや美しさをこの曲を初めてこれから聴く友だちに伝えよう。

「秋の曲」	「冬の曲」

4. 楽曲について

吉沢検校作曲『古今組』について

◇ 作曲者について

『古今組』の作曲者、二世吉沢検校の生年・享年については一致した説はない。死去の年齢は65歳説と72歳説があり、それによると1801年もしくは1808年生まれであろうということである。生地はおそらく名古屋近辺。9歳のときに痘疾のために失明し、文政2年に句当の位を受けた後、禅学・国学・和歌を修めた。天保5年に検校となる。吉沢の功績・作品は京都において親交を結んだ光崎検校の影響を受けていると思われる。光崎は、三味線に対して従属的であった箏を独立させようと、作曲に新たな方向性を見いだした人物である。吉沢も、古い時代の箏曲である「組歌」や、雅楽で使われる新しい調弦方法、一「古今調子」を生み出した。吉沢の箏のための作品は『古今組』のほかには、「花の縁」「玉くしげ」「深山木」「新山姥」などがある。

◇ 楽曲の背景と構成

『古今組』とは、二世吉沢検校が作曲した「春の曲」「夏の曲」「秋の曲」「冬の曲」および「千鳥の曲」の5曲の総称である。これらの曲の歌詞は、古今和歌集（ただし千鳥の曲の後歌は除く）から各曲の標題にふさわしい和歌2～6首を選んだものが用いられ、作曲者自身がこの曲集を『古今組』（本組）と名づけ、その呼び方が広く用いられている。この曲集のうち「千鳥の曲」は安政2年（1855）年、すなわち作曲者の55歳または49歳の時の作品といわれているが、他の4曲については、いつごろ、どういう順序で作られたかは明らかではない。

『古今組』5曲のうち、吉沢自身が手事（てごと：歌にはさまれた楽器だけの長い間奏部）をつけたのは「千鳥の曲」だけで、その他の4曲については、京都の松坂春栄（まつざかはるえ）が明治28年頃に手事を挿入したり、替手（かえで：本手と合奏するためにあとから付け加えて作曲された別の旋律）をつけた。そのことによって、数年のうちに全国で演奏されるようになった。この『古今組』に用いられた和歌は、「千鳥の曲」の後歌が『金葉集』から採られたことを除けば、後は全て『古今和歌集』から吉沢自身によって採取された。吉沢は古文和歌の教養も深く、古典にかえるにふさわしく、かつ周知の内容を持つ『古今和歌集』の歌を歌詞として選んだ。『古今和歌集』そのものが季節の推移に厳密にしたがって並べられており、「春の曲」「夏の曲」「秋の曲」「冬の曲」に用いられた和歌は、そこから配列順に抜き出されたもので、4曲とも季節の移ろいを表したものとなっている。和歌数と選ばれた歌詞は次のようになっている。

曲名	和歌数	「古今和歌集」和歌番号					
		14	19	53	111	120	131
春の曲	6						
夏の曲	4	144	158	165	168		
秋の曲	6	172	174	193	214	264	274
冬の曲	4	314	324	327	341		

歌詞解説

◇「春の曲」

- 鶯の 谷より出づる声なくば 春來ることを誰か知らまし
谷から出て来て鳴くウグイスの声がなかったならば、誰も春の到来に気付かないでしょう。
- 深山には 松の雪だに消えなくに 都は野辺の若菜摘みけり
山奥では、待つ枝に積もった雪さえまだ消えていないのに、都には春が来ていて、人々若菜を摘んでいたのですね。
- 世の中に 絶えて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし
世の中に、すぐ散る桜がなかったならば、いつ散るのか心配しなくても済むから、春の人々の心は、もっと落ち着いたものになるでしょう。
- 駒並めて いざみに行かん 古里は 雪とのみこそ花は散るらめ
馬を並べて、さあ、見に行きましょう。今頃、昔馴染みのあの里では、桜がただもう雪のように散っていることでしょう。
- 我が宿に咲ける藤波 立ち返り 過ぎがてにのみ人の見る
私の家の庭に波のごとく咲く藤の花を、立っては返す波のように、行ったり来たり立ち返って眺める通行人。どうして、そんなに通り過ぎにくそうに見ているのでしょうか。
- 声絶えず鳴けや 鶯 一年に 再びとだに來べき春かは
存分に泣き続けておくれ、ウグイスよ。この春が終われば、今年中にもう2度と春はやってこないのだから。

◇「夏の曲」

- 石上 ふるき都の時鳥 声ばかりこそ昔なりけれ
まわりの風景が一変していても、石上布留の古い都のホトトギスは、声だけは昔のまま、変わりありませんねえ。
- 夏山に 恋ひし人や入りにけん 声ふり立てて鳴く時鳥
夏山に恋しい相手が籠もってしまったとでも言うのでしょうか。声を振り擽って鳴くホトトギスよ。
- 蓮葉の 濁りに染まぬ心もて 何かは露を玉と欺く
蓮の葉は、濁りに染まらない清らかな心を持っているのに、なぜ葉の上の露を玉のように見せて人を欺くのでしょうか。
- 夏と秋と 行き交ふ空の通い路は 片方涼しき風や吹くらん
去る夏と来る秋とが交差する空の通路では、片側は、涼しい秋風が吹いているのでしょうか。

◇「秋の曲」

- 昨日こそ早苗とりしか いつの間に稲葉そよぎて 秋風の吹く

つい昨日、苗代から早苗を採って田植えをしたと思っていたのに、いつの間に稲の葉がそよそよと音を立てて、秋風が吹くようになったのでしょうか。

- 久方の天の河原の渡守 君渡りなば 楫隠してよ

天の河の河原の船頭さん、彼(彦星)が天の河を渡って私(織姫)野所に来たならば、彼が帰れない世に楫を隠してくださいね。

- 月見れば 千々にもものこそ悲しけれ 我が身一つの秋にあらねど

月を見ると、あれこれとももの悲しくなることですよ。私独りのためにある秋ではないのに、私だけが悲しいように錯覚してしまってます。

- 山里は 秋こそ殊にわびしけれ 鹿の鳴く音に 目を覚ましつ

山里は、秋が特にわびしいですね。鹿が妻を恋い慕って鳴く声に、しばしば目を覚ましてしまってます。

- 散らねども かねてぞ惜しき 紅葉葉は 今限りの色と見つれば

まだ散ってはいませんが、散る前から惜しくてなりません。紅葉の葉は、今にも散りそうな気配に見えましたので。

- 秋風の 吹上に立てる白菊は 花かあらぬか 波の寄するか

秋風が吹き上げてくる吹上の浜に立っている白菊は、花なのでしょう、花ではないのでしょうか。あるいは、寄せる波が花に見えているのでしょうか。

◇「冬の曲」

- 竜田川 錦織り掛けく神無月 時雨の雨を経緯にして

竜田川が、まるで錦を織って掛け渡したように紅葉する10月です。時雨の雨を縦糸と横糸にして。

- 白雪の 所もわかず降り敷けば 巖にも咲く花とこそ見れ

白雪が所かまわず一面に降り敷いているので、岩にまで花が咲いたかのように見えています。

- み吉野の 山の白雪踏み分けて 訪れもせぬ

吉野山の白雪を踏み分けて籠もりに行った人は、私に便りもくれません。

- 昨日と言ひ 今日と暮らしてあすか川 流れて早き月日なりけり

昨日はああだったと言ひ、今日はこうだったと言って暮らして、すぐ明日になってしまうものなのです。飛鳥川と同様、早く流れる月日ですね。

(4) 授業の記録

活動の実際		生徒の反応	
1	前時の復習をする。		
○	「六段の調」の作曲者や楽曲についての概要について、復習する。	○	授業開始前に、箏を弾いている生徒がいる。
○	「六段の調」の中で用いられていた奏法について、教師の実演を交え、復習する。	○	前時のワークシートを手がかりに、挙手し、積極的に発表を行う。

<p>(ピチカート, トレモロ, 合わせ爪, 裏連, かき爪, 輪連)</p>	
<p>2 本時の目標の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>箏の音色・速度(間・序破急)から情景をイメージしよう。</p> </div>	<p>○ 事前の定期テストの際に、生徒は、秋と冬の自然の音でイメージするものを書いていた。(虫の鳴く音, 風の音, 落ち葉がハラハラと舞い落ちる音など)</p>
<p>○ 板書に目標を提示する。 ○ ワークシートを配布し、作曲者や楽曲についての説明を行う。</p>	<p>○ 本時、箏によって表された「秋の曲」「冬の曲」を学習することを知る。また、この曲には、和歌がついていることを知り、俳句と和歌の違いに関心をもつ。</p>
<p>3 「秋の曲」を鑑賞する。 DVDにより、「秋の曲」の前弾部分を鑑賞させる。</p> <p>○ 奏法によって生み出される音色や速度からどんな秋をイメージするかワークシートに記録させる。</p>	<p>○ 1回目は、映像に注目して鑑賞している。 ○ 2回目は、鑑賞しながら主にワークシートへの記入を行っている。 初感としては、「もみじがはらはらと散っていくような感じ」や「もみじの緑が赤く染まっていく感じ」というようなイメージを抱いていた。</p>
<p>4 「冬の曲」を鑑賞する。 「秋の曲」と同様にDVDによって「冬の曲」の前弾部分を鑑賞させる。</p> <p>○ 「どんな情景をお箏で表現したのかな」という発問によってワークシートの記入を促す。</p>	<p>○ 同じグループの生徒と相談しながらワークシートに記入する生徒もみられる。 ○ 1回りのみの鑑賞であった。</p>
<p>5 グループで意見交換を行い、まとめるをする。</p> <p>○ グループでリーダーを中心に、拡大ワークシートに意見交換した内容をまとめていかせる。 ○ 机間指導では、主に奏法についての助言を行う。</p>	<p>○ 4～5人のグループで、順番に自分が感じたイメージを発表し合う。 ○ 男子を中心とし、活発な発言を行っている。</p>
<p>6 学級全体での共有を行う。</p> <p>○ 2つの班に代表で、それぞれが感じたイメージを発表させる。 ○ 和歌を朗読し、自分たちのイメージとあっていたか確認させる。 ○ 和歌の中のキーワードになる言葉を取り上げ、補足説明を行う。 ○ 本時のまとめとして、楽曲から自分が想像した情景やよさについて、身近な人(先生や家族)に紹介するという課題で、紹介文を書かせる。 ○ 絵を描くことが得意な子が多い学級であるため、紹介文の下にイラストを添えさせる。 ○ 実演家の先生の演奏を聴かせる。</p>	<p>○ 奏法によって生み出される音色と、イメージを結び付けながら、発表ができていた。 ○ トレモロや流し爪に着目して、イメージをもった生徒が多いようであった。 ○ 自分のイメージとあっている和歌の部分をグループの中で、確認し合う様子がみられた。 ○ 和歌の内容は、1年生ということもあり、少し難しく感じた生徒もいたようであった。</p> <p>○ 生演奏ということもあって、大変興味をもって鑑賞できていた。手元を見ながら鑑賞している生徒が多かった。</p>

♪箏曲を味わおう

「古今組」から『秋の曲』『冬の曲』

1. 曲について

作曲者：吉沢検校（読み方：よしざわけんぎょう）

「古今組」とは？

「春の曲」「夏の曲」「秋の曲」「冬の曲」および「千鳥の曲」の5曲をまとめて呼ぶ名称です。それは、この曲集の歌詞には、「古今和歌集」（ただし、千鳥の曲の後歌は除く）から各曲の標題ひょうだいにふさわしい和歌2～6首を選んだものが用いられているからです。作曲者自身がこの曲集を「古今組」と名付け、その呼び名が広く用いられています。

2. 「古今組」から『秋の曲』『冬の曲』の前弾部分ぜんだんを聴きましょう

♪箏の音色（奏法や余韻の変化）、速度から描かれている情景をイメージしよう

『秋の曲』

奏法・音色の変化

押し手によつて音が高くなり、
秋の季節のはやさを表しているよう、
↑
(割瓜) サラサラ～

イメージする情景

紅葉の終わりがけ山が緑から赤に染ま
っていきよう。

『冬の曲』

奏法・音色の変化

ヒラヒラ、パラパラ
シヤララ～ン♪

イメージする情景

雪が降って降りつもっていく感じ。
かき瓜のところは子供たちが雪の中で
遊んではけているかんじ。

私は「秋の曲」のよさを
(おばあちゃん)に伝えます♪



箏はいろんな奏法があります。「秋の曲」
にも押し手、トレロ、流し爪、合わせ爪、後押し
などが使われています。私はこの曲をきいた時、真
赤なもみじがいっぱいある所をイメージしました。トレ
ロと流し爪からこの情景が思い浮かびました。
この曲をきくと、何か優しく、温かい気持ちになりま
す。いやなことや不安、モヤモヤをいやしてくれる曲だと
私は思います。箏のゆっくりな音色はとても美しいので
ぜひ、きいてみてください。



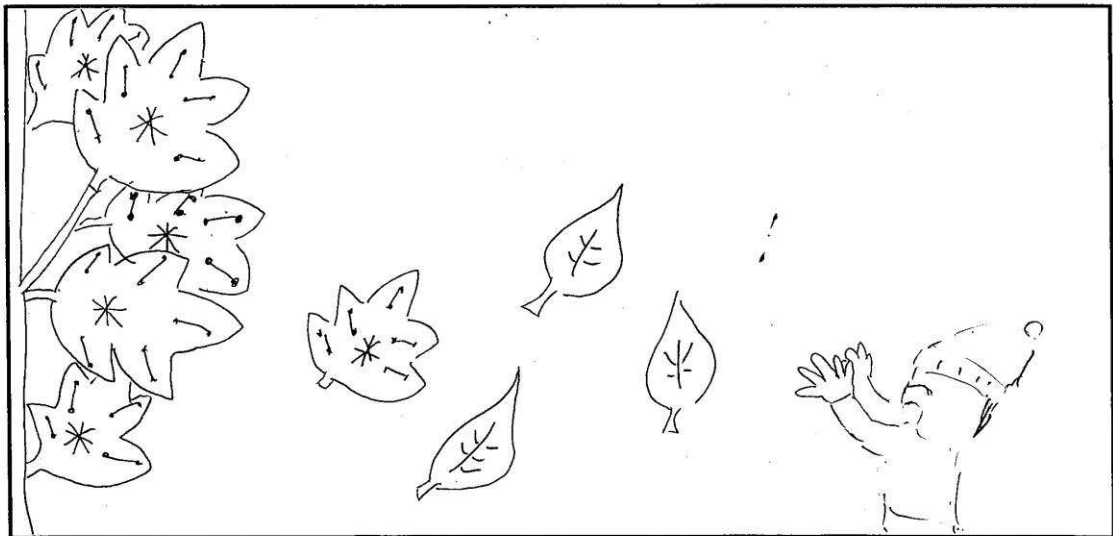
私は「秋の曲」のよさを
(長地先生) に伝えます♪



たくさんの紅葉がトレモロという奏法の仕方によって強い風に吹かれて散っていくような感じがします。

黄色や赤 冬に向けてかれ葉がおちている葉の上を駆けまわる感じ。

奏法や音色の変化は 押し手、トレモロ、流し爪、合わせ爪、後押し、割り爪など 多数あります。なめらかな所や弱い → 強い → 弱いなどの強弱とついていてより一層「秋」という感じがしました。



<紹介文例>

私は「秋の曲」のよさを（お母さん）に伝えます。

“秋”といったイメージが、すぐ思いつくような音色で、紅葉が風に吹かれて落ちてゆく感じがします。それもたくさんじゃなくて、数枚がゆっくりフワフワと落ちてゆく感じです。

音色は、シャカシャカ、ポロロ〜ン、シャラシャラなど、色々あります。頭に浮かんだのは、赤や黄色に染まった紅葉です。

私は「秋の曲」のよさを（高橋先生）に伝えます。

秋の曲は、お箏で弾きとてもきれいな曲です。たくさん音色が変わって色々な情景をイメージすることができます。思い浮かんだ情景は、もみじが散る様子や春の訪れなどが感じられ、どれもキレイです。秋の曲の音色は「流し爪」というハーブのように「チャララ〜ン」というようなきれいな音が途中で聞こえます。とてもすばらしいので、学年主任の高橋先生に伝えたいと思いました。

私は、「秋の曲」のよさを（おばあちゃん）に伝えます。

箏はいろいろな奏法があります。「秋の曲」にも押し手、トレモロ、流し爪、合わせ爪、後押しなどが使われています。私はこの曲をきいた時、真っ赤なもみじがいっぱいあるところをイメージしました。トレモロと流し爪からこの情景が思い浮かびました。この曲をきくと、何か優しく、温かい気持ちになります。いやなことや不安、モヤモヤをいやしてくれる曲だと私は思います。箏のゆっくりな音色はとても美しいのでぜひきいてみてください。

私は、「冬の曲」のよさを（長地先生）に伝えます。

最初は、静かに始まってせつなく、雪が降っている感じがしました。次第に、雪の量が増えていっぱい積もり、最後の方は、子供たちが雪で遊んでいるようでした。トレモロや流し爪では雪がパラパラ舞っている感じがして、とてもきれかったです。春の訪れを待っているような感じで、奏法もとてもすてきでした。

私は「冬の曲」のよさを（長地先生）に伝えます。

私は、かき爪のところが吹雪っぽくて、押し手のところは、なめらかではらはら落ちる感じがしました。最後のメロディーに近付くたびに、春の訪れが来ている感じがして、いろんな雪の状態が想像できました。静かな感じがして落ち着く感じがしました。

(5) 考察

- ・ 表現（器楽）領域とかかわりをもたせながら鑑賞したため、箏という楽器そのものや奏法によって生み出される音色に、関心をもって学習に取り組めた生徒が多かった。
- ・ 「六段の調」の鑑賞の授業であると、音楽を形づくっている要素に着目した授業展開になりがちであったが、季節の情景が描かれているという楽曲の特徴や和歌による二次的な刺激もあり、生徒の楽曲から想像する情景もふくらみやすかった。
- ・ 対象学年が第1学年ということであったが、和歌の内容については少し難しかったようであった。国語科との学習内容のかかわりをもたせたり、和歌が楽曲を鑑賞する際の手がかりとして有用に働くためには、指導計画の位置づけをもう少しあとにした方がよかった。
- ・ 実演家の先生によるDVDは、生徒が興味の高い奏法の部分を中心に作成されたものであったため、大変よかった。今後も活用させていただきたいと思う。
- ・ 授業実践にあたって、事前に実演家の先生から、楽曲について学ばせていただく機会を設けることができればよかった。書籍からの情報に偏ると、生徒にうまく伝えきれない部分があると感じた。



日本の伝統音楽の鑑賞というと、「退屈」「おもしろくない」というイメージを持つ生徒が多くなってしまいます。どうにかして、主体的に耳を傾け、どのような部分でもよいので中学生なりのよさや特徴を感じ取ってもらえ、将来の生活の中につながっていってくればという思いで授業開発に取り組んでいます。

今回、2年次よりこの事業に参加させて頂き、実演家の先生からお話をいろいろと伺ったり、他の学校の先生方と一緒に、教材や授業展開を考えたりできたことは、私にとって貴重な経験となりました。限られた授業時数の中で、多くのことを盛り込むことは難しいですが、今回の授業実践のようにねらいを絞って学習活動を進めることによって、今後も生徒の実態に合った様々な授業展開を考案することができると感じました。

私自身は、教材について勉強不足のまま今回の実践を進めてしまいましたので、今回の川丘先生が行ってくださった授業実践を参考にさせて頂きながら、もう少し教材案について練り直しをしていきたいと思えます。

森本 祥子

この事業を通して、たくさんの実演家の先生方と出会い、お話を聞くことができたことが私自身、勉強になった。実演家の先生方の箏への思いと学校では生徒に何を学ばせたいかを話し合う機会がもてたことも、大変意義のある取り組みであったと思う。

授業後も生徒たちの関心は高まっており、休み時間に生徒の前で実演家の先生に演奏していただいた。その時の音楽室の澄んだ空気感と箏の音色は普段と違った雰囲気鑑賞することができた。この授業を通して、生徒たちがさらに邦楽に興味をもってくれと感じた。

川丘 容子

学習指導要領に、中学校音楽科での和楽器の必修が定められてから十数年がたちました。当初は楽器の準備（購入の要望）すらままならず、どうすれば良いのかわからないまま、学校に1面ある箏での授業がはじまりました。年が経つにつれ、楽器の数も少しずつ増え、また近隣の学校との貸し借りをしながら、少しずつ軌道に乗ってきました。学校の中で和楽器の音が聞こえる状況が、めずらしいことではなくなってきたのだと感じることもできます。そして、生徒自身も、和楽器に触れることや、その音色を楽しむ活動はとていよいよ取り組んでいる姿が見られます。

今回の伝統音楽普及促進支援事業は、実演家の皆様と共に学校現場で実践できるプログラム作りをするということで気軽にお引き受けいたしました。これまでは教科書に掲載されている楽曲での鑑賞や、「さくらさくら」を弾くだけに終わっていた自らの授業実践からは、なかなか良いアイデアは浮かびませんでした。私たちのグループは中学校の鑑賞教材を考えることとなり、井内久美子先生に様々な曲を紹介していただき、作品についての解説、また実際に演奏もしていただきました。その中から今回の教材案ができあがりしました。古今組ってなに？前弾ってなに？和歌に詠われている内容は？…。私自身が勉強したこと、新しく知ったことがたくさんありました。川丘先生の授業実践にはあいにく参加できなかったのですが、プログラム案をもとに、素晴らしい実践がされた様子を紙面で拝見し、私自身もぜひ実践を試みたいという気持ちになりました。

残念ながら音楽の授業時数は本当に少ないのですが、その中で伝統音楽の良さを伝え、後世に受け継いでいくという大事な役割が私たち音楽教師にはあるのだと、改めて感じたところです。

田中 香苗

現場の先生方と共に、中学校の日本の伝統音楽の箏の鑑賞をいかにして生徒に教えるかという立場で活動してきました。古典音楽を実際に演奏している者としては、生徒達がどういふことに興味を持つか全くわからない状態で臨んだのですが、思ったより柔軟に、あるいは想像力豊かに鑑賞していたように感じました。その背景には、事前の「六段の調」の授業で、箏の音階や音色、手法といったものを学んでいたりと、先生と生徒の信頼関係があったりということがあったと思いました。

題材については、中学1年生では、国語で和歌をまだ習っていないとのことでしたが、中学2・3年生ならば、学習していなくてもある程度理解し、鑑賞の役に立つのではないかと思います。古人がこういう楽しみを持っていたことを知ってほしいとも思います。

井内 久美子

7 尺八ってどんな楽器？

執筆者 宮田 善夫（徳島県立阿南工業高等学校）

実演家 大西 晴一二（徳島県邦楽協会・琴古流尺八）

● 尺八の伝来

尺八の起源や楽器名の語源には諸説ありますが、唐代の中国で呂才という人が、基準の音を示す12本の縦笛を作った時に、一番低い音の笛の長さが唐代の尺度で一尺八寸だったことからその名前が生まれたと伝えられています。この尺八は、奈良時代に雅楽の楽器のひとつとして日本に伝えられました。聖徳太子も尺八を吹いたという記録がありますが、この尺八は次第に演奏されなくなりました。現在演奏されている尺八は、別系統の楽器と考えられています。現在演奏されている尺八は江戸時代になってさかんに演奏されるようになりました。さまざまな長さの楽器がありますが、一尺八寸（約54.5cm）のものが一般的によく用いられます。

● 尺八というネーミング

尺八（しゃくはち）という名前は、その長さが一尺八寸（いっしゃくはっすん・約54～55cm）であることから名付けられました。

● 尺八と虚無僧

江戸時代，僧や武士が禅（普化宗）の修行のために，お経の代わりに尺八を吹きました。この人たちを虚無僧（こむそ）といいます。



● 尺八の新しい世界

明治時代，普化宗が廃止されて，尺八の音楽は広がりを見せます。新しい流派が生まれ，尺八の新世界が繰りひろげられました。徳島県には，琴古流（きんこりゅう），竹保流（ちくほうりゅう），都山流（とざんりゅう）などが伝承しています。

● 本曲と外曲

本曲（ほんきょく）とは，尺八で演奏するためにつくられた曲のことです。外曲（がいきょく）とは，他の楽器のための曲を尺八と一緒に演奏する曲のことです。

外曲には，いろいろな合奏がありますが，箏（そう）・三味線（しゃみせん）と一緒に合奏することを三曲合奏（さんきょくがっそう）といいます。

さて、どこがちがうでしょう？



三曲合奏は，明治時代に，胡弓（こきゅう）から尺八（しゃくはち）に変わりました。

● 尺八の各部の名称

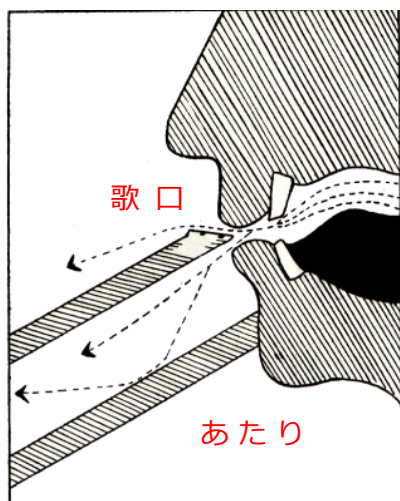
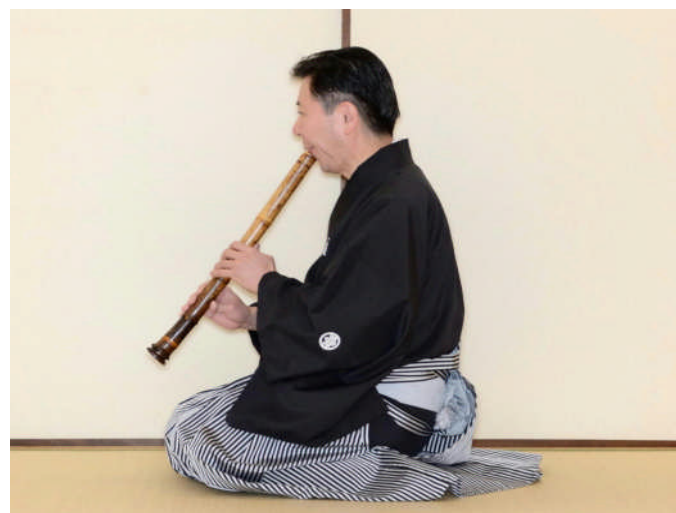


● 尺八の構えかたと基本奏法

右手の親指と中指で、尺八をささえます。

左手の親指で第五孔（裏孔）をふさぎます。

両手の小指はじゃまにならないよう、かるく上にのばしましょう。



尺八のあたりを、あごのくぼみにあてます。
唇は自然に閉じます。

息は、まっすぐ前へ出しましょう。

力をぬいて、自然に、ゆったり息を出しましょう。

音が鳴ったら…

♪あごを上げて、歌口を唇から離してみましよう。音が上がりましたか？それがカリ音です。

♪あごを下げて、歌口を唇に近づけてみましよう。音が下がりましたか？それがメリ音です。

● 尺八の譜本

流派によって、少しずつ記譜法がちがいます。

琴古流「六段の調」



六段の調 附点法大指物子 初編 初巻 佐藤晴美 著
学生社音楽出版部発行

六段の調の楽譜記号（五線譜）

竹保流「六段の調」




酒井竹保著 竹保流 尺八楽譜

深草校校作曲 六段の調 千調子 二倍りつり 千調子

尺八の楽譜記号（五線譜）

都山流「六段の調」



四代中尾都山著 都山流尺八楽譜 六段の調

六段調 (八橋校校作曲) 三線 二五三 千調子 二倍りつり 千調子

尺八の楽譜記号（五線譜）

● 尺八についてのQ & A

Q 1 どこで、どのくらいの価格で購入できますか？

A 1. 和楽器店や学校教材取扱い業者などで購入できます。一例ですが、インターネットで検索すると次のようになっています。(平成26年3月)

- ・尺八本体(木用) 20,000円 程度～
- ・尺八本体(プラスチック製) 40,000円 程度～
- ・尺八本体(竹製) 100,000円 程度～

付属品として、露通し、保管袋、譜見台(正座用)、譜面台(椅子奏用)などの購入を検討するといいでしょう。

Q 1 子どもが楽器を共同使用する場合、衛生管理はどのようにしたらいいですか？

A 2. 学校で共同使用する場合、衛生管理が一番気になる点だと思います。プラスチック製の場合は、市販の哺乳瓶用消毒液などで滅菌することができます。竹製の場合は、アルコール消毒綿などできれいに拭き取りましょう。

Q 2 尺八は、どのように保管するのがいいですか？

A 3. 管内の水気を拭き取ってビニール袋等に入れ、直射日光の当たらないところで保管します。乾燥して竹が割れるのを防ぐためです。時々、植物油やオリーブオイルを薄く塗り込んで保湿するといいでしょう。

Q 3 どのくらいの期間で吹けるようになりますか？

A 4. 小学校高学年くらいの場合、1時間の授業のうちに音が鳴るようになる子どもが半数くらいいます。「尺八をふいてみよう～1音からひろげよう～」(指導資料23)にあるようなわらべ歌の場合、3～4時間の練習で楽しめると思います。本格的な尺八の曲を吹けるようになるには、「首振り3年、コロ8年」といって、学校の課外活動や専門家の稽古に通って身に付ける必要があるでしょう。

Q 4 指の孔が5つしかないのに、ドレミの曲が吹けるのはどうしてですか。

A 5. あごを下げた音の高さを低くするメリ音、逆にあごを上げて音の高さを上げるカリ音や、指孔を半分だけ押さえたりすることによって、半音を含む12音階すべての音が出るようになります。(108ページ参照)

このような伝統音楽の普及促進事業に係る機会を与えていただいたことに感謝いたします。今回の事業を通じて、鳴門教育大学 理事兼副学長 西園芳信先生をはじめ、徳島県教育委員会 指導主事 新谷公子先生そして編集や運営に携われた徳島県邦楽協会 沢井箏曲院 遠藤綾子先生など多くの先生方にお世話になりました。特に、尺八の手引きの部では、徳島県邦楽協会 琴古流尺八 大西晴一二先生には、手引き書作成にあたり多くのことがらをご指導いただきありがとうございました。初めて尺八に触れる児童・生徒たちが興味・関心を持つてくれるのかという視点に立ち、大変貴重なご意見をいただいたこと、私自身も多くのことを学ばせていただくことができ、これからの教育活動に活かしていきたいと思えます。

伝統的な文化に触れる機会は、なかなか自然に訪れるタイミングは以前に比べると少なくなつたように思われます。授業を通じてそのような機会をつくり伝統的なことがらに少しでも触れる機会をつくり、将来グローバルな視点に立てるような人間力づくりの一助になれるとするならば幸いであると思えます。

宮田 善夫

今や、日本の伝統音楽を継承することに危機感が募っている矢先、文化庁より伝統音楽普及促進支援事業の委託を受け、学校教育における伝統音楽の指導方法・教材作成に実演家・教員・調整者が協働して合同研究する機会が与えられましたことに感謝を申し上げます。

3年間という長期に渡る合同研究に際しましては、ご指導頂きました講師先生と、ご活躍なさっています教員の皆様、また関係の皆様のご熱意ある研究成果が、個々教育現場の実態に即し、児童生徒に興味と関心の湧く教材となり、また、その内容が他の学力育成に結びつくという立派な指導教材が完成しましたこと誠に有り難うございました。

今後、完成されました指導教材をもとに、教育現場と実演家が調整者を仲立ちに協働し、実践していくことが使命であると強く思っています。

ご指導頂きました講師先生、ご研究いただきました諸先生、また、ご関係の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、今後とも皆様のご指導とご助力の程お願い申し上げます。

大西 晴一二

● 「尺八入門 ～1音からひろげよう～」

(指導資料23) 楽譜 [参考資料] 「尺八入門 ～1音からひろげよう～」

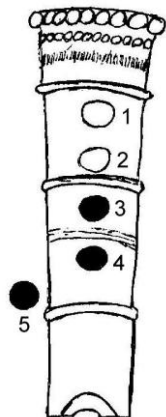
尺八入門

～ 1音からひろげよう ～



執筆者 佃 伸一 (元小学校教員・竹保流尺八)

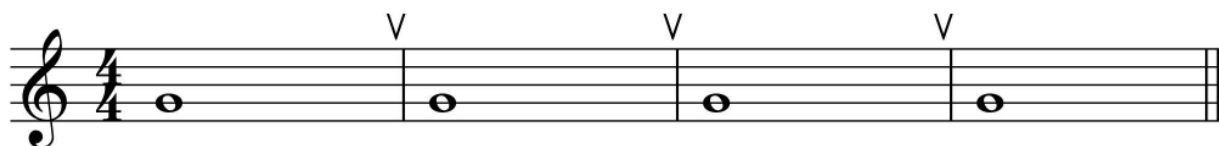
ソの音



3の穴：左手の薬指でふさぐ。
 4の穴：左手の人差し指でふさぐ。
 5の穴：左手の親指でふさぐ。

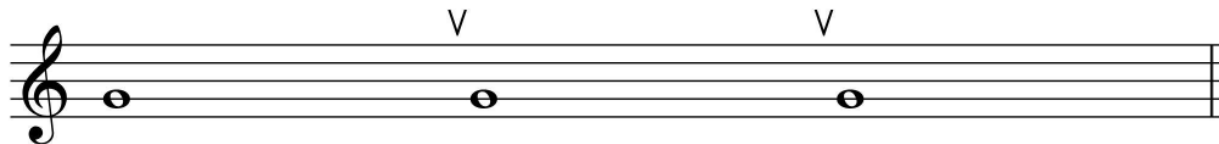
音を切るとき：3の穴をすばやく開けて閉める。

ソを出してみよう



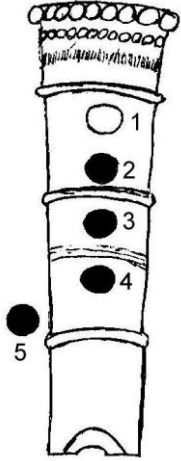
- リコーダーでは音の出し始めにタンギングをしますが、尺八ではタンギングをしません。息をフーと出しましょう。

本曲「風」



- 強く吹いたり弱く吹いたり、音をゆらしたりして、自分の風を自由に工夫しましょう。

ファの音



- 2の穴：右手の人差し指でふさぐ。
- 3の穴：左手の薬指でふさぐ。
- 4の穴：左手の人差し指でふさぐ。
- 5の穴：左手の親指でふさぐ。

音を切るとき：2の穴をすばやく開けて閉める。

ソとファの音を使って

たこたこあがれ

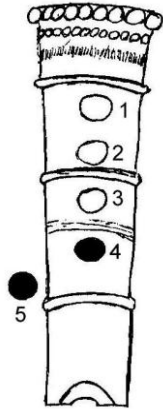


わらべ歌



たこたこあがれ てんまであがれ

ラ の音



4の穴：左手の人差し指でふさぐ。

5の穴：左手の親指でふさぐ。

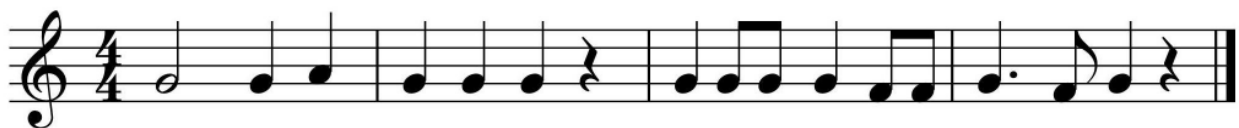
音を切るとき：4の穴をすばやく開けて閉める。

ソ と ファ と ラ の音を使って

あした天気になあれ

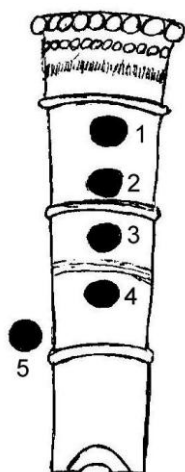


わらべ歌



ゆう や け こ や け あしたてんきになあれ

レの音



- 1の穴：右手の薬指でふさぐ。
- 2の穴：右手の人差し指でふさぐ。
- 3の穴：左手の薬指でふさぐ。
- 4の穴：左手の人差し指でふさぐ。
- 5の穴：左手の親指でふさぐ。

音を切るとき：2の穴をすばやく開けて閉める。

ソとファとラとレの音を使って

かごめ かごめ



わらべ歌



かごめ かごめ かごのなかの とりーは

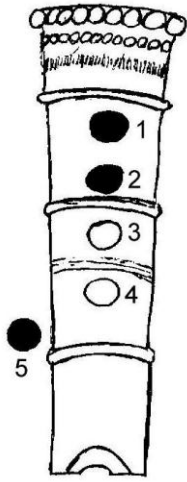


いついつ でやーる よあけの ばんに



つるとかめが すべった うしろのしょうめん だあれ

ドの音



1の穴：右手の薬指でふさぐ。
 2の穴：右手の人差し指でふさぐ。
 5の穴：左手の親指でふさぐ。

音を切るとき：5の穴をすばやく開けて閉める。

ソとファとラとレとドの音を使って

ひらいた ひらいた



わらべ歌



ひ らいた ひ らいた なんのはなが ひ らいた



れんげのはなが ひらいた ひらいたとおもったら



いつのまにか つーぼんだ

8 箏ってどんな楽器？

執筆者 米田 幸子（阿南市立羽ノ浦小学校）

実演家 吉崎 夕華（徳島県邦楽協会・日本当道音楽会所属）

● 箏の伝来

箏の起源は、**中国**の**秦**（紀元前221～206）にまで遡れるという説があります。唐（618-907）の時代に使われていた13本の弦をもつ箏が、**奈良時代**に**雅楽**の楽器のひとつとして日本に伝えられました。江戸時代になると、庶民の間でも演奏されるようになっていきました。

● 「こと」と「箏」と「琴」

「**こと**」は、我が国の**弦楽器を表す言葉**です。平安時代の文学作品にも、「きむのこと、さうのこと、びわのこと……」という記述があります。これは「琴のこと、箏のこと、琵琶のこと……」という意味です。また、「**コトを弾く埴輪の像**」のように、日本古来のコトもここに含まれます。

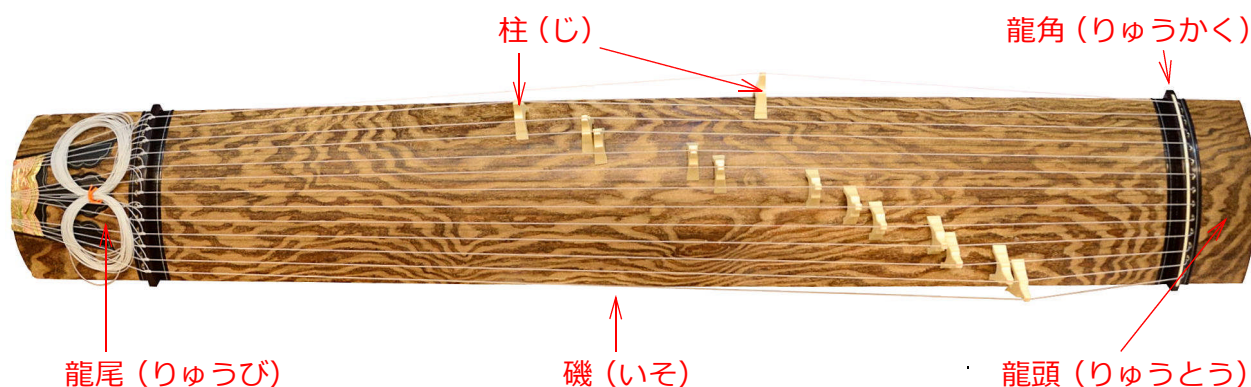
現在日本で「こと」と呼ばれている楽器は、「箏」あるいは「琴」と表記されますが、これは、長い間の言葉の混用から生じたもので、もともと「箏」と「琴」は別の楽器を表しています。

「**箏（そう）**」は、**柱（じ）**を立てて、その位置によって音の高さを調律する楽器です。現在「こと」と呼ばれている楽器は、箏のことです。13本の弦をもつ楽器が標準ですが、明治以降、十七弦、二十五弦など弦数の多い箏も作られています。

「**琴（きん）**」は、**柱（じ）**を使わず、弦の上を指で押さえることによって、音の高さを変えて演奏する楽器です。琴も**奈良時代**に**中国**から伝来し、平安貴族に愛されましたが、平安末期には廃れていきます。江戸時代に琴楽は再興され、儒学者や大名などに愛好されました。

● 箏の各部の名称

箏の各部の名称は、中国の伝説上の生きものである龍になぞらえてつけられています。弦を丸めてまとめた方が「龍尾（りゅうび）」、反対側が「龍頭（りゅうとう）」です。



箏は、1面（めん）、2面（めん）・・・と数えます。

● 箏の弦について

弦は、全部で13本です。

遠くから手前に向かって、一～十、続いて斗（と）、為（い）、巾（きん）と呼びます。



● 箏を弾くための準備

右手で弦を持ち上げ、左手で柱（じ）を差し入れて、立てていきます。（⇔はずし方）

箏柱が倒れないよう、箏柱の下の方をしっかりと持ちましょう。



巾だけ柱（じ）の形が違います。

琴台（きんだい）を、龍頭の下に敷きます。

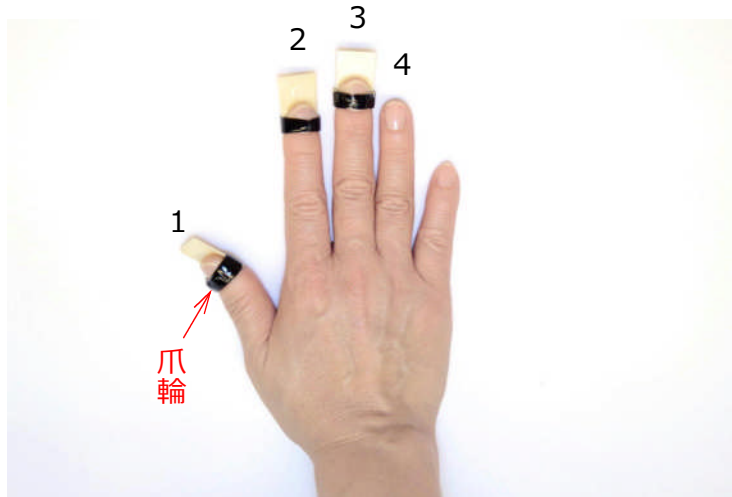


● 箏爪のつけ方

箏爪（つめ）は、右手の3本の指につけます。

指番号は、親指が1，人差し指が2，中指が3，薬指が4です。

生田流の箏爪は、角爪（かくづめ）です。



箏爪をつける時は…

- 指の大きさに合った箏爪を選びます。
- 自分の爪の根元に、爪輪（つめわ）がしっかりとまるようにつけます。
- 自分専用の箏爪の場合は、少し指をなめてから差し込みます。貸出用の箏爪の場合は、スポンジに含ませた水を、指にほんの少しつけて、しめらせるとよいでしょう。
- さらに抜けにくくするために、卵の白身を爪輪に薄くつける場合もあります。

● 調弦の合わせ方

楽曲に合わせて、箏柱を動かして調弦（ちょうげん）をします。

様々なものがありますが、本書では、次の調弦法を使います。

花雲調子（はなぐもちょうし） = 民謡音階

「なべなべそこぬけ」「かりかりわたれ」など



平調子（ひらちょうし） = 都節音階

「さくらさくら」「子もり歌」など



※ ただし、伝統的には、実音を2度下げて調弦します。（五＝D）

● 箏の基本奏法

生田流（いくたりゅう）の座り方です。

箏爪の角が使いやすいように、少しななめに座りましょう。

徳島県には、生田流の箏曲のみが伝承しています。

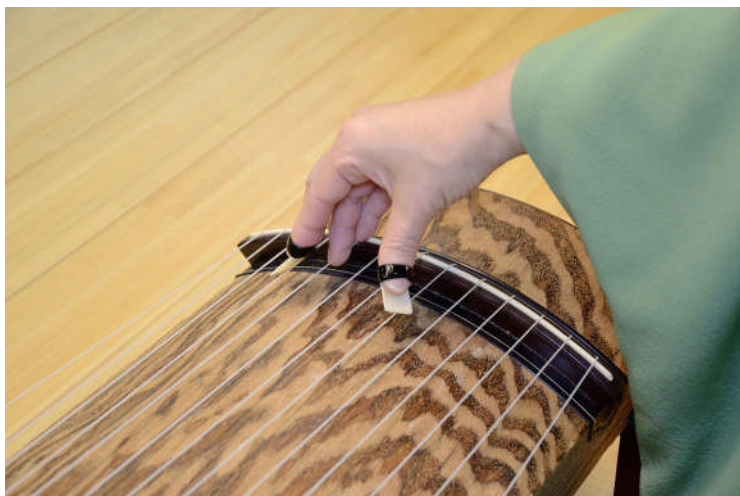


薬指は、弦につかまって支えます。

親指の箏爪の角を使って、向こうの弦に向かって押し出します。

弾いた後は、次の弦で止まります。

左手は、箏柱の左側に軽く添えておきましょう。



● 口唱歌（しょうが）

口唱歌（しょうが）とは、箏や三味線の教習のために、旋律やリズムを口で唱えることをいいます。

親指で弾く時は「**テン**」、中指で弾く時は「**トン**」と唱えることが多いです。そのほか、特定の音型を表す「**コロリン**」や「**サラリン**」、音色を擬声的に表す「**シュー**」「**ズーズー**」「**シャン**」などがあります。

● 箏の持ち方・立てかけ方・しまい方

磯（いそ）の部分を、両手で持ちます。

弦を自分側に向けて持つのは、ぶつけて箏柱を倒したりしないためです。



龍頭が下，龍尾が上になるように立てかけます。

重ねる場合は，3面までにしましょう。



カバーに合わせて，龍頭が下，龍尾が上になるように，片付けましょう。



● 箏についてのQ & A

Q 2 どこで、どのくらいの価格で購入できますか？

A 1. 和楽器店や学校教材取扱い業者などで購入できます。後のメンテナンスを考えると、地元の和楽器店で購入されることをおすすめします。一例ですが、インターネットで検索すると次のようになっています。(平成26年3月)

- ・ 箏本体 (学校用) 40,000円 程度 ~
- ・ 箏爪 1組 (学校用) 2,800円 (象牙)・1,800円 (プラスチック) 程度~
- ・ 箏カバー 7,000円 程度 ~
- ・ 立奏台 12,000円 程度 ~
- ・ 譜面台 2,000円 ~ 4,000円 程度

Q 3 学校の予算が少ないのですが、その他の入手方法はありませんか？

A 2. 保護者やPTAに働きかけ、使わなくなったものを譲り受けると、弦を替えるだけで使用できる場合もあります。また、地域向けの広報に出して募る方法も考えられます。

Q 4 授業時間確保のため、箏柱を立てたまま置くことはいけませんか？

A 3. 弦が伸びてしまうのでよくないのですが、毎時間、箏柱を立てたりはずしたりするゆとりが学校現場にはありません。箏を学習で使う期間は箏柱を立てたまま、音楽室等の壁面に立てかけておくといいと思います。

Q 5 保管の方法は、どのようにすればいいですか？

A 4. 箏柱を立てたまま置く場合でも、箏柱をはずして保管している場合でも、龍頭を下にして、壁際に斜めに立てかけてください。箏カバーに入れる際は、カバーのネームプレートと箏の龍尾が同じになるようにします。

Q 6 弦が切れてしまった時は、どのようにすればいいですか？

A 5. 和楽器店で糸締めをしてもらいます。状態にもよるのですが、全部締め直してもらおうと3,000円程度~、新しい弦に掛け替えてもらおうと10,000円程度~です。扱いに慣れてくると、和楽器店に出さなくても糸締めができるようになる方もあります。

Q 7 箏爪の選び方はどのようにすればよいですか？

A 6. 和楽器店で扱っている箏爪が音色も使い勝手もよく、学校現場で扱いやすいものとなっています。爪輪(爪袋)は多めに買って置き、傷んだら新しいものと取り替えます。市販の木工用ボンドで修理します。

私は、日本人であるのに日本の伝統的な楽器を演奏できない、したこともない教員だった。さらに、そのことに何の疑問も持っていなかった。これまでの教育現場では、それがむしろ普通で、和楽器を扱える教員のほうが圧倒的に少なかった。しかし、考えてみれば、それは不思議なことであり、不自然なことであると気づかせていただいた・・・。

今回、伝統音楽を奏で伝えてきた邦楽協会の先生方と学校現場の教員がともに協力しあって、よりよい学校音楽教育のために教材を作成するという事業がなされることになり、本当にうれしかった。大げさに表現することを許していただくなら、「時代が動いていることを実感した。」という気持ちになった。今までは音楽授業のなかで、実践したくても簡単にはできず、あきらめていた和楽器演奏が、実演家の先生方の協力により、実現できるという環境が整えられてきたということになる。このことは子どもたちが心豊かに育つことにも深くしっかりとつながっている。

これを機会に、私も実演家の先生方の協力を得て小学校6年生、4年生において、箏の授業を実践してみた。春には春の、秋には秋の音色がしたように感じた。そして、この風土の中で育んできた音色や調べは、いつも子どもたちの心に響いていると思った。

これから初めて学校に和楽器を取り入れていこうと考えていらっしゃる学校の先生方が、『箏ってどんな楽器？』のコーナーや実践事例などをご覧になり、少しでも勇気を出してそのハードルを越えてみようかと考え、実践していただければ、こんなにうれしいことはない。そのことを心から願っている。

米田 幸子

“箏ってどんな楽器？”を作成するにあたり、どのように表現すればよくわかり、簡潔に表せるかということに重点をおきました。あまり詳しく説明するとよけいわかりにくくなることや、私達実演家が日頃使っている言葉でも、教師の方や子ども達にははじめて聞く言葉であるということあらためて気付かされました。

また、「さくらさくら」の曲ひとつとっても、調弦を従来の箏・尺八の音階に合わせるか、教科書にそった音階に合わせるか悩みました。学校現場においても、調弦という点が問題になってくるように思いました。

吉崎 夕華

● 「おこと入門 ～1音からひろげよう～」

(指導資料24) 楽譜 [参考資料] 「おこと入門 ～1音からひろげよう～」

おこと 入門

～ 1音からひろげよう ～



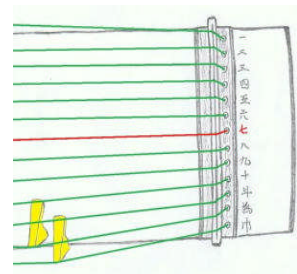
執筆者 遠藤 綾子 (徳島県邦楽協会・沢井箏曲院)

わらべうたの音階で、日本に伝わるわらべ歌をひいてみましょう。
 ここでは、伝統的な調弦（五 = D）に音を合わせます。

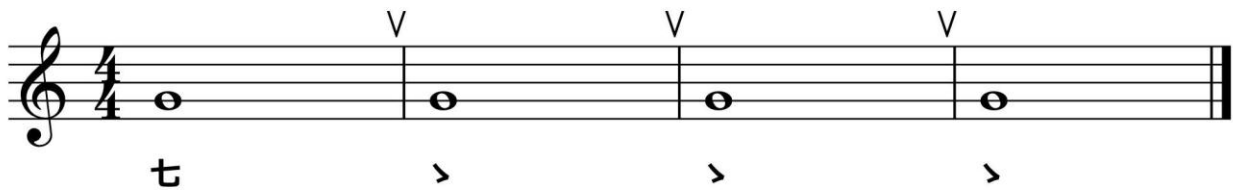
花雲調子（民謡音階）



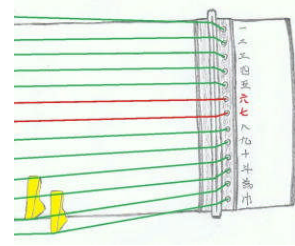
ソの音



ソを出してみよう



ソとファの音を使って



たこたこあがれ



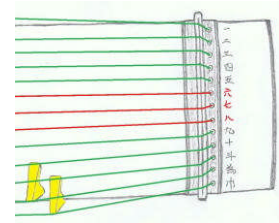
わらべ歌



たこたこあがれ てんまであがれ
七六七六 七 > > 七 > 六 > 七 > >

♪ たとえば [こんな伴奏を使うと](#) [こんな感じ](#) になります。

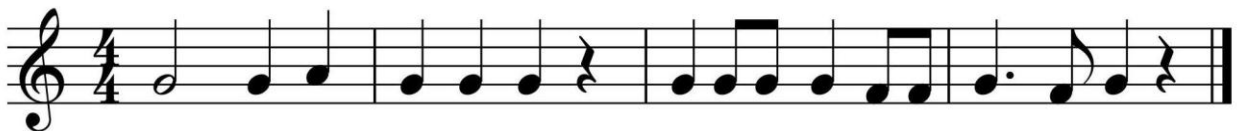
ソとファとラの音を使って



あした天気になあれ



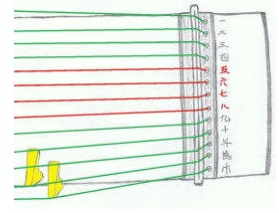
わらべ歌



ゆう やけ こやけ あしたてんきになあれ
七 七八 七 > > 七 > > 七六 > 七六七

♪ たとえば [こんな伴奏を使うと](#) [こんな感じ](#) になります。

ソとファとラとレの音を使って



かごめかごめ



わらべ歌



かごめかごめかごのなかのとりには
七七八七>>七>>七六>七七六五



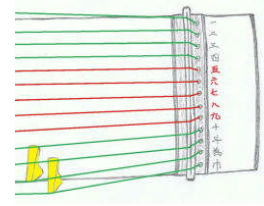
いついつでやーるよあけのぼんに
七六七六七七六五七>>八七>>



つるとかめがすべったうしろのしょうめんだあれ
七六>七六>七七六五七>>>七八七六七

♪ たとえば [こんな伴奏を使うと](#) [こんな感じ](#) になります。

ソとファとラとレとドの音を使って



ひらいた ひらいた



わらべ歌



七 七 六 七 七 六 五 七 六 七 八 七 七 六 五
ひ ら い た ひ ら い た な ん の は な が ひ ら い た



七 > > 八 七 七 六 五 七 > 六 > > > >
れ ん げ の は な が ひ ら い た ひ ら い た と お も つ た ら



八 > 九 八 七 八 七 六 > 七
い つ の ま に か つ - - ぼ ん だ

♪ たとえば [こんな伴奏を使うと](#) [こんな感じ](#) になります。

引用・参考文献

- (1) 三塚幸彦 (2010~2014) 「目から鱗の尺八上達術」『邦楽ジャーナル』(Vol.276-325)
- (2) 小泉文夫 (1994) 『音楽の根源にあるもの (平凡社ライブラリー)』平凡社
- (3) 小島美子 (1997) 『音楽からみた日本人』(NHKライブラリー) 日本放送出版協会
- (4) 釣谷真弓 (2000) 『おもしろ日本音楽史』東京堂出版
- (5) 中村明一 (2010) 『倍音 : 音・ことば・身体への文化誌』春秋社
- (6) 柴田南雄 (1983) 『楽器への招待』新潮文庫
- (7) キャロル・マホーニー/ダニー・スティーブル (1993) 『音楽のはじまり4管楽器のはやし』リブリオ出版
- (8) 岡田富士雄(2001) 『虚無僧の謎-吹禅の心』秋田文化出版
- (9) 泉武夫 (2013) 『竹を吹く人々-描かれた尺八奏者の歴史と系譜』東北大学出版会
- (10) 東洋音楽学会 (1967) 『箏曲と地歌』音楽之友社
- (11) 松沢冬秀 (2001) 『箏曲歌謡解説 (増補改訂)』邦楽社
- (12) 田口尚幸 (2009) 『箏曲地歌五十選 歌謡解説と訳』邦楽ジャーナル
- (13) 宮崎まゆみ (2009) 『箏と箏曲を知る事典』東京堂出版
- (14) 国立教育政策研究所 『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料 (中学校 音楽)』教育出版
- (15) 『教師用指導書小学音楽音楽のおくりもの6研究編』
- (16) 山内雅子・大原啓司(2002) 『授業や音楽会ですぐに使える楽しい箏楽譜集』音楽之友社
- (17) 水野利彦(1994) 『おことはじめ』大日本家庭音楽会
- (18) 小島美子 (監修) (2008) 『日本の伝統芸能講座』淡交社
- (19) 田中健次(2008) 『図解 日本音楽史』東京堂出版
- (20) 安藤政輝(1986) 『生田流の箏曲』(講談社) 1986
- (21) NHK邦楽技能者育成会テキスト編纂委員会 (2000) 『演奏家のための日本音楽の理論と実践』
- (22) 平野健次・上参郷祐康・蒲生郷昭 (監修) (1989) 『日本音楽大事典』平凡社
- (23) 三谷陽子 (1980) 『東アジア琴・箏類の研究』全音楽譜出版社
- (24) 美馬三八子 (2009) 『小学校音楽科教育における箏の教材開発に関する研究—「わらべうた」を素材として—』2008年度鳴門教育大学大学院修士論文
- (25) 遠藤綾子(2010) 『音楽科授業で箏を指導するためのメロードの開発』2009年度鳴門教育大学大学院修士論文
- (26) 文部科学省 (2000) 『小学校学習指導要領解説音楽編』教育芸術社
- (27) 文部科学省 (2000) 『中学校学習指導要領解説音楽編』教育芸術社
- (28) 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説芸術編』HP(2009.12.1更新)
- (29) 教育出版 『小学音楽 音楽のおくりもの1 教師用指導書 研究編』教育出版
- (30) 教育出版 『小学音楽 音楽のおくりもの2 教師用指導書 研究編』教育出版
- (31) 教育出版 『小学音楽 音楽のおくりもの3 教師用指導書 研究編』教育出版
- (32) 教育出版 『小学音楽 音楽のおくりもの4 教師用指導書 研究編』教育出版
- (33) 教育出版 『小学音楽 音楽のおくりもの5 教師用指導書 研究編』教育出版
- (34) 教育出版 『小学音楽 音楽のおくりもの6 教師用指導書 研究編』教育出版
- (35) 教育出版 『中学音楽1 音楽のおくりもの 教師用指導書 解説編』教育出版
- (36) 教育出版 『中学音楽2・3上 音楽のおくりもの 教師用指導書 解説編』教育出版
- (37) 教育出版 『中学音楽2・3下 音楽のおくりもの 教師用指導書 解説編』教育出版

◆資料音源

(38) 野村正峰 (2008) 『現代箏曲名曲選8 野村正峰作品集』ビクターエンターテイメント(株)

1. 「胡笳の歌」

演奏／野村祐子・野村秀子・野村峰山

(39) 清水美穂 (2013) 教材案⑩ 『身のまわりの様子を箏で表現しよう』(指導資料15)

2. 「海」

3. 「雨の日」

4. 「卒業式」

演奏／内田道子 (徳島県邦楽協会)

(40) 吉沢検校 『古今組』より

5. 「春の曲」前弾部分 (1分37秒)

6. 「夏の曲」前弾部分 (1分46秒)

7. 「秋の曲」前弾部分 (37秒)

8. 「冬の曲」前弾部分 (2分35秒)

演奏／井内久美子 (徳島県邦楽協会)

(41) 佃伸一 (2013) 参考資料 『尺八入門 ～1音からひろげよう～』(指導資料23)

9. 「ソを出してみよう」

10. 「たこたこあがれ」

11. 「明日天気になあれ」

12. 「かごめかごめ」

13. 「ひらいたひらいた」

演奏／清水露保 (徳島県邦楽協会)

(42) 遠藤綾子 (2013) 参考資料 『おこと入門 ～1音からひろげよう～』(指導資料24)

14. 「ソを出してみよう」

15. 「たこたこあがれ」

16. 「明日天気になあれ」

17. 「かごめかごめ」

18. 「ひらいたひらいた」

演奏／遠藤咲季子 (徳島北高等学校)

伝統音楽普及促進支援事業を終えて

ある小学校の授業に伺った時のことです。元気な子ども達の声に混じって、どこからか箏の音がきこえてきました。好きな時にいつでもさわることができるようにと、先生が教室にお箏を用意され、子ども達が集まって探り弾きをしているのです。聞けばその子達は休み時間に集まっては音遊びをし、今日はお箏の先生が来る！と楽しみに待っていてくれたとのこと。そのために、その学校ではどこからともなくポロンポロンと箏の音がきこえ、気のせいかなと一段と柔らかい空気が漂い、学校全体がほっとする雰囲気になっていました。

本事業は、3年前、当時の杵屋佐篠会長の強い思いから始まりました。それを受けて、思いがけず大西晴一二副会長・猪井恵朱三曲部門長から事業運営を仰せつかり、要項を読んで、取り組もうとしていることの大きさに考え込みました。学校教育という最も大切な分野にかかる事業であり、心の中に迷いを持ったまま、恩師である鳴門教育大学の西園芳信先生を訪ねました。先生は、学校教育における日本伝統音楽教育の様相が大きく動いているこの何十年余にわたって、文部科学省中央教育審議会の専門委員として、また学習指導要領解説の執筆協力者として、我が国の学校音楽教育の仕事に深く携われ、伝統文化教育の充実に揺るぎない信念を持っておられます。先生は、それはとても大切なことだから是非とも皆の力を合わせて推し進めるようにと、多忙を極める現場の教員の先生方にお声かけくださり、邦楽の継承に熱い思いを持った当協会役員とともに、事業スタートとなりました。

事業を進めるにあたっては、3年計画を立てました。1年目は県内学校の現状と課題を把握するための調査の年、2年目は教員と実演家を合わせた小チームを編成して教材案を作成する年、3年目は作成した教材を用いて協力校で授業を実施する実践研究の年としました。1年目は、教員の先生方と当協会役員の計27名が一同に会し、活発な意見交換がなされました。ここでは、学校で和楽器の授業をする際の楽器調達等の現実的な問題から、カリキュラムの編成、教員の知識や技能の不足まで、幅広い課題が明らかになりました。2年目はこれらを踏まえて小チームに分かれ、各学校で和楽器の授業をする場合、どのような授業をしたいかということに視点をおいて教材作成に取り組み、20案が提案されました。3年目には、協力校9校において、実際の子ども達を目の前に、作成した教材を用いて授業を実施しました。その結果については報告の通りです。

3年間の事業を振り返って感じる成果は、教材の提案や実践研究の報告は勿論、よりよい教材作成のために教員の先生方と実演家がともに知恵を出し合い、心を通い合わせたことだと思えます。よくあることですが、学校の先生が実演家に和楽器の授業を依頼する時、「おまかせします」とおっしゃいます。すると私達は、学校教育で何を求められているかをよく理解しないまま、聴かせることや演奏させることに夢中になって子ども達に教えます。けれども、私達は本事業を通して、学校という場で先生方が子ども達にどのようなことを伝えようとしているのか、そのために先生方がどのような工夫をして教え導こうとしておられるのかを学びました。今後は、築いた関係の上に乗って、両者の立場からよりよい授業づくりに参加していけると思えます。

本事業の推進にあたっては、西園芳信先生はじめ、研究と執筆にご尽力くださった教員の先生方、そのほかたくさんのご指導・ご助力をいただきました。とりわけ、徳島県教育委員会から新谷公子指導主事、小笠原仁美前指導主事に心のこもったご指導をいただきました。教員の先生方の本務との兼ね合いも配慮されながら、さぞかしご心配だったことと存じます。しかしながら、音楽科の教員が飛びつくような、時代の流れに即した伝統音楽の教材作成をとあたたかい目で見えていただき、公務にお忙しいなか丁寧にご指導と励ましをいただきました。また、宮城教育大学の小塩さとみ先生には、非常に厳しい日程のなか貴重な時間を割いて、日本音楽の専門家として、私どもの拙い文章の校閲に快くあたってくださいました。心より御礼を申し上げます。

最後に、当協会員ではありますが、子ども達の喜ぶ顔が見たい一心から、今日はこちら明日はあちらと楽器をかかえて奔走され、よりよい教材作成のために長年の経験と知識を注がれた実演家の先生方、危なっかしい仕事ぶりを大きく構えて見てくださった浅香寿穂会長、心強い裏方として支えていただいた島本美保先生のご尽力がなければ、この事業を推進することはできませんでした。

皆様の力をもちまして、日本中の学校から、元気な子ども達の声とともに和楽器の音色がきこえてくる時代が到来することを確信して、編集後記といたします。

平成26年3月
遠藤 綾子

伝統音楽普及促進支援事業
教材作成研究委員会

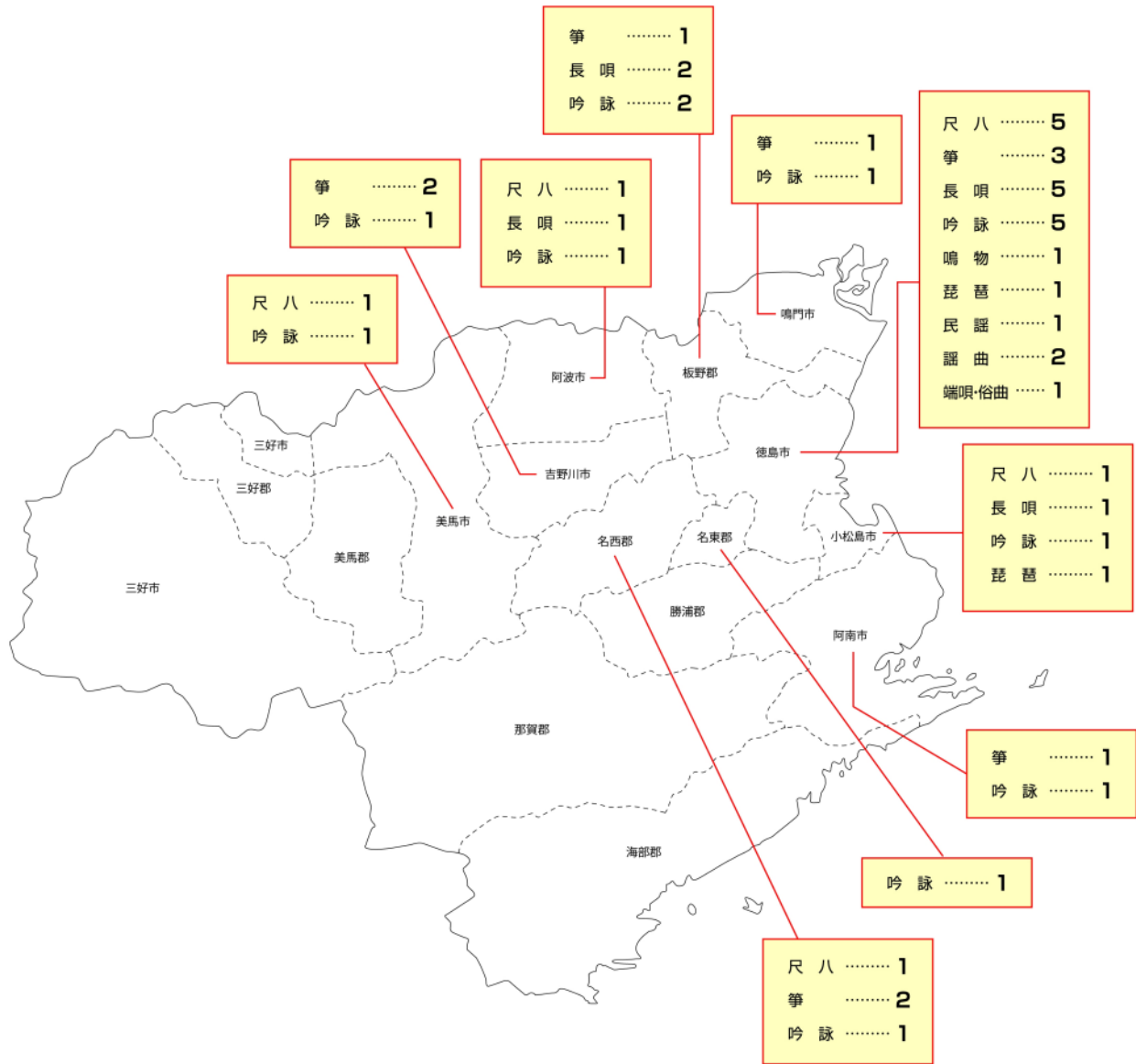
研究委員

- ◆尺八分科会 小川 雅功 (徳島市加茂名南小学校)
佃 伸一 (元小学校教員・竹保流尺八)
宮田 善夫 (徳島県阿南工業高等学校)
大西 晴一二 (徳島県邦楽協会・琴古流尺八)
清水 露保 (徳島県邦楽協会・竹保流尺八)
西野 笙保 (徳島県邦楽協会・竹保流尺八)
山上 明山 (徳島県邦楽協会・都山流尺八)
- ◆箏曲分科会 板垣 尚子 (阿波市立伊沢小学校)
小笠原 仁美 (美馬市立穴吹中学校)
沖津 陽子 (阿波市立市場小学校)
金山 由美 (阿波市立久勝小学校)
川丘 容子 (徳島市北井上中学校)
清水 美穂 (石井町高原小学校)
田中 香苗 (美波町立日和佐中学校)
丸與 直子 (徳島市徳島中学校)
美馬 三八子 (阿波市立八幡小学校)
森本 祥子 (鳴門教育大学附属中学校)
米田 幸子 (阿南市立羽ノ浦小学校)
猪井 恵朱 (徳島県邦楽協会・日本当道音楽会所属)
井内 久美子 (徳島県邦楽協会・美乃里会)
内田 道子 (徳島県邦楽協会・宮城会)
藤本 雅登伎 (徳島県邦楽協会・正派邦楽会)
吉崎 夕華 (徳島県邦楽協会・日本当道音楽会所属)
- 指導助言 西園 芳信 (鳴門教育大学 理事兼副学長)
小塩 さとみ (宮城教育大学 教授)
新谷 公子 (徳島県教育委員会 指導主事)
小笠原 仁美 (前 徳島県教育委員会 指導主事)
- 推敲委員 小塩 さとみ (宮城教育大学 教授)
新谷 公子 (徳島県教育委員会 指導主事)
小笠原 仁美 (前 徳島県教育委員会 指導主事)
大西 晴一二 (徳島県邦楽協会・琴古流尺八)
遠藤 綾子 (徳島県邦楽協会・沢井箏曲院)
- 編集・運営 遠藤 綾子 (徳島県邦楽協会・沢井箏曲院)
島本 美保 (徳島県邦楽協会・当道音楽会)
- 監 修 西園 芳信 (鳴門教育大学 理事兼副学長)
- 主 催 徳島県邦楽協会
委 託 文化庁
後 援 徳島県教育委員会
徳島県音楽教育研究会 (小学校・中学校・高等学校 各部会)

(敬称略)

この事業は、平成23～25年度に実施されました

徳島県邦楽邦楽協会 実演家マップ



徳島県邦楽協会の実演家マップです。

最新の情報は徳島県邦楽協会の公式ホームページをご覧ください。

<http://hougaku-tokushima.net/front/>